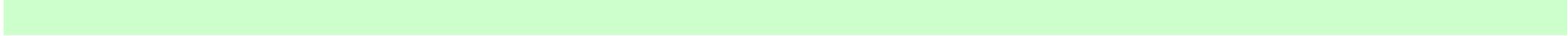


**天塩川流域における魚類の生息環境保全
及び移動の連続性確保について**



**令和7年度
天塩川流域における魚類の移動の連続性確保に
向けた取組み状況について**

天塩川水系における魚類の移動の連続性について

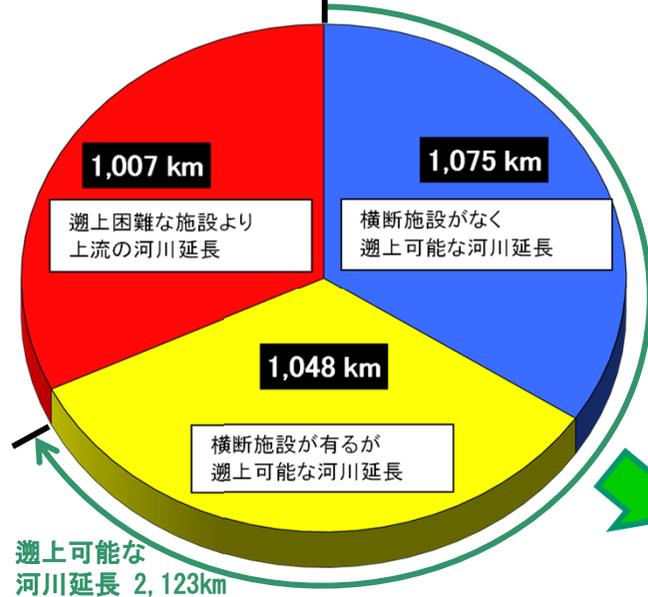
【天塩川流域全体での取り組み状況】

「天塩川における魚類等の生息環境保全に関する中間取りまとめ(平成21年4月13日)」(以下「中間取りまとめ」という)において策定した魚道施設整備(案)をもとに、関係各機関が連携のうえ、魚道の新設や改善を行っている。

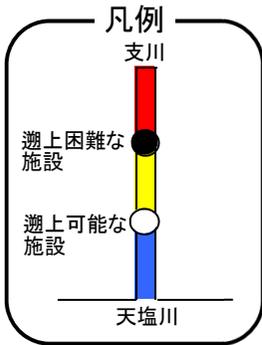
令和7年度は工事中(令和8年度完成予定)のため改善延長は0km。

【当初】

(平成20年11月データを一部更新)

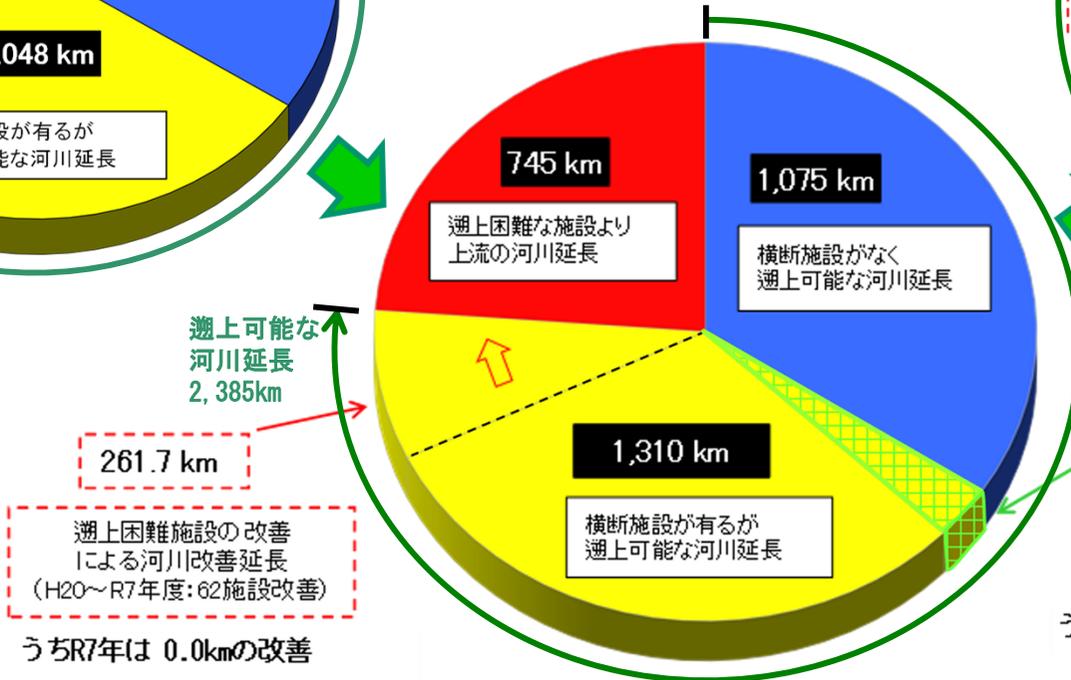


遡上可能な河川延長 2,123km



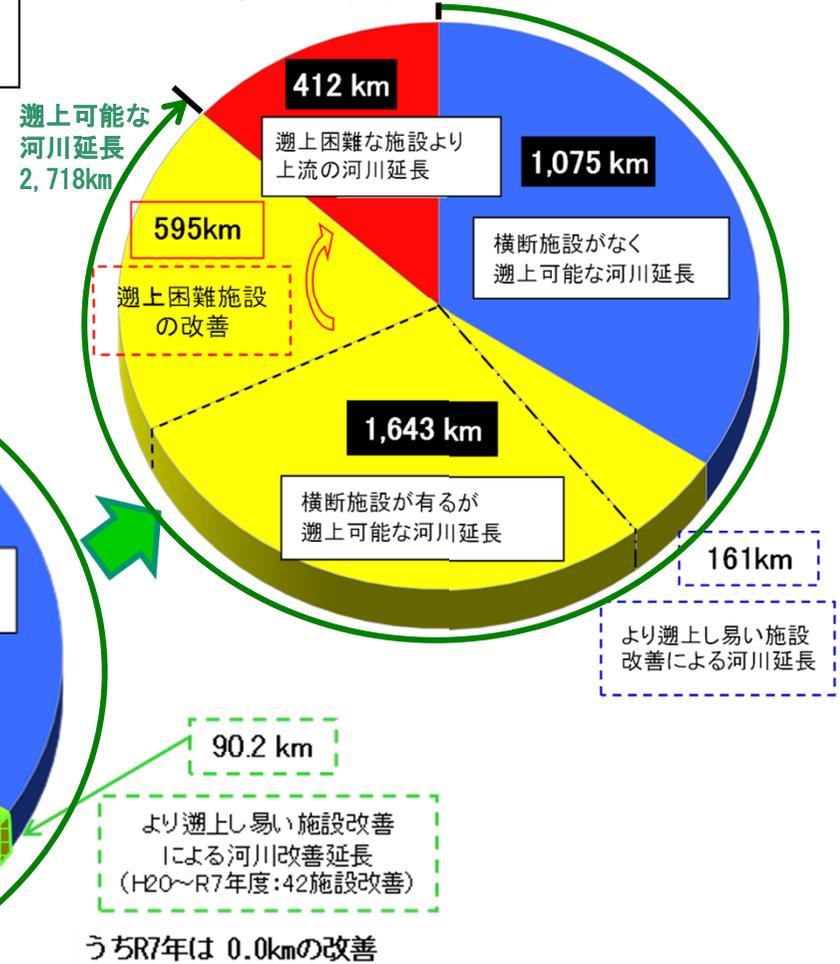
河川総延長(支川): 3,130km
総施設数: 1,254か所

【令和7年度末予定】



【将来】

効果的な施設整備(案)



天塩川水系における魚類遡上環境改善実績図

※「より遡上し易い施設改善」とは、魚道下流端の落差を小さくするなど、魚類等が遡上し易いよう既設魚道の改善を行うこと。

【令和7年度実施箇所】



新生川 No3床固工
魚道新設(R6~8年で整備予定)

凡例

【横断工作物の区分】

- 遡上可能(魚道あり、又は魚道なしで落差小)
- 遡上困難(魚道なしで落差大)

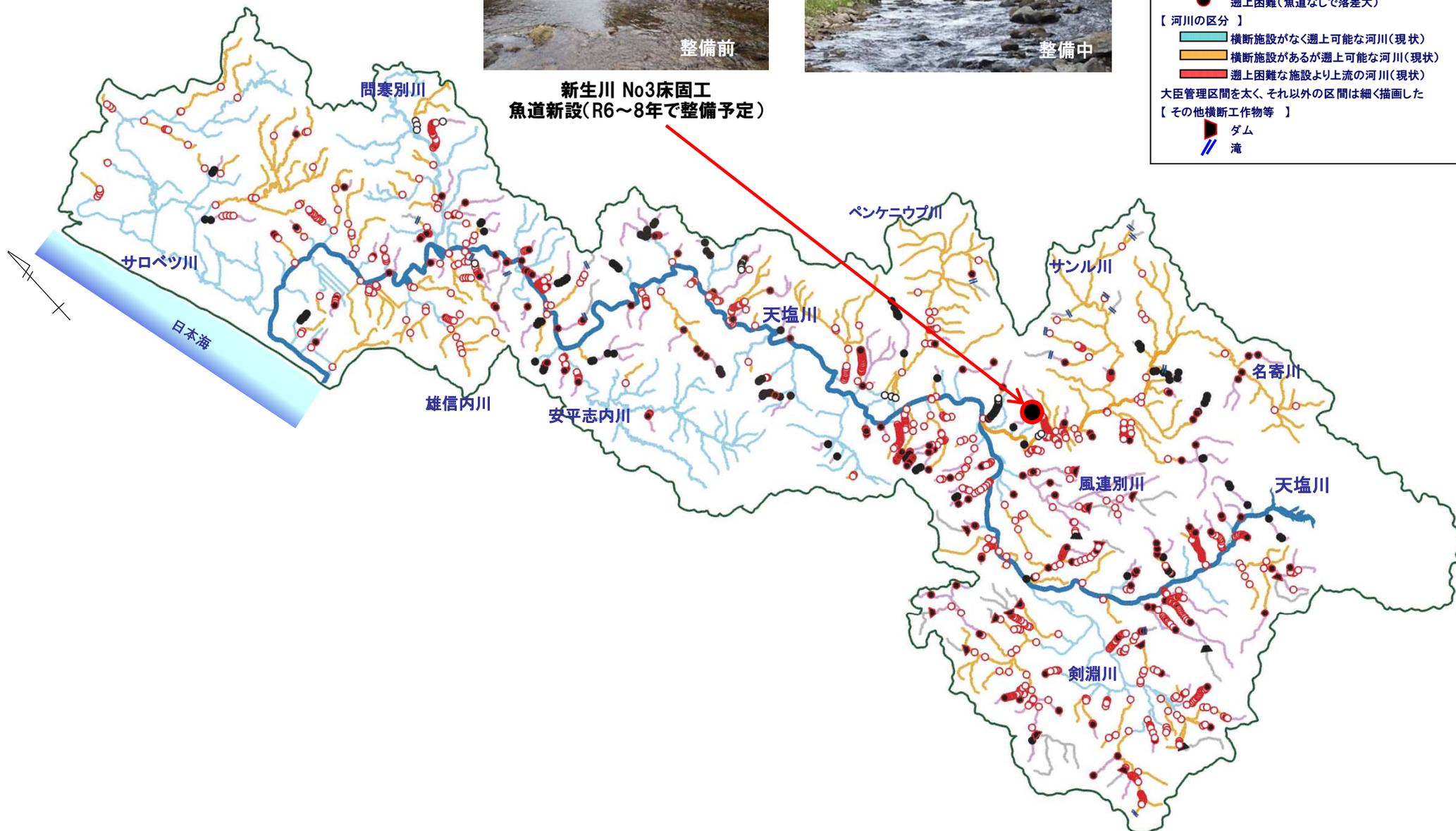
【河川の区分】

- 青線 横断施設がなく遡上可能な河川(現状)
- 黄線 横断施設があるが遡上可能な河川(現状)
- 赤線 遡上困難な施設より上流の河川(現状)

大臣管理区間を太く、それ以外の区間は細く描画した

【その他横断工作物等】

- ▲ ダム
- /// 滝

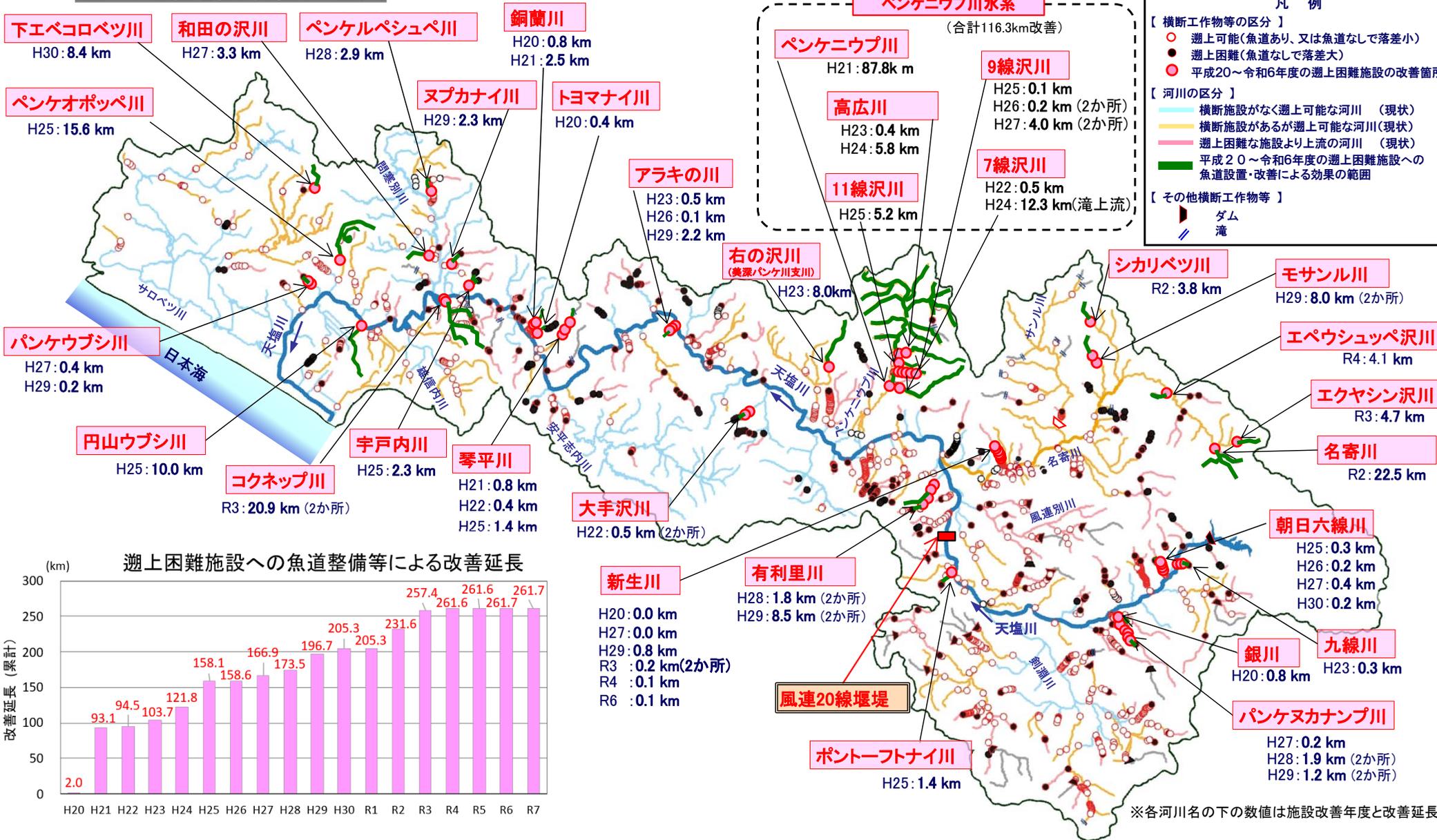


天塩川水系支川における「遡上困難施設」の改善実施状況

・天塩川水系では魚類等の移動の連続性確保のため、関係各機関が連携をして魚道整備等による遡上困難施設の改善を実施しており、支川では平成20年度～令和7年度の間62施設で整備され、河川延長合計261.7km ※1の遡上環境の改善※2が行われた。
 ・そのうち、ペンケニウブ川水系は116.3kmの改善が行われ、ペンケニウブ川水系以外は145.4kmの改善が行われた。

(※1: 新生川No.3床固工の魚道(施工中は、R7年完成予定のためR6年の改善延長には計上しない。)
 (※2: 遡上可能な施設を、より遡上しやすいように落差等を改善した施設は除く)

遡上困難施設改善位置図



天塩川水系支川における「より遡上し易い施設改善」の実施状況

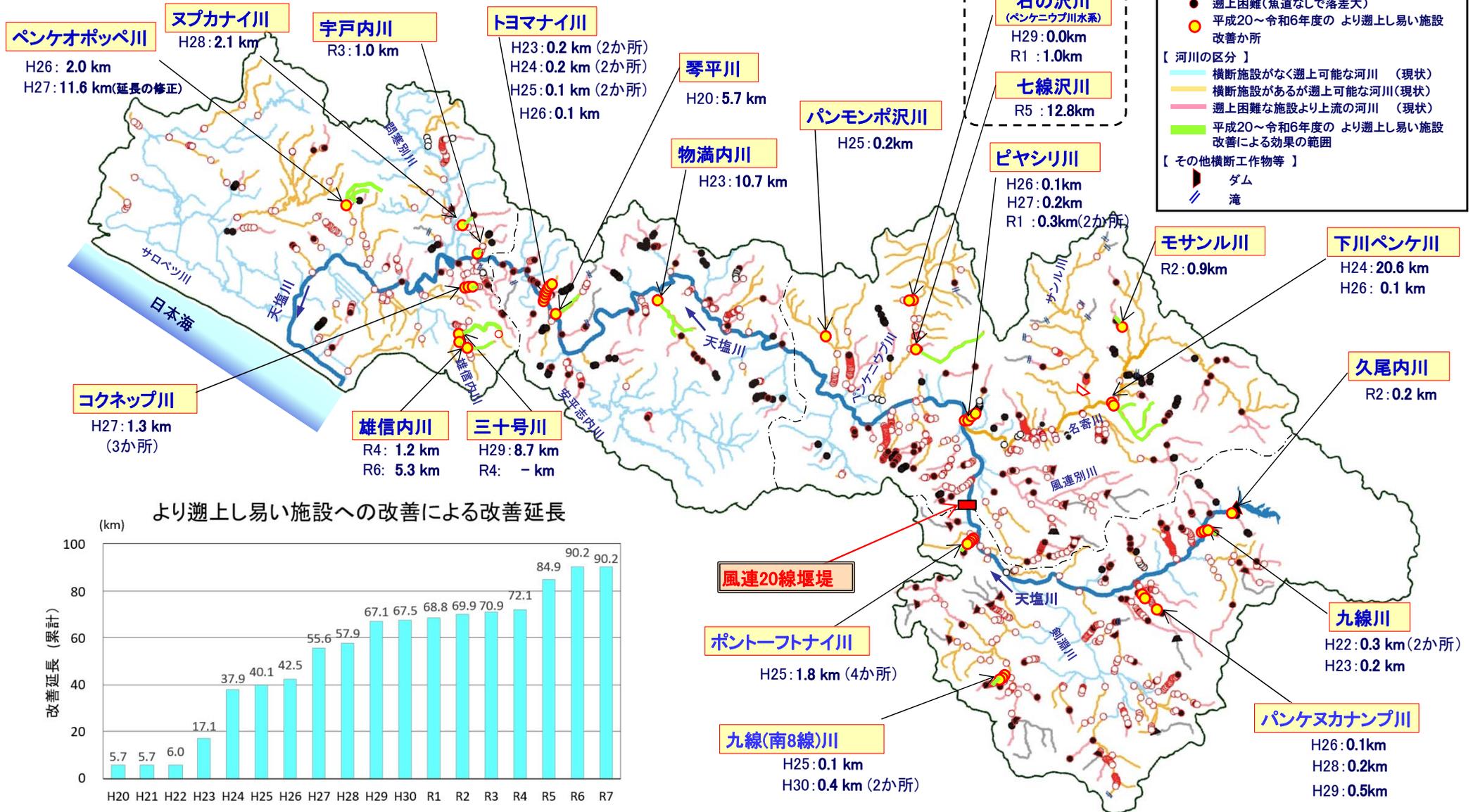
- 天塩川水系では魚類等の連続性確保のため、関係各機関が連携をして魚道整備等による施設の改善を実施しており、そのうち支川における遡上可能施設ではあるが落差を小さくしてより遡上し易い施設にするための魚道整備等※1は平成20年度～令和7年度の間42施設で実施され、河川延長合計90.2kmの遡上環境の改善が行われた。

※1: 魚道整備のほか、既設魚道下流端の落差解消のための帯工施工や根固めブロックの布設替え等がある。

- 天塩川本川においては、平成21年度に風連20線堰堤に魚道が設置され、剣和頭首工などの既設魚道の改善が行われたほか、名寄川においても真勲別頭首工などの既設魚道の改善が行われた。

より遡上し易い魚道整備位置図

(各河川名の下の数値は施設改善年度と改善延長)



○ 目的

天塩川流域における魚類等の移動の連続性確保に係る各関係機関の実施する調査・事業に関する情報を共有し、効率的な対策の推進を図る。



○ 構成機関

設置時 (H18.2)	旭川開発建設部、 上川支庁、旭川土木現業所 ～3組織～
令和7年度 ※R8.2.5に 会議を開催	北海道開発局(旭川開発建設部、留萌開発建設部)、 北海道森林管理局(上川北部森林管理署、留萌北部森林管理署、宗谷森林管理署)、 上川総合振興局(北部森林室、産業振興部、旭川建設管理部)、 留萌振興局(産業振興部、留萌建設管理部)、 宗谷総合振興局(産業振興部、稚内建設管理部) ～12組織～

天塩川魚道ワーキング 令和7年度の取り組み

天塩川流域内の魚類等の移動を阻害している横断工作物への魚道設置や既設魚道の改善に関する技術的な協議、検討を行うため、魚類の生息状況や魚道利用状況等について専門家及び関係機関との協議を目的とした以下のワーキング（ワークショップ・現地査察を含む）を開催した。

連続性確保に向けた取り組み状況（天塩川流域）

開催日	場 所	開 催 内 容
8月27日	天塩川中流	【第1回 天塩川魚道ワーキング】 既設床固工に設置した魚道の流況、河道及び魚類移動状況、上流の魚類生息状況等の確認（新生川）
9月11日	天塩川下流	【第2回 天塩川魚道ワーキング】 既設落差工に設置した魚道の流況、河道及び魚類移動状況、上流の魚類生息状況等の確認（雄信内川）

連続性確保に向けた取り組み状況（サンル川）

開催日	場 所	開 催 内 容
7月14日	札幌	【第1回 サンルダム魚道ワーキング】 スモルト降下調査結果の確認・検討、サンルダム魚道施設の機能等について協議
7月22日	名寄	【第1回 サンル川サクラマス資源モニタリングワーキング】 サンルダム魚道施設におけるスモルト降下調査結果の確認・検討、サンルダム魚道及びサクラマス資源について協議
11月25日	札幌	【第2回 サンルダム魚道ワーキング】 魚類調査結果の確認・検討、サンルダム魚道施設の機能等について協議
12月16日	名寄	【第2回 サンル川サクラマス資源モニタリングワーキング】 天塩川水系の魚類関連調査、サンルダム魚道施設におけるサクラマス遡上調査・産卵床調査結果の確認・検討、サンルダム魚道及びサクラマス資源について協議

連続性確保に向けた取り組み状況（ワークショップ）

開催日	場 所	開 催 内 容
10月 7日	美深、 天塩川	【森と海に優しい川づくりワークショップ】机上（講演）、現地ワークショップ（天塩川支川ウトナイ川 落差部魚道設置箇所）

令和7年度の取り組み（天塩川中流域）

天塩川魚道ワーキングとして、施設管理者等を含めて新生川の既設床固工に設置した魚道の状況、河道及び魚類移動状況、上流の魚類生息状況等を確認した。（R7/8/27）



新生川
魚道の状況



既設床固工魚道設置箇所
魚道の状況



床固工魚道設置箇所
工事状況



既設床固工魚道設置箇所
投網による魚類採捕状況



既設床固工魚道設置箇所
採捕したサクラマス等



既設床固工魚道設置箇所
魚道機能等の評価・説明状況

令和7年度の取り組み（天塩川下流域）

魚道ワーキングとして、施設関係者も含めて雄信内川落差工に設置した魚道の状況、河道及び魚類移動状況、上流の魚類生息状況等を確認した。（R7/9/11）



雄信内川左岸
魚道説明状況



落差工魚道設置箇所下流
投網による魚類採捕状況



落差工魚道設置箇所下流
採捕したサクラマス親魚



落差工魚道設置箇所



落差工魚道設置箇所下流
魚道機能の評価・説明状況



落差工魚道設置箇所上流
魚道機能の評価・説明状況

令和7年度の取り組み（サンルダム魚道施設）

- ・開催日時:令和7年7月14日 13:20~15:40
- ・開催場所:札幌市

議 題 :1.令和7年度 サンルダム魚道調査実施状況等について

2.その他

令和7年度のスモルト降下調査結果等の確認・検討を行い、サンルダム魚道施設の機能等について協議を行った。



打合せ協議



打合せ協議

第1回 サンルダム魚道ワーキング 開催状況

開催日時:令和7年7月22日 13:30~15:30

開催場所:名寄市

**議 題 : 1.令和7年度 サンプル川サクラマス幼稚魚降下関連調査について
2.その他**

サンプルダム魚道施設におけるスモルト降下調査結果等の確認・検討を行い、サンプルダム魚道施設及びサクラマス資源について協議を行った。



打合せ協議



打合せ協議

第1回 サンプル川サクラマス資源モニタリングワーキング 開催状況

令和7年度の取り組み（サンプルダム魚道施設）

- ・開催日時:令和7年11月25日 13:20～16:00
- ・開催場所:札幌市

議 題 :1.令和7年度 天塩川水系における魚類関連調査について
2.令和7年度 サンプルダム魚道調査実施状況等について
3.その他

令和7年度の魚類調査結果等の確認・検討を行い、サンプルダム魚道施設の機能等について協議を行った。



打合せ協議



打合せ協議

第2回 サンプルダム魚道ワーキング 開催状況

- ・開催日時:令和7年12月16日 13:30～15:15
- ・開催場所:名寄市

議 題 :1.令和7年度 天塩川水系における魚類関連調査について
2.令和7年度 サンプルダム魚道調査実施状況等について
3.その他

令和7年度の天塩川水系の魚類関連調査、及びサンプルダム魚道施設におけるサクラマス遡上調査・産卵床調査結果等の確認・検討を行い、サンプルダム魚道施設及びサクラマス資源について協議を行った。



打合せ協議



打合せ協議

第2回 サンプル川サクラマス資源モニタリングワーキング 開催状況

天塩川流域～森と海に優しい川づくりワークショップ 開催報告(1)



日 時： 令和7年10月7日 10:00～15:15

場 所： 美深町文化会館及び現地（天塩川支川宇戸内川 落差部魚道箇所）

目 的： 魚類等の生息環境保全に向けた効果的な取り組みを行うための技術力向上や情報共有を目的として開催

出席者： 58名（北海道開発局、北海道森林管理局、北海道、設計コンサルタントほか）

机上ワークショップ・講義

令和7年10月7日開催



聴講する参加者



「最近実施した川づくり・魚道づくりにおける事例紹介」妹尾委員



「川の豊かさの復元ー石組みの適用を例としてー」安田委員

現地ワークショップ (天塩川支川宇戸内川 落差部魚道設置箇所)



落差部に設置した魚道の説明



魚道下流の淵の状況説明



魚道機能の評価・説明状況



魚道における投網による魚類採捕状況

- ・魚類専門家会議の委員による講義では、「川づくり・魚道づくりの事例」及び「石組みの適用を例とした川の豊かさの復元事例」が紹介され、その後活発な意見交換が行われた。
- ・現地ワークショップでは、天塩川支川宇戸内川落差部魚道設置箇所において魚道上下流でサクラマス親魚が採捕され魚道が有効に機能していることについて説明・意見交換が行われた。

サンルダム魚道施設の機能や流況、及びスモルト降下状況等について、専門家会議委員による現地確認・指導等を実施した。

項 目	内 容
サンルダム魚道施設	<ul style="list-style-type: none">・ スモルト降下状況及び下流スモルト採捕状況等の確認・ 階段式魚道・バイパス水路・本川との接続箇所における流況等の確認・ ドラムスクリーンの改良及び稼働状況確認
サンル川上流支川等	<ul style="list-style-type: none">・ サクラマス産卵状況確認・ サクラマス幼魚(0+)等 生息場環境の確認
ダム下流合流支川 一の沢川	<ul style="list-style-type: none">・ 河川状況の確認

スモルト降下状況、サンプルダム魚道施設、及びサンプル川上流について現地確認を実施。
(安田委員、永田委員、卜部委員)



(5/21) 安田委員 ダム堤体
下流スモルト採捕状況確認



(5/21) 安田委員 本川接続箇所
ドラムスクリーン稼働状況確認



(5/21) 安田委員
パイパス魚道内状況確認



(5/22) 永田委員 卜部委員
一の沢川状況確認



(5/22) 永田委員 卜部委員 パイパス水路
上流端スモルト採捕状況確認



(5/22) 永田委員 卜部委員
堤体上流余水吐状況確認

幼魚生息場環境・ドラムスクリーン改良状況について現地確認を実施（妹尾委員）。サンプルダム下流の状況及びサクラマス魚道通過状況の確認を実施（永田委員、卜部委員）。



(6/17) 妹尾委員 サンプル川上流
幼魚生息場環境の現地確認



(6/17) 妹尾委員 本川との接続箇所
ドラムスクリーン改良状況確認



(6/17) 妹尾委員 サンプル川本川との
接続箇所下流地点の状況確認



(9/17) 永田委員、卜部委員
サンプルダム下流の状況確認



(9/17) 永田委員 卜部委員
一の沢川合流点の状況確認



(9/17) 永田委員 卜部委員 サンプルダム上流
魚道観察施設を通過するサクラマスの状況確認

サンプルダム魚道施設(ダム下流、本川との接続箇所)及び上流支川等(産卵床、幼魚生息場環境)について現地確認を実施。(永田委員、卜部委員)



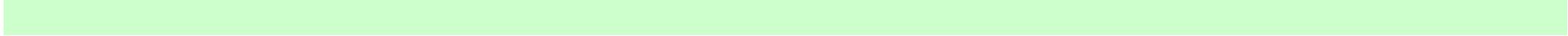
(9/17) 永田委員 卜部委員 サンプルダム上流
土取り場跡地の状況確認



(9/18) 永田委員、卜部委員
サンプル川上流支川産卵床の状況確認



(9/18) 永田委員 卜部委員
天塩川美深河道掘削箇所の状況確認



天塩川流域における魚類の移動の連続性 確保に向けた取組みの評価について ～天塩川水系のサクラマス資源の推計～

…天塩川流域における魚類等の生息環境の保全・改善及び魚類の移動の連続性確保の実施にあたっては、その効果をモニタリング調査により把握・検証し、必要に応じて施設の改善を行う…。

中間とりまとめ※1の記載 p66より

※1:天塩川における魚類等の生息環境保全に関する中間取りまとめ
(平成21年4月13日)

魚道整備等による改善効果の評価方法 (サクラマス産卵床数による評価)

・天塩川水系支川について、「遡上困難施設への魚道整備等」による改善効果を把握するために、整備により遡上可能となった施設上流区域内のサクラマス産卵床数を推計するとともに、当該支川の下流端から改善施設迄の区間内のサクラマス産卵床数を推計し、改善効果の評価した。

(1) 天塩川水系における「遡上困難施設への魚道整備等」の実施状況

改善延長(R)：平成20年以降の各関係機関によって、遡上困難施設への魚道整備等により遡上可能となった施設上流の河川延長。

(2) サクラマス産卵床数からの改善効果の評価

① 遡上可能となった改善施設上流区間内のサクラマス産卵床数

経年的に実施しているサクラマス産卵床調査結果をもとに、各支川ごとの1km当たりの産卵床確認数(産卵床密度)を算出し、それに各支川の改善延長(前年度末迄)を乗じて、改善区間内のサクラマス産卵床数を推計。

改善区間内のサクラマス産卵床数(推計値) $G_1 = \text{前年度末迄の改善延長}(R_1) \times \text{改善後のサクラマス産卵床密度}(D_1)$

ここで、サクラマス産卵床密度(D) = 産卵床確認か所数(N) ÷ 調査区間距離(S)

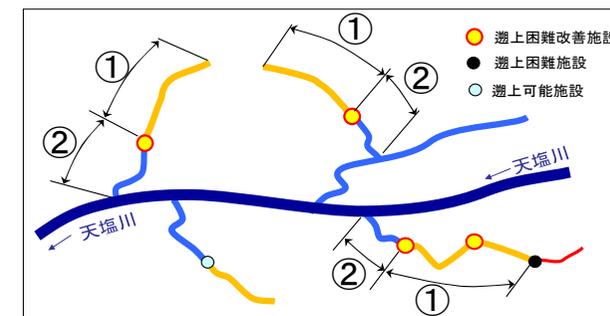
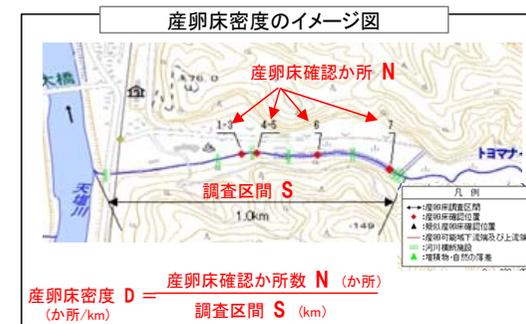
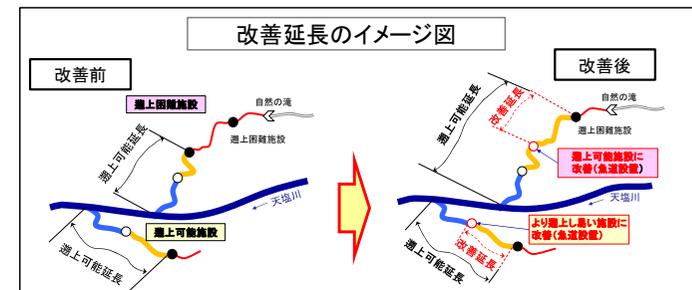
② 改善前の遡上可能区間内のサクラマス産卵床数

経年的に実施しているサクラマス産卵床調査結果をもとに、各支川ごとの産卵床密度を算出し、それに各支川の改善前の遡上可能区間(下流端から改善施設迄の距離)を乗じて、改善前の遡上可能区間内のサクラマス産卵床数を推計。

改善前区間内のサクラマス産卵床数(推計値) $G_0 = \text{下流端から改善施設迄の延長}(R_0) \times \text{サクラマス産卵床密度}(D_0)$

- (A) 産卵床密度(D₀)を、当該支川の平成18年から施設改善年度迄の1km当たりの平均産卵床密度とした場合
- (B) 産卵床密度(D₀)を、当該支川の施設改善の翌年から令和6年度迄の1km当たりの平均産卵床密度とした場合
- (C) 産卵床密度(D₀)を、当該支川の最新(令和6年度)の1km当たりの産卵床密度とした場合

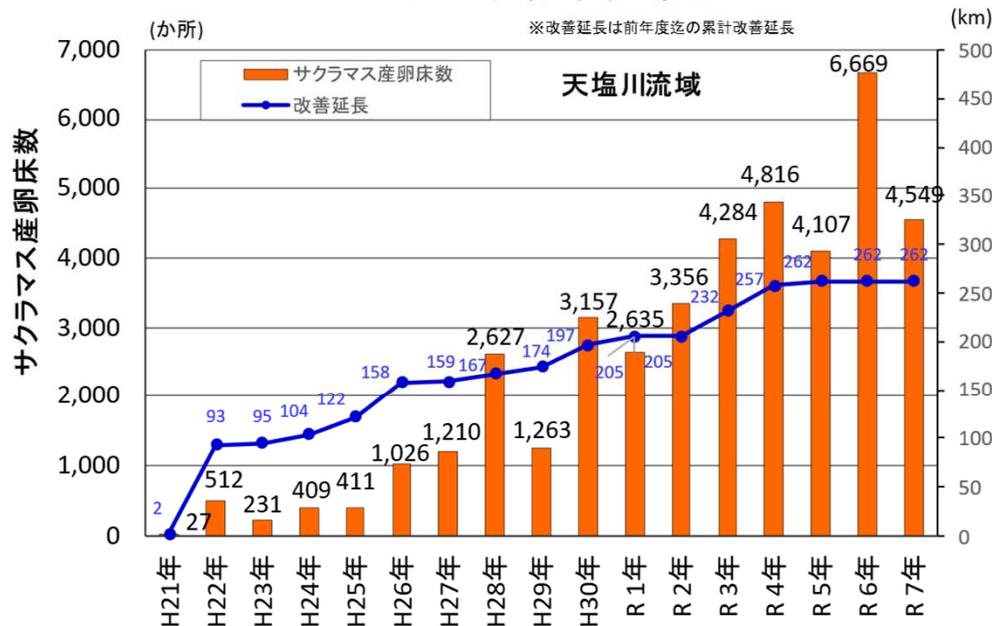
注) 施設改善した当該支川におけるサクラマス産卵床調査結果を基本とし、当該支川で欠測した年度がある場合には近傍支川からの推定値(同一の調査年度のときの産卵床数の比から欠測年の産卵床数を推定)によるほか、当該支川でこれまで調査がされていない場合は近傍支川における調査結果を代用する。



天塩川流域における「遡上困難施設」の改善効果の推定 (サクラマス産卵床数)

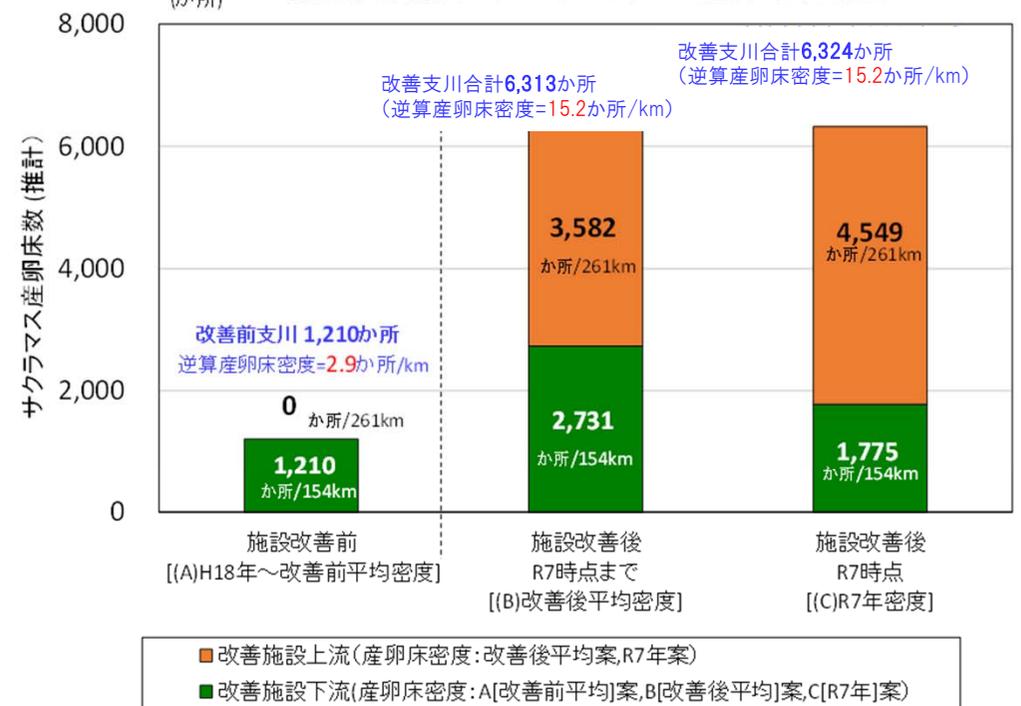
- 天塩川流域における平成20～令和7年度迄の「遡上困難施設への魚道整備等」により遡上可能となった施設上流区域(改善支川数32支川、62施設、改善区間延長約262km)内のサクラマス産卵床数は、施設改善後の各支川の平均産卵床密度(令和7年度迄)を基に算出すると、約3,500か所、また、当該支川(近傍支川)の産卵床調査結果または近傍支川から推定した令和7年度の値を基に算出すると、約4,500か所と推計される。
- 天塩川流域の施設改善した支川の改善前の遡上可能区間内(改善施設下流)のサクラマス産卵床数は、(A)施設改善前の平均産卵床密度、(B)改善後の令和7年度迄の平均産卵床密度、及び(C)令和7年度の産卵床密度を基に算出すると、それぞれ(A)約1,210か所、(B)約2,700か所、(C)約1,700か所と推計される。
- R7の改善施設上流の産卵床数(推計)はR6年度の約7割弱となっているが、R3～5年度と同程度の値となっている。また改善延長の伸びが止まったR4年度と前後して産卵床数もR6年度を除きほぼ一定の値を示している。

天塩川流域の改善した遡上困難施設上流の
サクラマス産卵床数(推計)



注1:産卵床密度の算出にあたっては、施設改善した当該支川におけるサクラマス産卵床調査結果を基本とし、当該支川での調査で欠測した年度がある場合には近傍河川からの推定値(同一の調査年度のときの産卵床数の比から欠測年の産卵床数を推定)とし、当該支川でこれまで調査がされていない場合は近傍河川における調査結果を代用した。

天塩川流域の
施設改善前後におけるサクラマス産卵床数(推計)

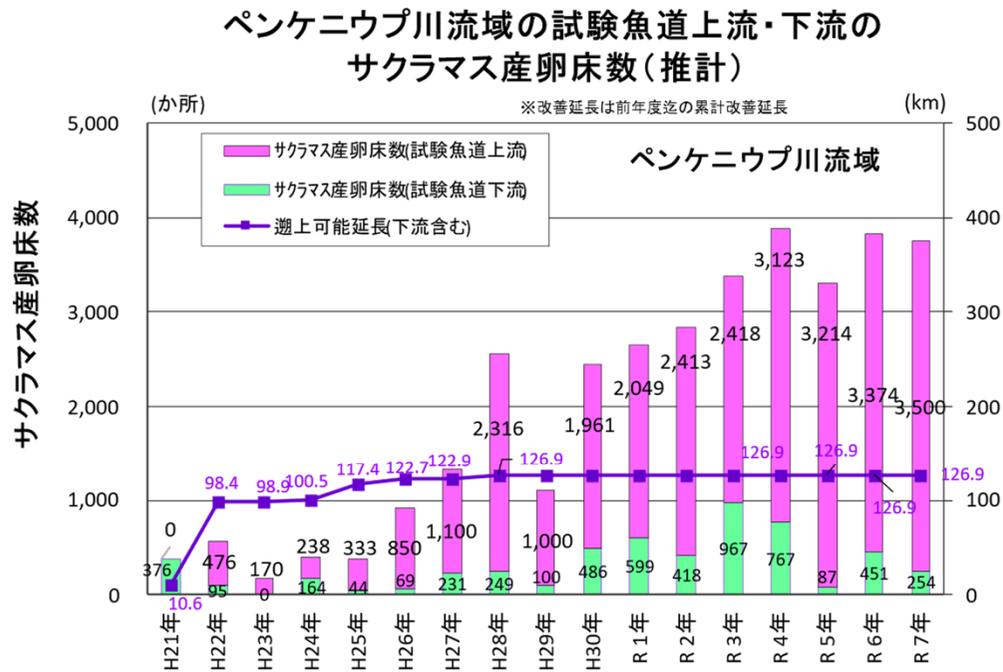


注2:施設改善した支川の下流端から改善施設迄の延長については、当該支川で複数箇所・複数年度にわたる施設改善がある場合は、最初の施設改善年度にのみ計上している。

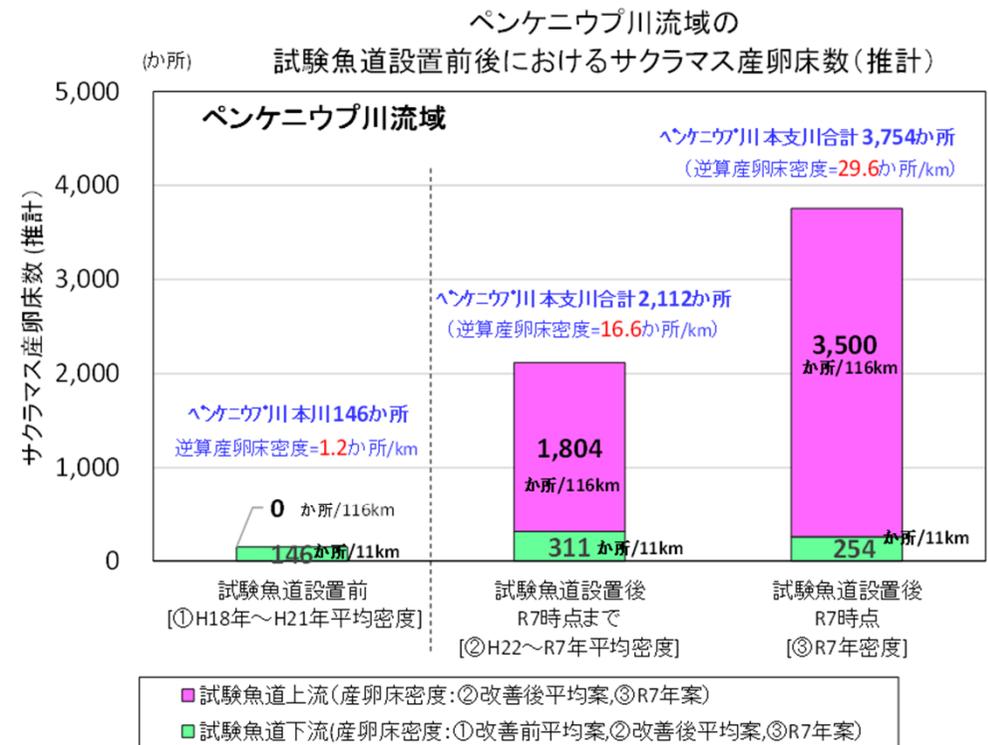
注3:改善前の遡上可能区間内のサクラマス産卵床数は、当該支川の平成18年から施設改善年度迄の産卵床調査結果から算出した1km当たりの平均産卵床密度(各年度共通)を用いて推計している。

ペンケニウプ川における「遡上困難施設」の改善効果の推定 (サクラマス産卵床数)

- ペンケニウプ川流域における平成20～令和7年度迄の「遡上困難施設への魚道整備等」により遡上可能となった試験魚道上流区域（改善河川数5河川、10施設、改善区間延長約116km）内のサクラマス産卵床数は、試験魚道設置後の平均産卵床密度（令和7年度迄）を基に算出すると、約1,800か所、また、当該流域の産卵床調査結果から推定した令和7年度の平均値を基に算出すると、約3,500か所と推計される。
- ペンケニウプ川流域の施設改善前の遡上可能区間内（試験魚道下流）のサクラマス産卵床数は、(A) 試験魚道設置前の平均産卵床密度、(B) 試験魚道設置後の令和7年度迄の平均産卵床密度、及び (C) 令和7年度の平均産卵床密度を基に算出すると、それぞれ (A) 約150か所、(B) 約310か所、(C) 約250か所と推計される。
- R7年度の試験魚道設置上流の産卵床数は既往最大となっている。ペンケニウプ川では改善延長の伸びが止まったH26年度以降産卵床数が増加し、R4年度から7年度にかけて微増となっている。



注1: 産卵床数の推計は、ペンケニウプ川本支川で行われたサクラマス産卵床調査結果を基に、試験魚道上流と試験魚道下流の2つに分割して、それぞれの各年度の平均産卵床密度を算出して、産卵対象可能延長を乗じて推計している。



注2: ペンケニウプ川本川の downstream (天塩川合流点) から改善施設(試験魚道)迄の延長は、10.6kmである。

- ・令和7年度までに関係各機関が連携をして「遡上困難施設への魚道整備等」は、改善支川数32支川において62施設で整備され、河川延長で約262kmの遡上環境の改善が行われた。
- ・遡上可能となった施設上流区域内のサクラマス産卵床数は、令和7年度迄（改善後）の平均産卵床密度では約3,500か所、令和7年度の産卵床密度では約4,500か所と推計された。
- ・また、施設改善前の平均産卵床密度から算出した下流区間の改善前の産卵床数約1,210か所に対して、改善後の平均産卵床密度から改善支川全体（上流+下流区間）の産卵床数を算出した場合は約6,300か所と推計され、令和7年度の産卵床密度から算出した場合は約6,300か所と推計された。
- ・改善延長の伸びが止まった令和4年度以降、令和6年度を除き産卵床数はほぼ一定の値を示している。

●まとめ

天塩川水系においては、平成20年度以降の関係各機関による遡上困難施設への魚道の整備等により、サクラマス等魚類の上流域への移動が可能あるいは容易となったことにより生息範囲が拡大したと考える。

天塩川流域における河川流下物等への対策状況

● 中間とりまとめ※1の記載(p41)

※1:天塩川における魚類等の生息環境保全に関する中間とりまとめ(平成21年4月13日)

7) 河川へのゴミ等流出への配慮

降雨・融雪等の増水時に流域からゴミや流木等が河川に流出し、河口部や海域の漁場に到達し、河岸や海岸への堆積やゴミ等が漁網に引っかかったり、流木が漁船に衝突するなどの漁業被害をもたらしている。



<ゴミ等の海岸堆積状況>



<ゴミ等による漁網被害状況>



<出水時の流木発生事例>
増水時に流木やゴミ等が河川に流出



<不法投棄状況>

● 中間とりまとめの記載(p66)

良好な河川環境を保全・改善するために、流域全体の人々が上流のことや下流のことを考えて行動することが求められる。

令和7年6月、8月天塩川河川敷や天塩川河口周辺にて、地域住民やNPO法人等による清掃活動が行われた。

● 名寄河川事務所、カヌークラブ※¹及びNPO法人※²による共催で「天塩川クリーン作戦&ツーリング2025」を実施(参加人数 32名)

※¹:美深アドベンチャープロジェクトチーム(美深APT)、及び北海道カナディアンカヌークラブ(HCCC)

※²:NPO法人ダウン・ザ・テッシ



6月7日 天塩川 美深町 (陸上班とカヌー班による恵深橋～美深橋間)



10月12日 天塩川 美深町 (恵深橋～びふかアイランドカヌーポート)

● 幌延河川事務所、NPO法人 天塩川を清流にする会による清掃活動(参加人数 35名)



8月2日 天塩川 河口周辺



- 令和7年春の融雪出水等により、河岸や高水敷等に堆積した流木・塵芥等について、施設管理者が流木処理（約1,500m³）を行った。
- その他、不法投棄ゴミについても施設管理者が処理を行った。

天塩川 河川公園
KP1 付近（天塩町）

処理前



R7.5

処理完了後



R7.5

天塩川 河川公園
KP1 付近（天塩町）

処理前



R7.5

処理完了後



R7.5

天塩川 左岸
KP3 付近（天塩町）

処理前



R7.4

処理完了後



R7.5

安平志内川
（中川町）

処理前



R7.8

処理完了後



R7.8

**流域住民等への情報提供
（名寄河川事務所・幌延河川事務所における
取組み事例）**

- 水生生物を指標として河川の水質を総合的に評価するため、また環境問題への関心を高めるため、環境省と国土交通省により、一般市民等の参加による「全国水生生物調査」が実施されている。

天塩川水系において、令和7年度の全国水生生物調査は、幌延河川事務所の主催で問寒別川（7/9）雄信内川（7/10）で開催されたほか、名寄河川事務所の主催では天塩川（8/1）や名寄川（8/13）で開催され、地域の小学校などから約70名が参加し、水生生物調査や水質簡易試験が行われた。

「全国水生生物調査」の開催状況



水生生物調査（問寒別川）



水生生物調査（問寒別川）



水生生物調査（雄信内川）



水生生物調査（雄信内川）



水生生物調査（名寄川）



水生生物調査（名寄川）



水質調査（天塩川）



水質調査（天塩川）

- 道内一級河川での水質事故は年間60件程度発生し、その8割以上が油流出による事故となっている。
- 例年、融雪に伴い水質事故が多発する傾向があり、融雪期はサケマス稚魚の降海時期で影響も多大になることから、令和7年度は、水質事故対策訓練を幌延河川事務所と名寄河川事務所で関係機関や維持工事受注者なども参加して行われた。

拡散防止材・油吸着材等による水質事故対策訓練実施状況（令和7年）

● 天塩川 下流 10月28日開催

【参加組織】

宗谷総合振興局、
豊富町、天塩町、
稚内地区消防事務組合消防署 豊富支署、
北留萌消防組合消防署 天塩支署、
北留萌消防組合消防署 幌延支署、
維持工事受注者、
留萌開発建設部



オイルブロッター(油吸着材)の設置訓練状況



オイルフェンスの展張訓練状況

● 天塩川 上流 11月 6日開催

【参加組織】

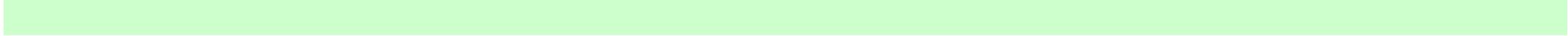
上川総合振興局、
名寄市、士別市、下川町、和寒町、剣淵町、
美深町、中川町、音威子府村
士別地方消防事務組合消防署、
上川北部消防事務組合消防署
建設コンサルタント、建設業者、
維持工事受注者、
旭川開発建設部



ポンプ車による油給水訓練状況



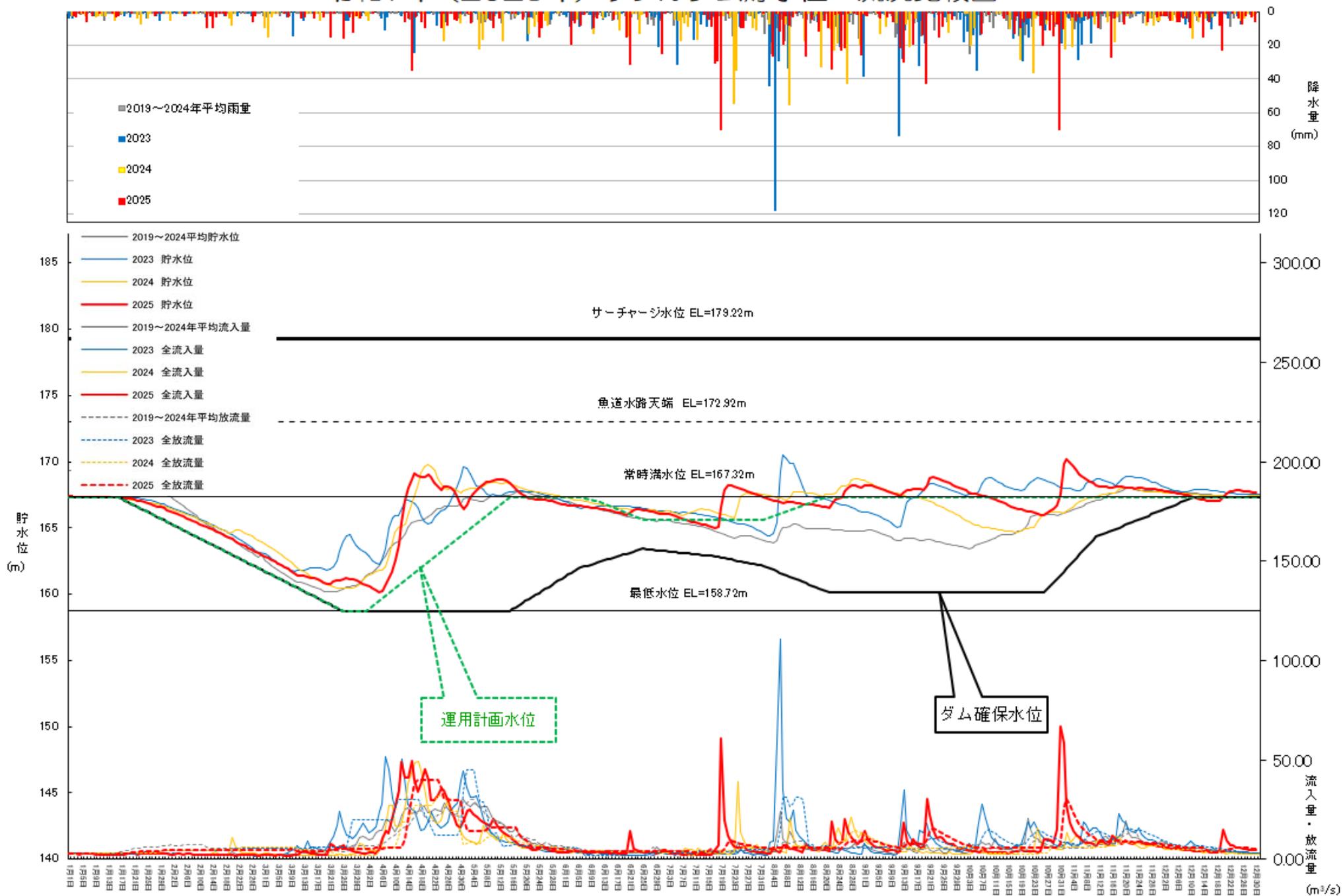
オイルフェンスの展張訓練状況



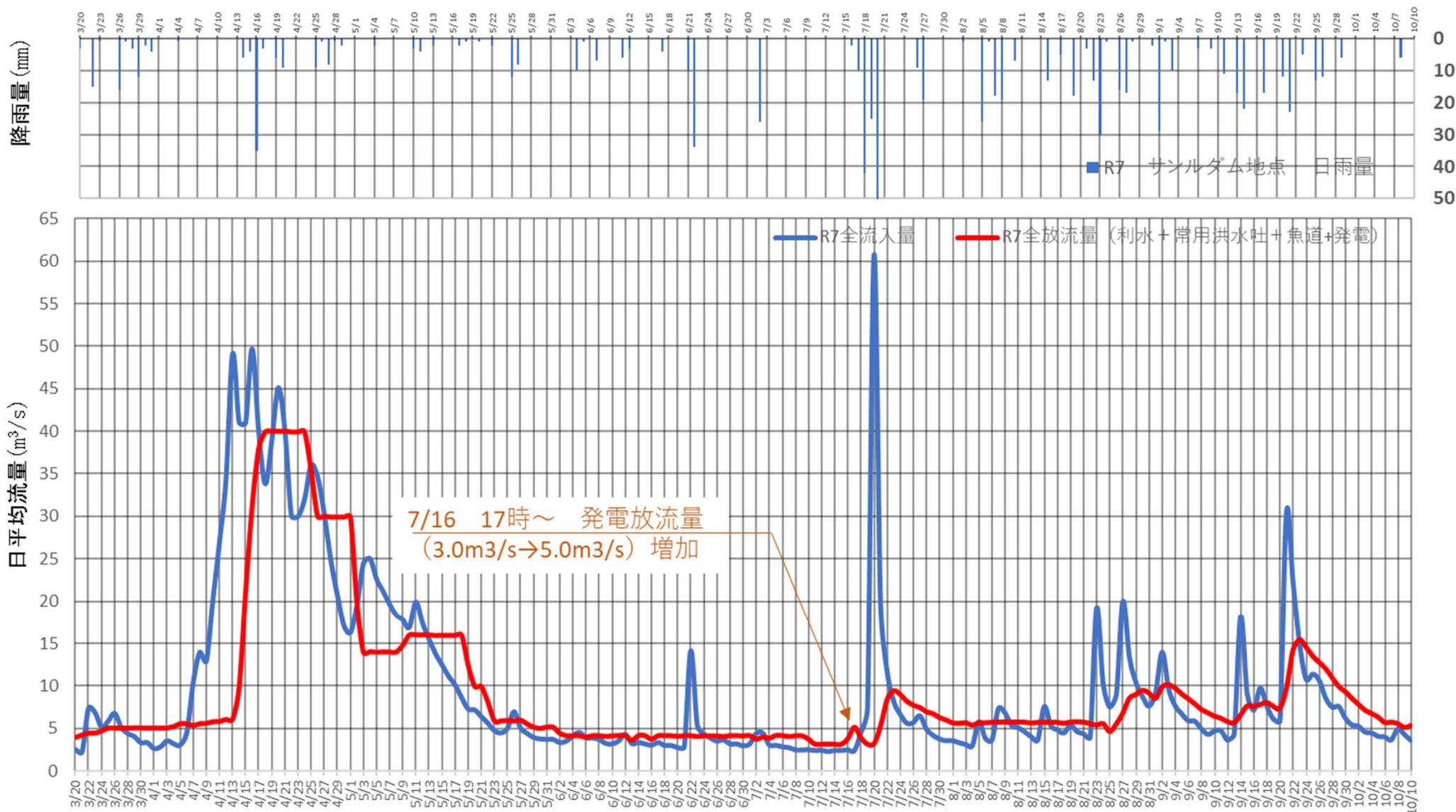
サンルダム魚道調査実施状況等について

令和7年度 サンルダム貯水池運用状況等

令和7年（2025年）サンプルダム貯水位・流況比較図



- 令和7年の融雪期(3/20~5/31)の総流入量は近年平均の82%と少なかった。
- 7月18日~20日の降雨では、サンプルダム流域平均130mm、日平均流入量は、60m³/sであった。
- 8月下旬から、20mm/日を越える降雨が5日あり、洪水調節を実施しながら放流量を増加させた。
- 7月16日~18日に降雨により一の沢川の流量が増加することが予想されたため、発電放流量を3.0m³/sから5.0m³/sに増加させて魚道へのサクラマス親魚誘引を試みた。

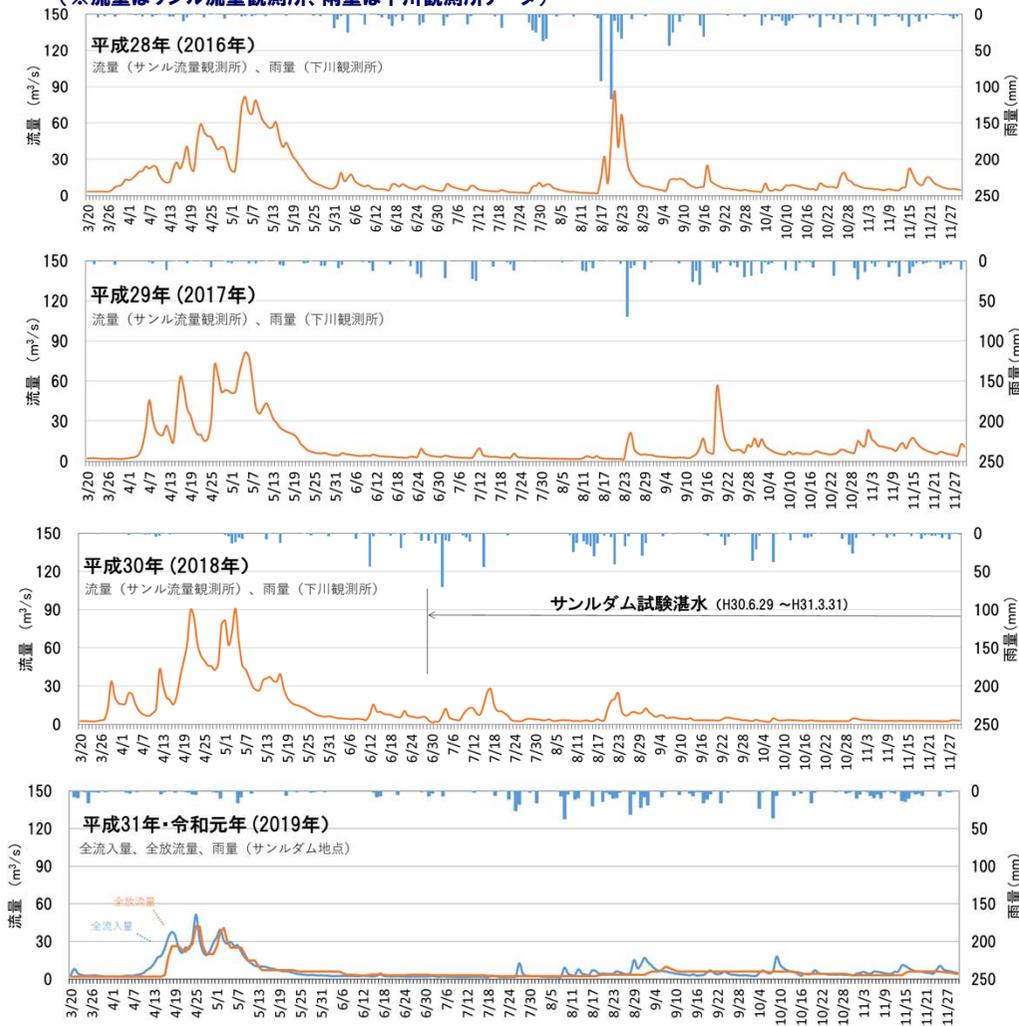


サンルダム流入量・放流量について

(※グラフは3月20日～11月30日)

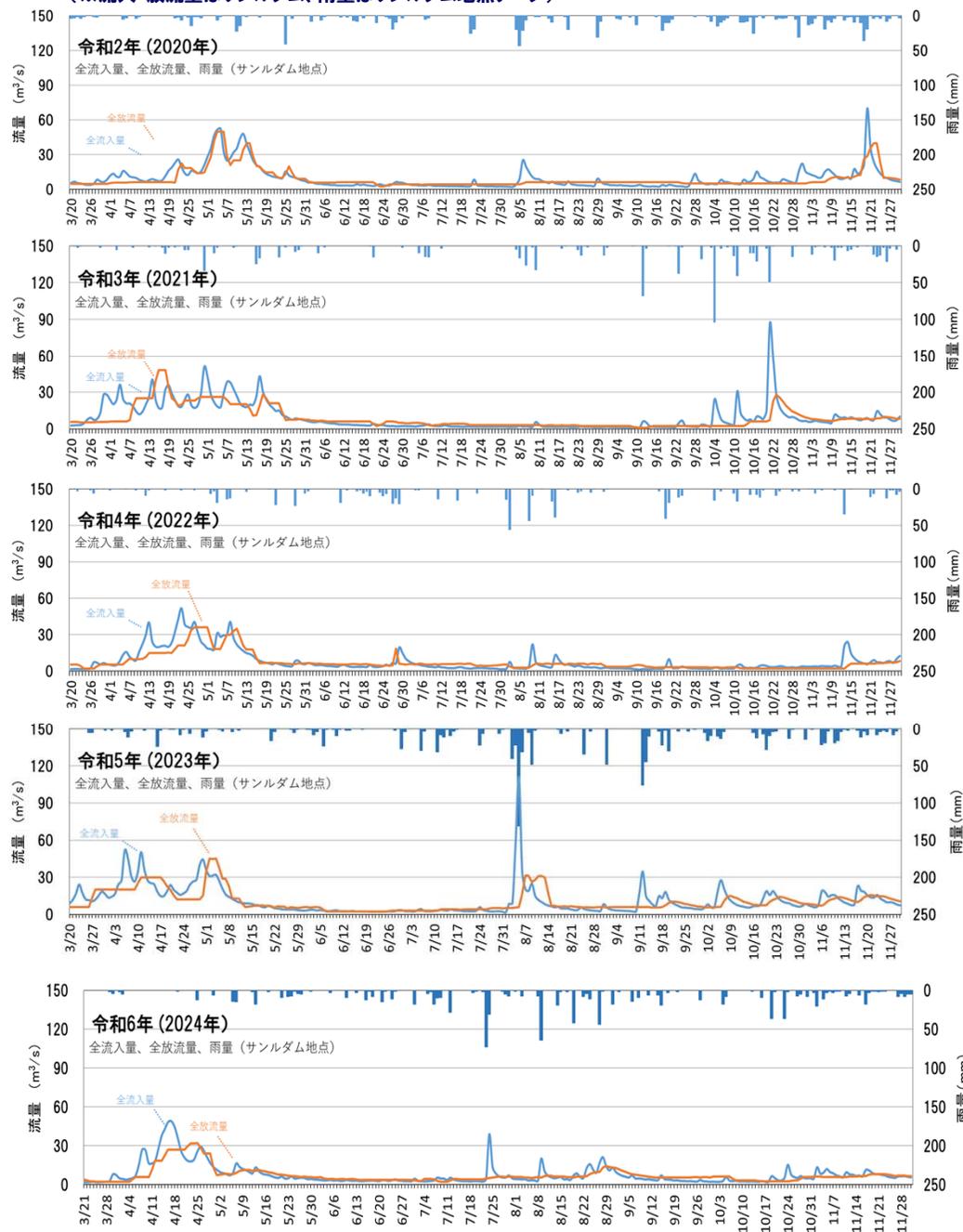
H28～H31 サンルダム運用開始以前

(※流量はサンル流量観測所、雨量は下川観測所データ)



R2～R6 サンルダム運用開始以降

(※流入・放流量はサンルダム、雨量はサンルダム地点データ)

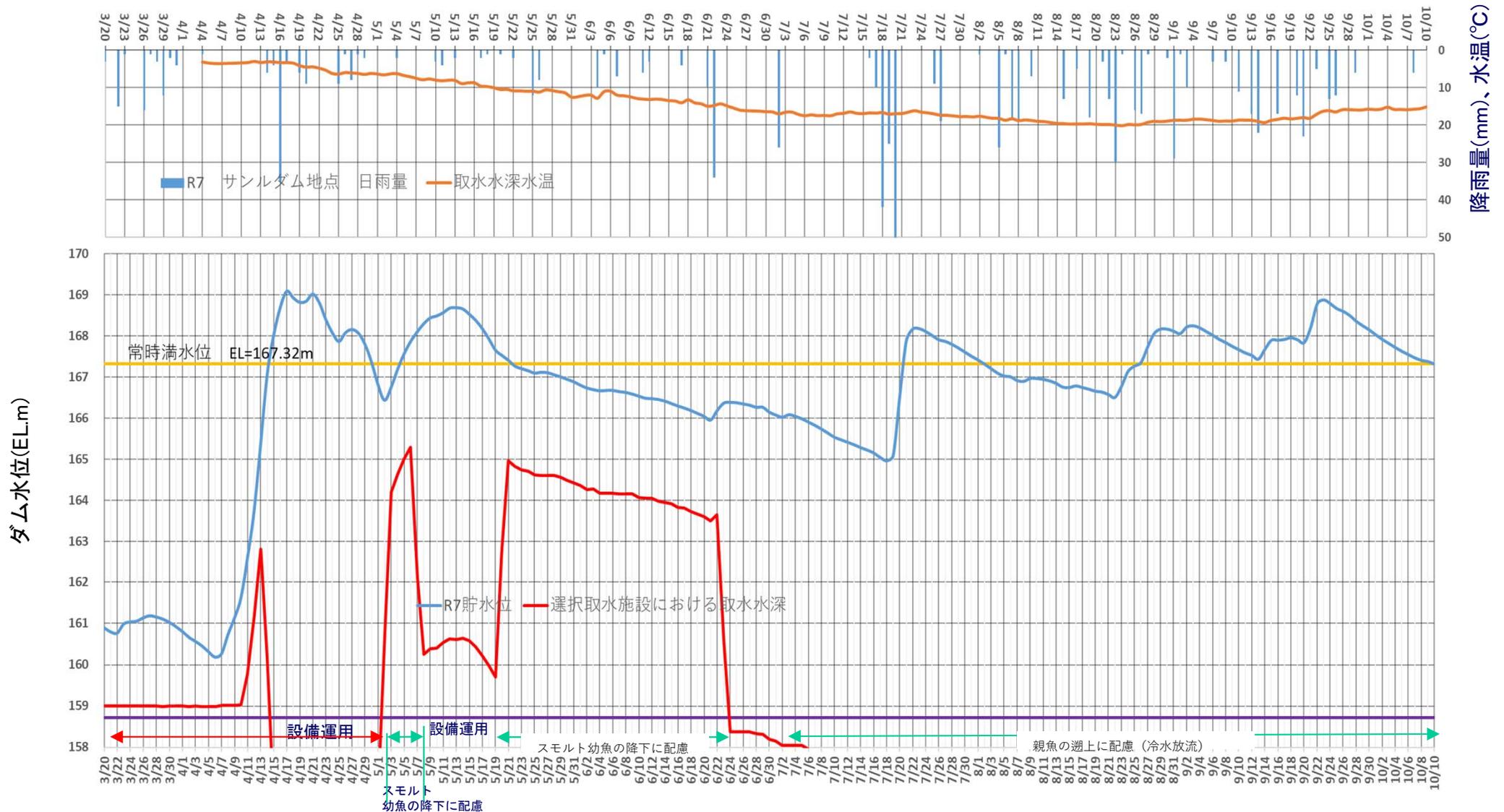


融雪期総量(H27～H30は一の沢川分含む)

11ヶ年平均 127.5百万m3

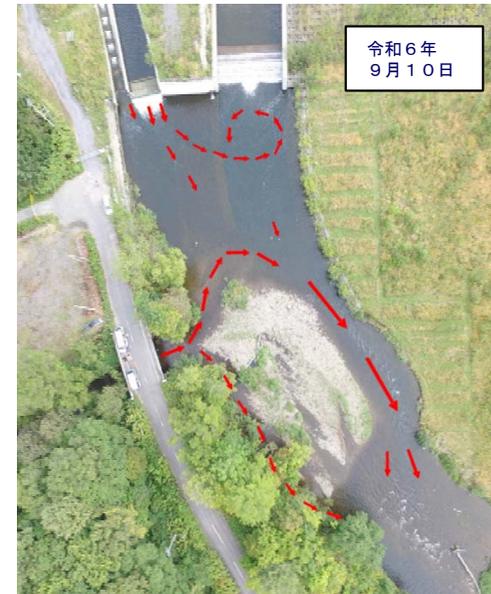
3/20～ 5/31 総量 (百万m3)	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2
	156	182	160	185	84	104
	R3	R4	R5	R6	R7	
	128	103	114	83	104	

- ・令和7年(3/20~10/10)サンプルダムの貯水位のピークは、4月17日のEL=169.09mとなった。
- ・融雪により、4/14~5/21 まで洪水調節を行い常用洪水吐から放流を実施した。
- ・降雨により、7/20~10/10 まで洪水調節を行い常用洪水吐から放流を実施した。
- ・ダム放流に際しては、設備運用、気象、下流河川水温、貯水池水温状況等に基づき、スモルト、幼魚及び親魚の降下、遡上数の増加を図られるように選択取水施設・副取水ゲートを運用した。



令和7年のダム下流状況（令和5年8月上旬出水前後）

令和5年8月出水以降、ダム下流河道状況に変化はない。



【令和5年7月13日】

- ・魚道流量 $Q= 0.22\text{m}^3/\text{s}$
魚道水温 17.6°C
- ・発電放水量 $Q= 3.89\text{m}^3/\text{s}$
発電放水温 21.9°C
- ・一の沢川流量 $Q=0.87\text{m}^3/\text{s}$
一の沢川水温 16.3°C

【令和5年8月25日】

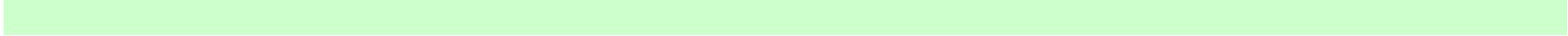
- ・魚道流量 $Q= 0.22\text{m}^3/\text{s}$
魚道水温 20.9°C
- ・発電放水量 $Q= 5.37\text{m}^3/\text{s}$
発電放水温 18.7°C
- ・一の沢川流量 $Q=0.23\text{m}^3/\text{s}$
一の沢川水温 19.7°C

【令和6年9月10日】

- ・魚道流量 $Q= 0.20\text{m}^3/\text{s}$
魚道水温 20.9°C
- ・発電放水量 $Q= 5.29\text{m}^3/\text{s}$
発電放水温 18.7°C
- ・常用洪水吐放流量
 $Q= 1.05\text{m}^3/\text{s}$
- ・一の沢川流量 $Q=0.32\text{m}^3/\text{s}$
一の沢川水温 19.7°C

【令和7年8月6日】

- ・魚道流量 $Q=0.22\text{m}^3/\text{s}$
魚道水温 18.2°C
- ・発電放水量 $Q=5.49\text{m}^3/\text{s}$
発電放水路 16.0°C
- ・一の沢川流量 $Q=0.37\text{m}^3/\text{s}$
一の沢川水温 17.6°C

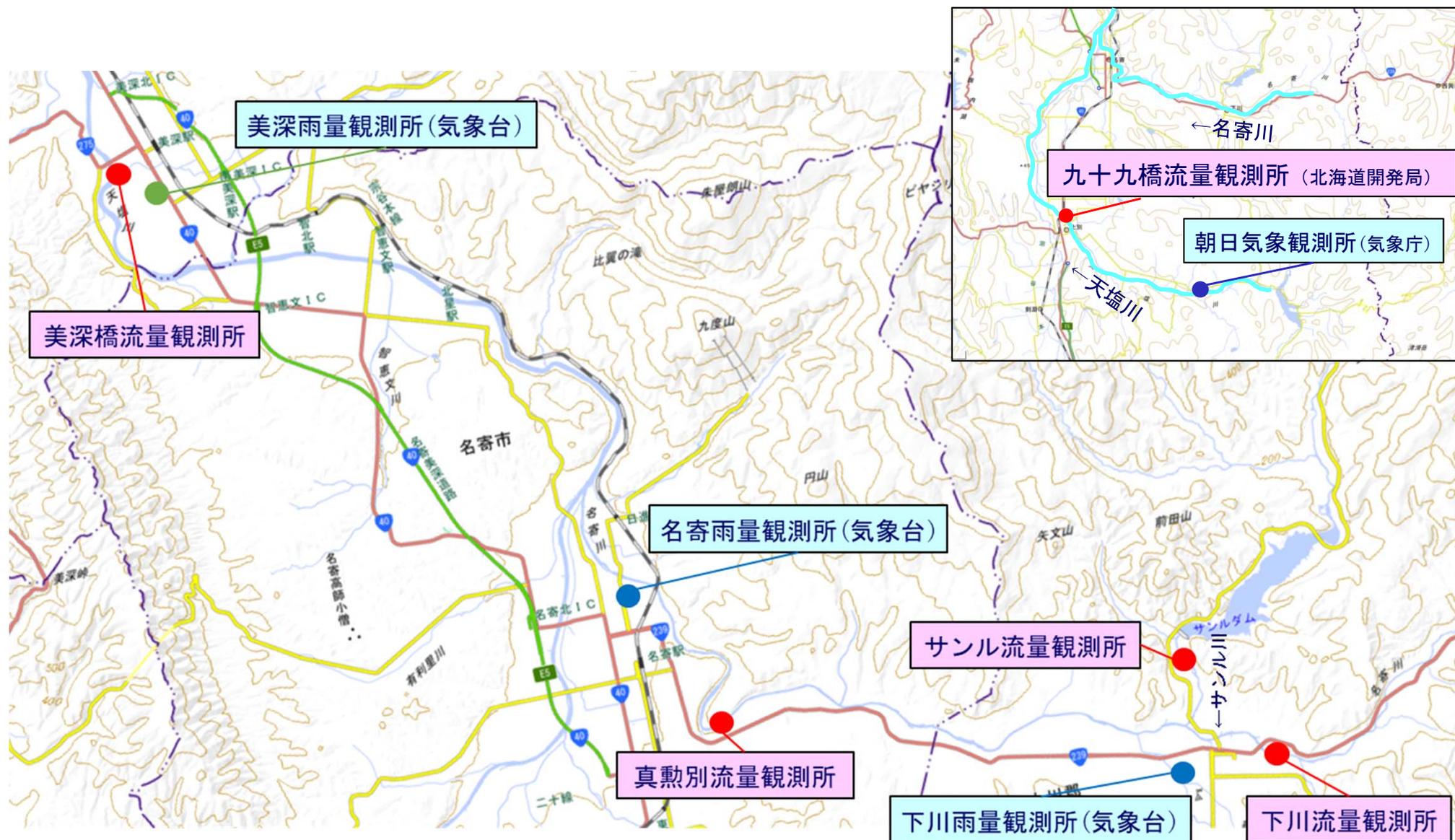


令和7年

4/1～10/10における

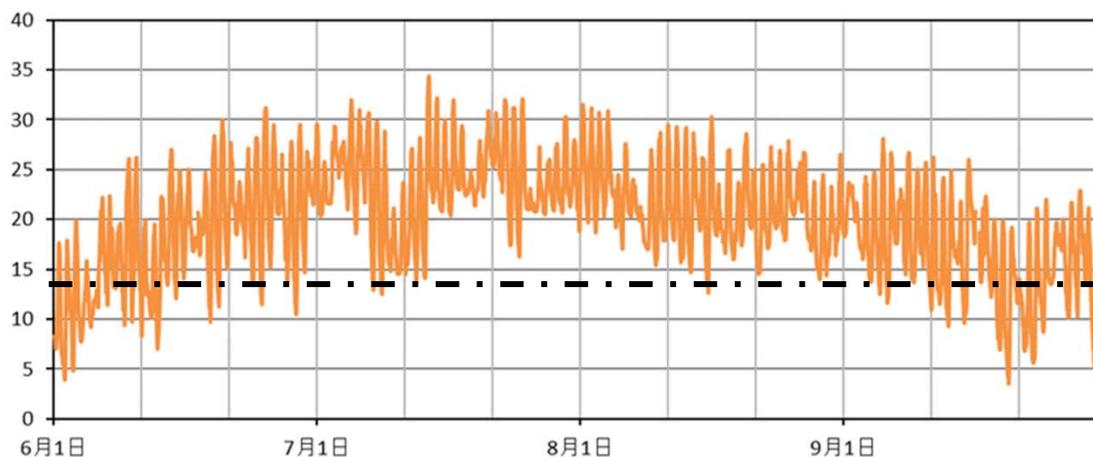
各観測所地点の雨量、流量、気温、水温比較

・令和7年4月1日～10月10日における各観測地点の雨量・流量について、下の図に示す観測所地点毎に令和元年～令和6年、過去5ヵ年平均(H26～H30)との比較を行った。
 なお、下川雨量観測所については、令和7年の気温変化についてもグラフに示した。

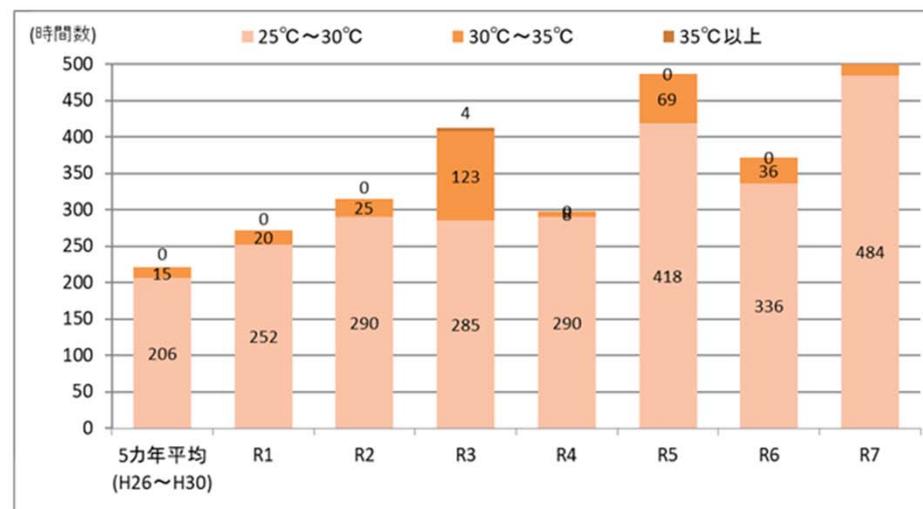


- ・下川雨量観測所地点の令和7年の日最高気温変化について下のグラフに示す。
- ・令和7年は6月上旬から25℃を超え、30℃を超える日も6月下旬から8月上旬まで観測された。
- ・過年と比較すると25℃を超える日は、多く観測された。

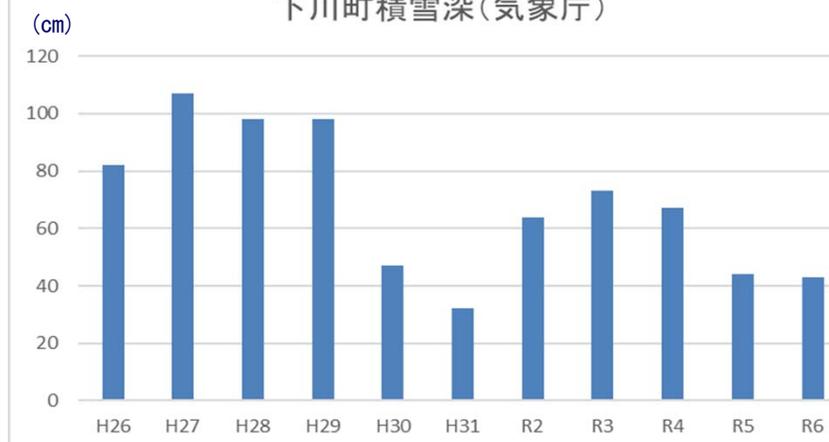
(℃) 令和7年6月～9月 気温変化グラフ(時間)



25℃以上時間数グラフ



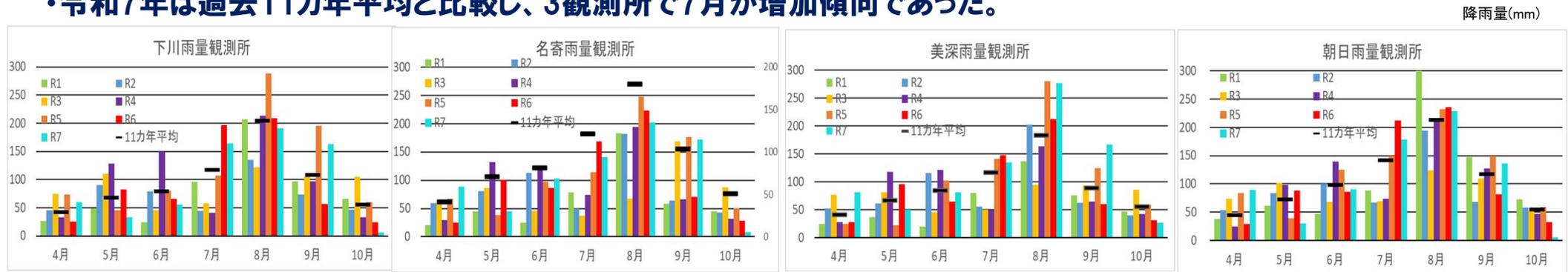
下川町積雪深(気象庁)



下川町積雪深

年度	調査年月日
H26	H27. 3. 10
H27	H28. 3. 11
H28	H29. 3. 7
H29	H30. 3. 9
H30	H31. 3. 12
H31	R 2. 3. 10
R2	R 3. 3. 10
R3	R 4. 3. 10
R4	R 5. 3. 8
R5	R 6. 3. 1
R6	R 7. 3. 6

- ・下川、名寄、美深、朝日観測所の降水量を下のグラフに示す。
- ・令和7年は過去11カ年平均と比較し、3観測所で7月が増加傾向であった。



下川雨量観測所

R7年度	673mm	(4月: 61mm, 5月: 33mm, 6月: 56mm, 7月: 165mm, 8月: 191mm, 9月: 163mm, 10月: 6mm)
R6年度	662mm	(4月: 26mm, 5月: 83mm, 6月: 66mm, 7月: 197mm, 8月: 209mm, 9月: 57mm, 10月: 25mm)
R5年度	851mm	(4月: 74mm, 5月: 46mm, 6月: 81mm, 7月: 108mm, 8月: 288mm, 9月: 196mm, 10月: 60mm)
R4年度	695mm	(4月: 33mm, 5月: 128mm, 6月: 150mm, 7月: 150mm, 8月: 213mm, 9月: 97mm, 10月: 33mm)
R3年度	623mm	(4月: 75mm, 5月: 111mm, 6月: 45mm, 7月: 58mm, 8月: 122mm, 9月: 107mm, 10月: 105mm)
R2年度	516mm	(4月: 46mm, 5月: 90mm, 6月: 79mm, 7月: 44mm, 8月: 136mm, 9月: 74mm, 10月: 47mm)
R1年度	566mm	(4月: 26mm, 5月: 49mm, 6月: 24mm, 7月: 96mm, 8月: 207mm, 9月: 98mm, 10月: 66mm)
11カ年平均	675mm	(4月: 42mm, 5月: 68mm, 6月: 80mm, 7月: 117mm, 8月: 205mm, 9月: 109mm, 10月: 55mm)

※10月は10月1日～10月10日までのデータ
 ※11カ年平均はH26～R6のデータ

名寄雨量観測所

R7年度	756mm	(4月: 88mm, 5月: 45mm, 6月: 103mm, 7月: 141mm, 8月: 202mm, 9月: 172mm, 10月: 9mm)
R6年度	700mm	(4月: 25mm, 5月: 101mm, 6月: 86mm, 7月: 169mm, 8月: 223mm, 9月: 71mm, 10月: 28mm)
R5年度	789mm	(4月: 68mm, 5月: 39mm, 6月: 98mm, 7月: 114mm, 8月: 248mm, 9月: 176mm, 10月: 51mm)
R4年度	651mm	(4月: 29mm, 5月: 132mm, 6月: 125mm, 7月: 74mm, 8月: 195mm, 9月: 67mm, 10月: 32mm)
R3年度	558mm	(4月: 63mm, 5月: 87mm, 6月: 46mm, 7月: 38mm, 8月: 68mm, 9月: 169mm, 10月: 87mm)
R2年度	594mm	(4月: 60mm, 5月: 81mm, 6月: 113mm, 7月: 50mm, 8月: 182mm, 9月: 65mm, 10月: 43mm)
R1年度	456mm	(4月: 20mm, 5月: 46mm, 6月: 26mm, 7月: 78mm, 8月: 183mm, 9月: 58mm, 10月: 45mm)
11カ年平均	645mm	(4月: 41mm, 5月: 71mm, 6月: 81mm, 7月: 122mm, 8月: 179mm, 9月: 104mm, 10月: 51mm)

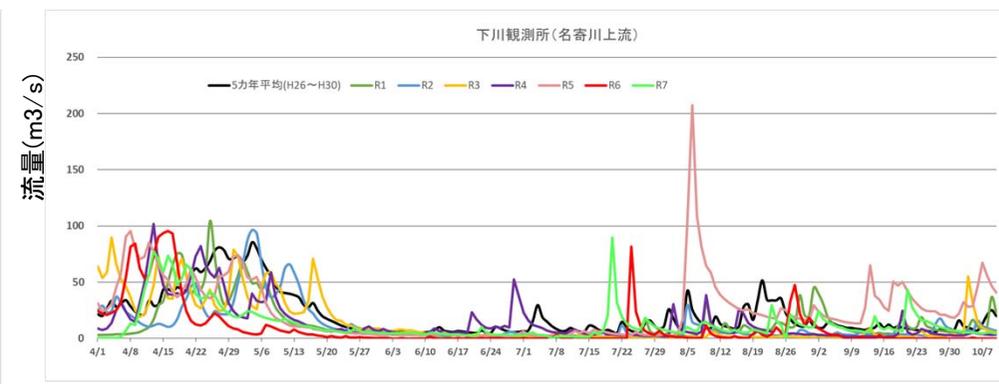
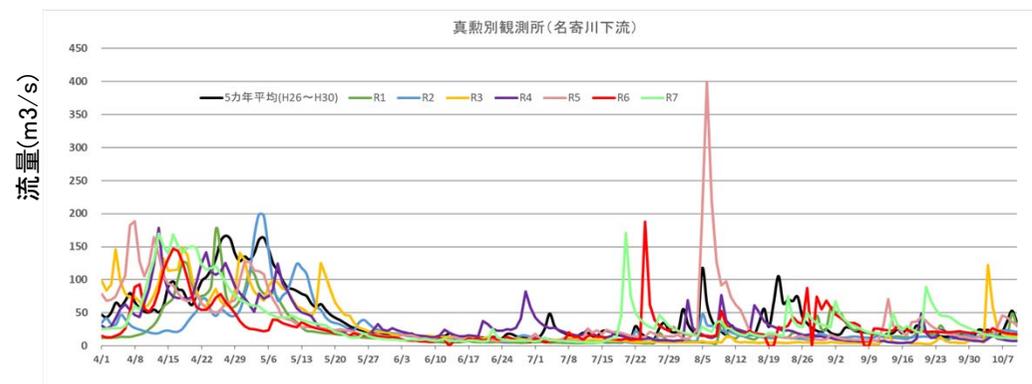
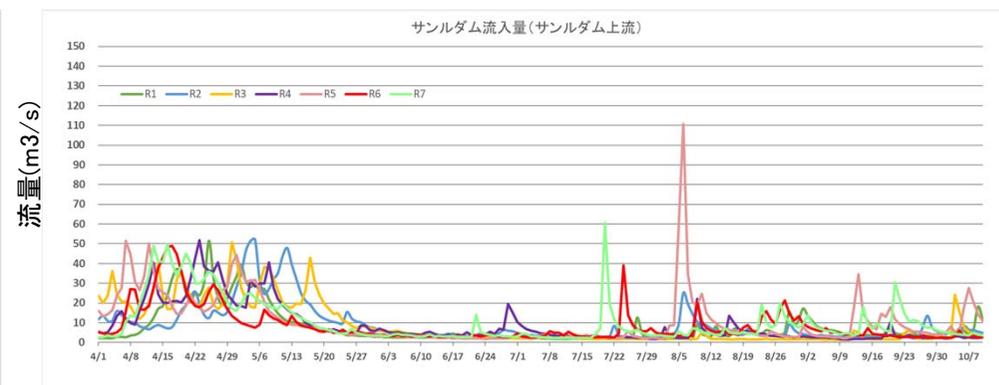
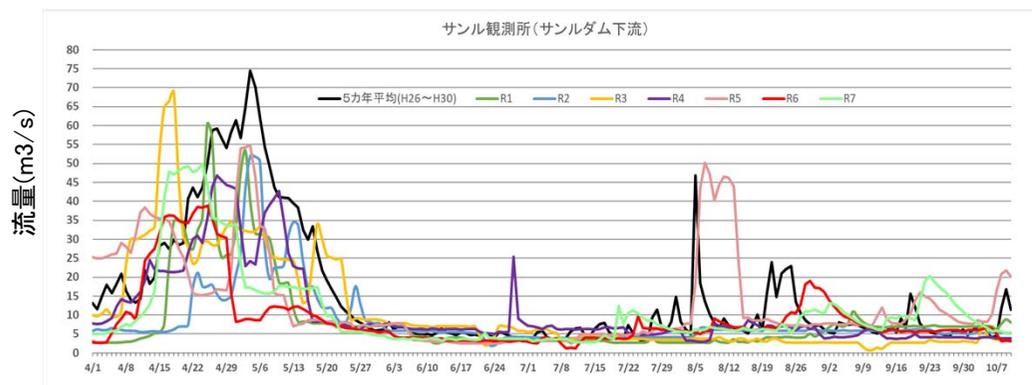
美深雨量観測所

R7年度	815mm	(4月: 81mm, 5月: 50mm, 6月: 81mm, 7月: 134mm, 8月: 277mm, 9月: 167mm, 10月: 26mm)
R6年度	639mm	(4月: 28mm, 5月: 96mm, 6月: 64mm, 7月: 148mm, 8月: 213mm, 9月: 60mm, 10月: 31mm)
R5年度	752mm	(4月: 24mm, 5月: 22mm, 6月: 102mm, 7月: 141mm, 8月: 280mm, 9月: 124mm, 10月: 59mm)
R4年度	586mm	(4月: 28mm, 5月: 118mm, 6月: 121mm, 7月: 49mm, 8月: 164mm, 9月: 65mm, 10月: 42mm)
R3年度	525mm	(4月: 77mm, 5月: 81mm, 6月: 45mm, 7月: 50mm, 8月: 94mm, 9月: 93mm, 10月: 85mm)
R2年度	590mm	(4月: 52mm, 5月: 61mm, 6月: 115mm, 7月: 56mm, 8月: 203mm, 9月: 63mm, 10月: 40mm)
R1年度	420mm	(4月: 24mm, 5月: 37mm, 6月: 20mm, 7月: 80mm, 8月: 136mm, 9月: 76mm, 10月: 47mm)
11カ年平均	635mm	(4月: 41mm, 5月: 66mm, 6月: 84mm, 7月: 117mm, 8月: 183mm, 9月: 88mm, 10月: 56mm)

朝日雨量観測所(天塩川上流)

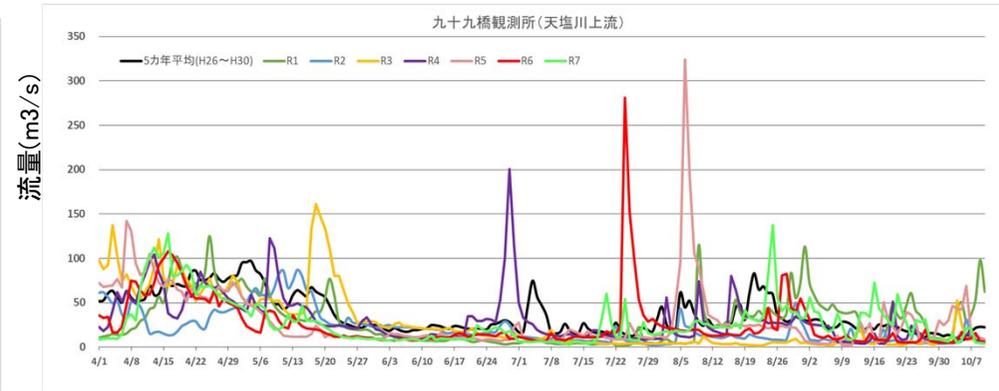
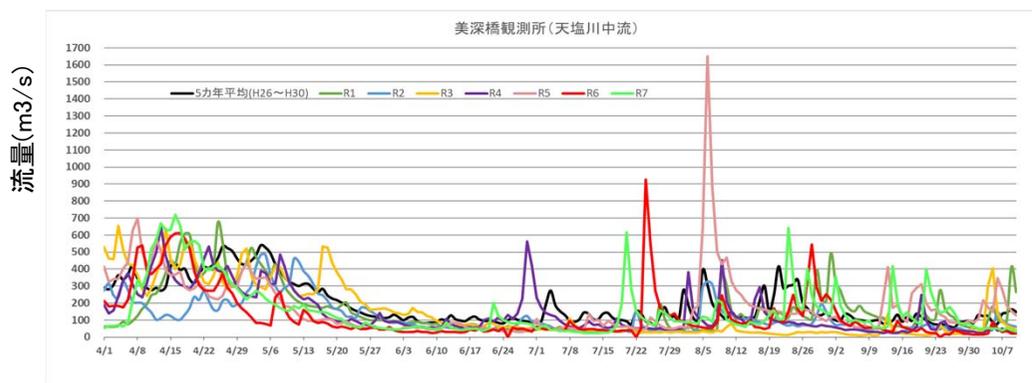
R7年度	759mm	(4月: 90mm, 5月: 31mm, 6月: 90mm, 7月: 179mm, 8月: 229mm, 9月: 136mm, 10月: 6mm)
R6年度	764mm	(4月: 29mm, 5月: 89mm, 6月: 86mm, 7月: 212mm, 8月: 235mm, 9月: 82mm, 10月: 33mm)
R5年度	837mm	(4月: 84mm, 5月: 39mm, 6月: 125mm, 7月: 149mm, 8月: 232mm, 9月: 149mm, 10月: 59mm)
R4年度	725mm	(4月: 25mm, 5月: 99mm, 6月: 140mm, 7月: 74mm, 8月: 214mm, 9月: 128mm, 10月: 47mm)
R3年度	525mm	(4月: 74mm, 5月: 102mm, 6月: 69mm, 7月: 69mm, 8月: 124mm, 9月: 109mm, 10月: 53mm)
R2年度	627mm	(4月: 54mm, 5月: 84mm, 6月: 101mm, 7月: 67mm, 8月: 194mm, 9月: 68mm, 10月: 59mm)
R1年度	763mm	(4月: 38mm, 5月: 62mm, 6月: 47mm, 7月: 88mm, 8月: 307mm, 9月: 148mm, 10月: 73mm)
11カ年平均	741mm	(4月: 44mm, 5月: 73mm, 6月: 98mm, 7月: 142mm, 8月: 213mm, 9月: 117mm, 10月: 54mm)

- ・ サル、サルダム流入、真熟別、下川、美深橋、九十九橋観測所の流量を下のグラフに示す。
- ・ 令和7年は、7月下旬に中規模の出水があり、8月以降は小規模の出水が複数日あった。

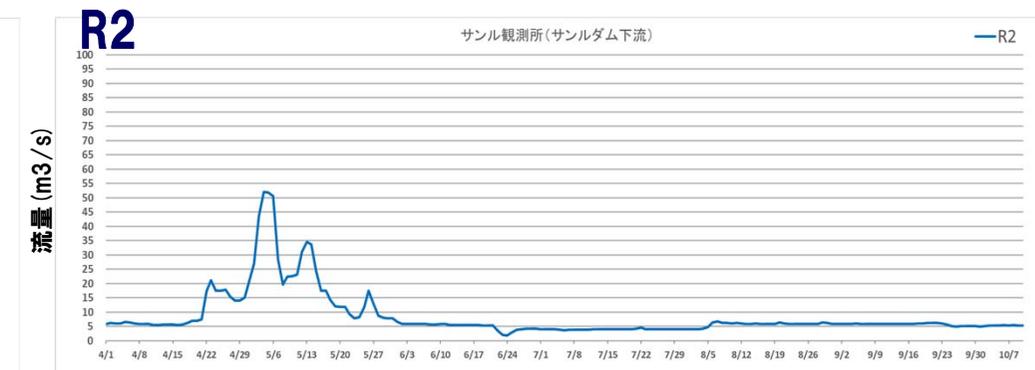
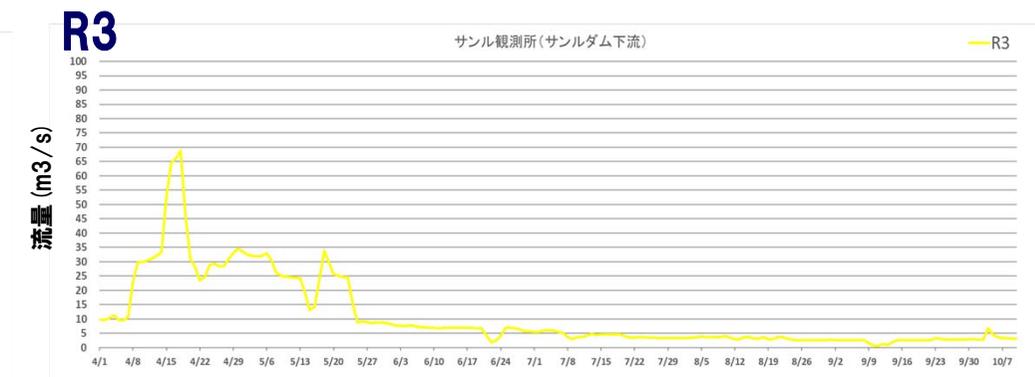
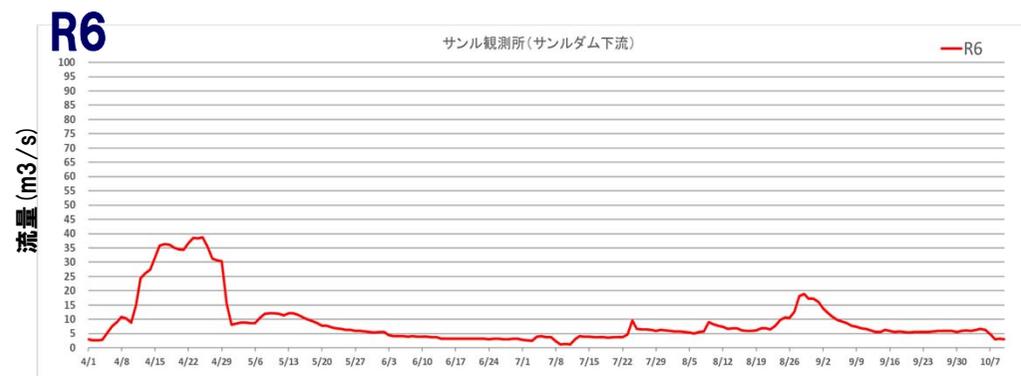
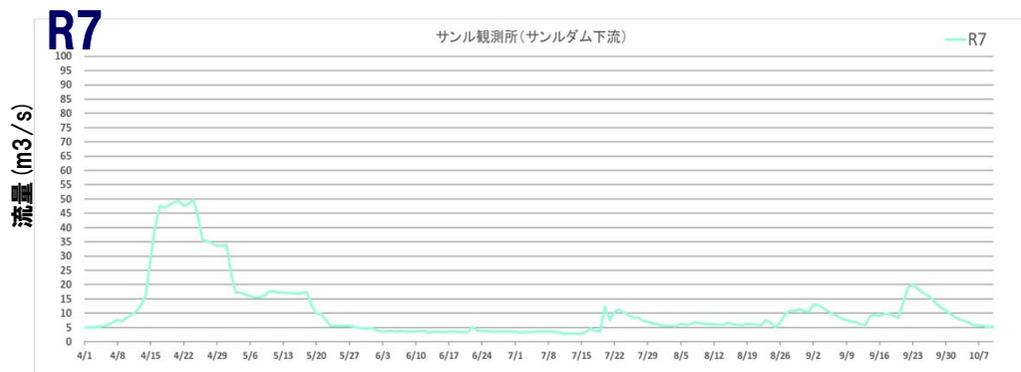


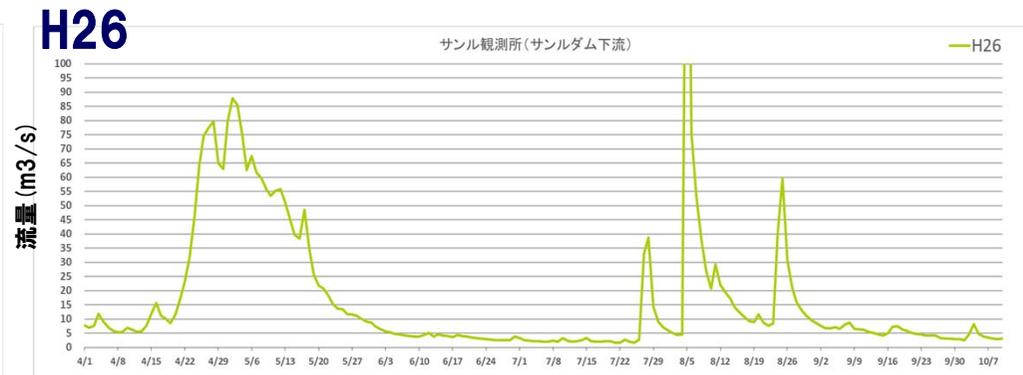
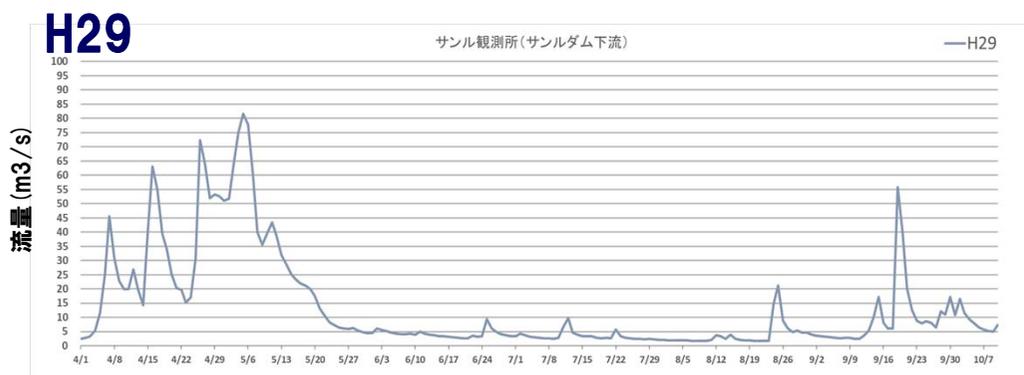
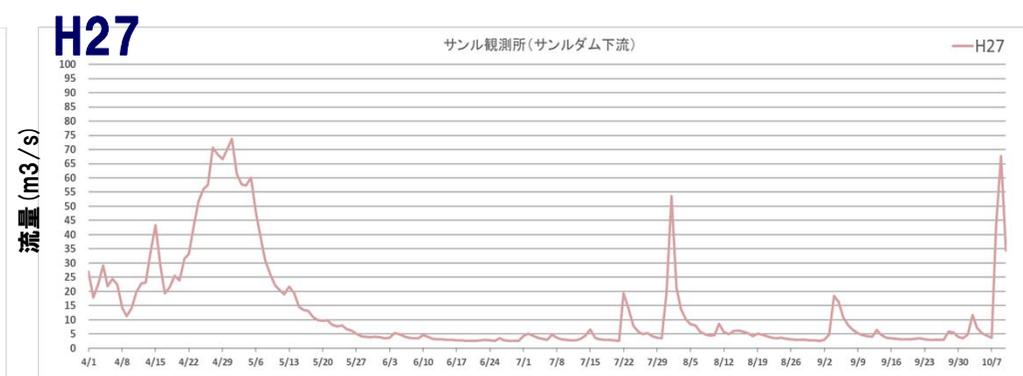
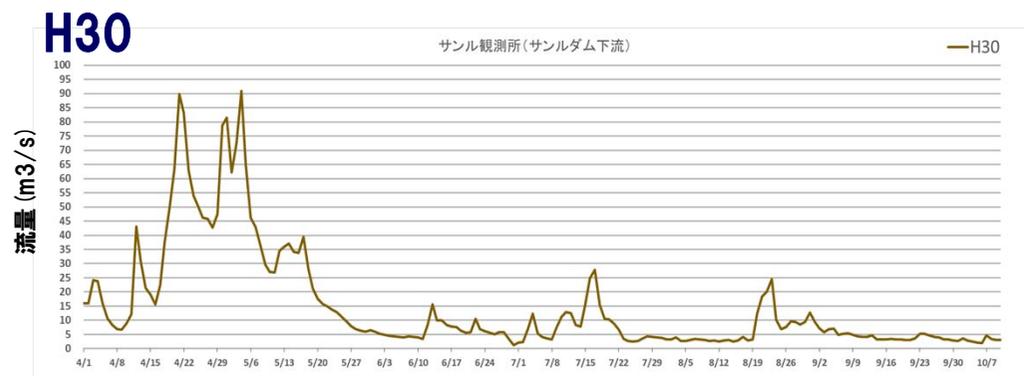
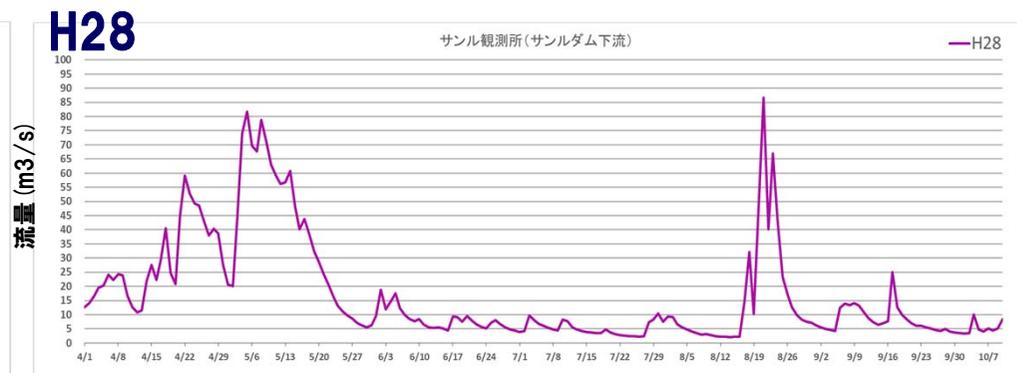
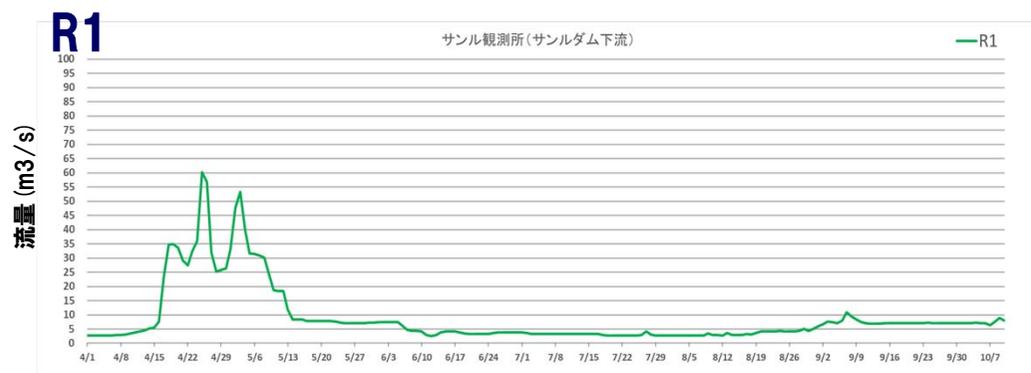
※H30年度は4/1~5/29までデータ欠測

※R6年度は9/22~10/3までデータ欠測

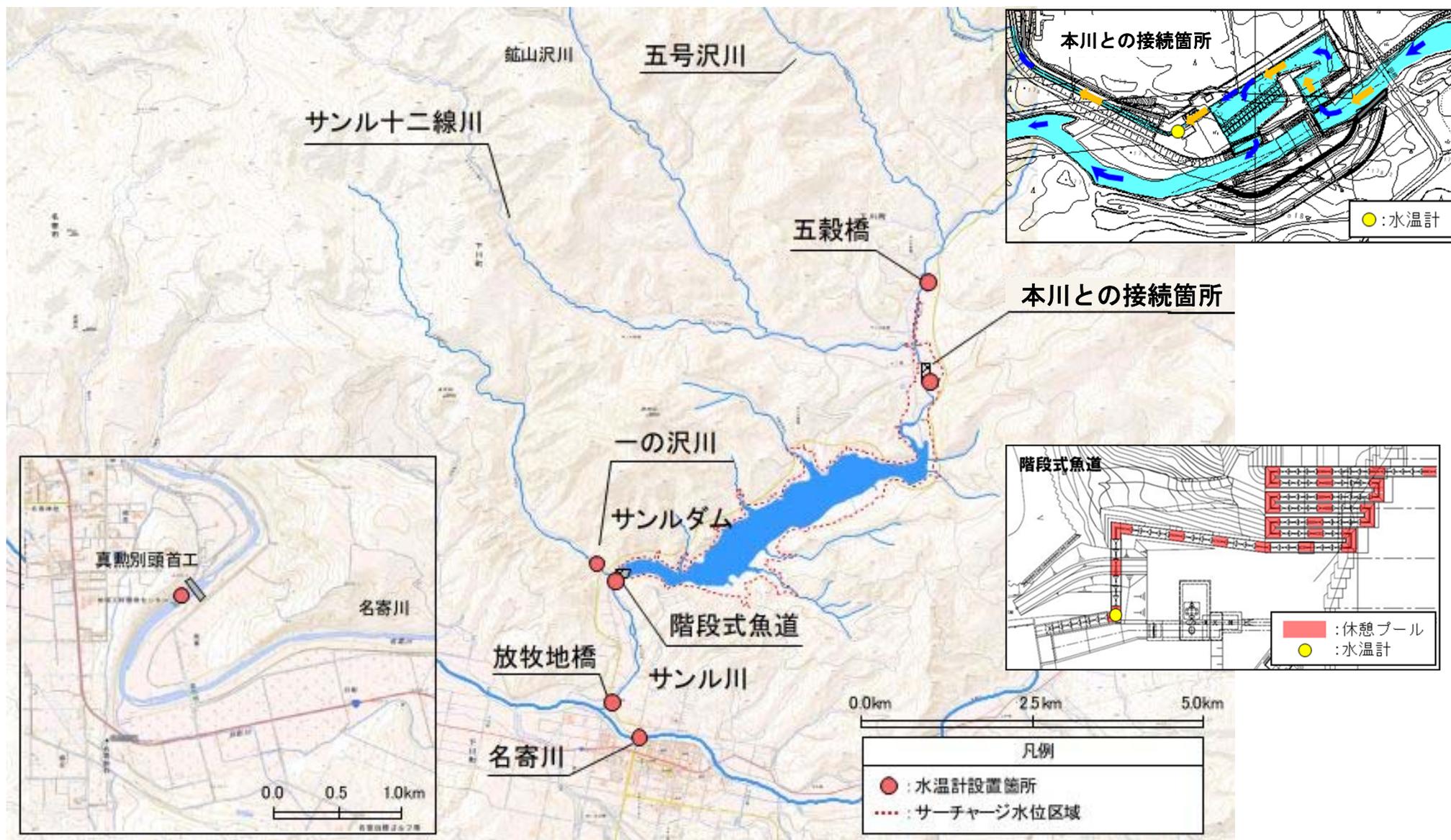


※H30年度は4/1~5/29までデータ欠測

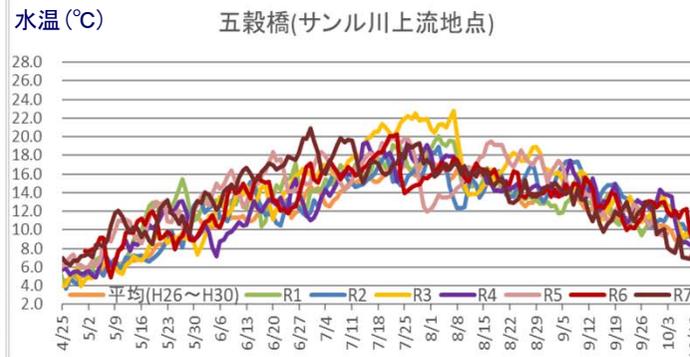
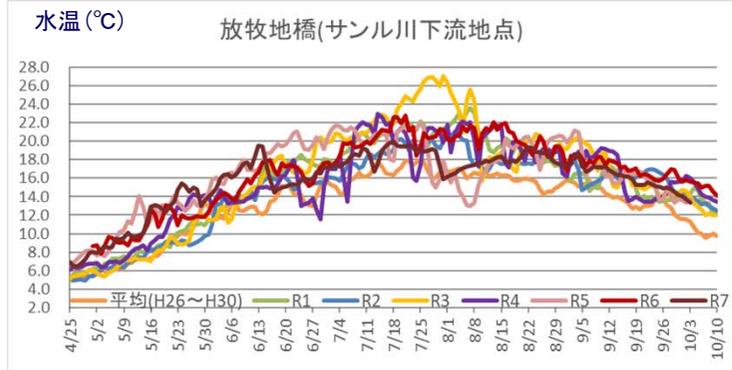
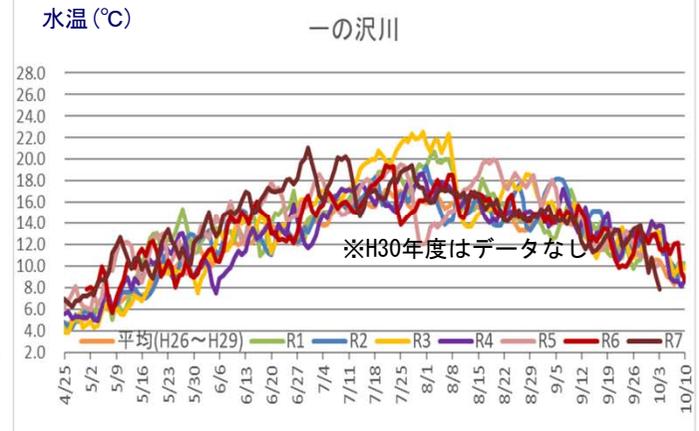
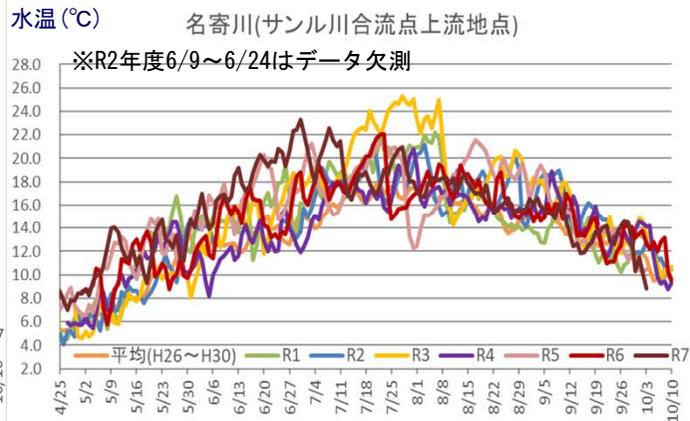
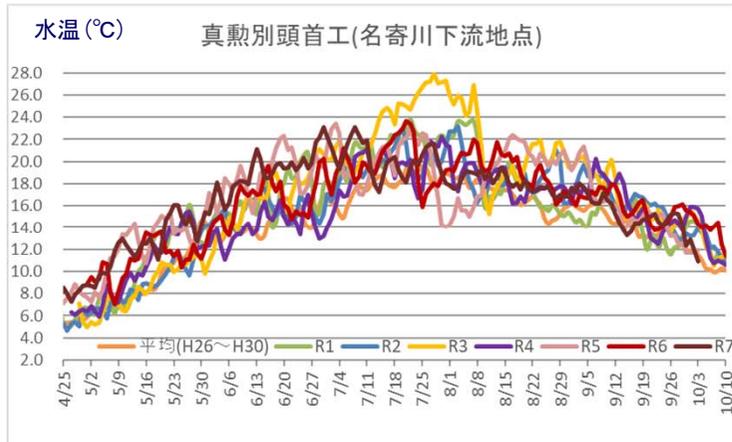




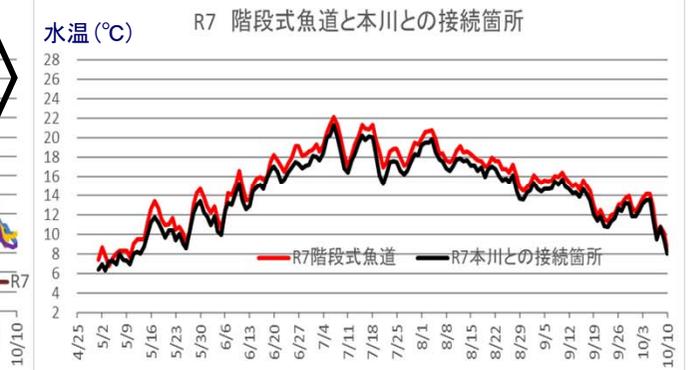
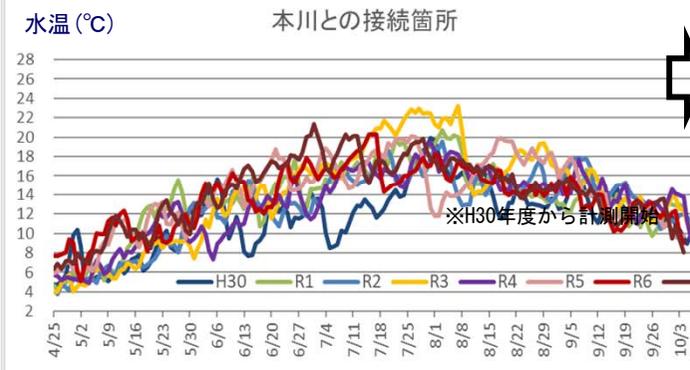
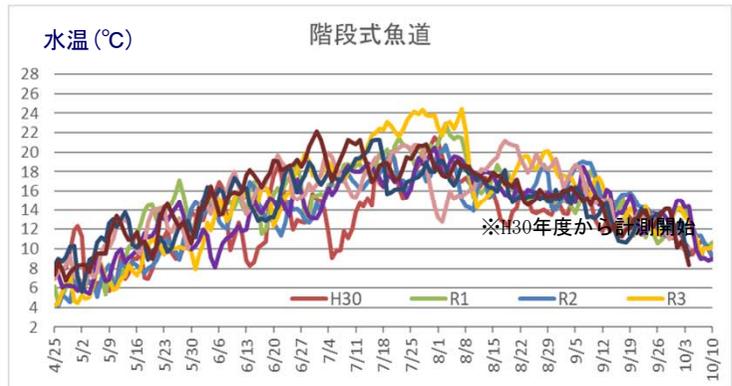
・名寄川・サンル川本支流の水温観測調査として下図に示す箇所に水温計を設置し、令和7年4月25日～10月10日における各観測地点の日平均水温について、過年度水温データとの比較を行った。



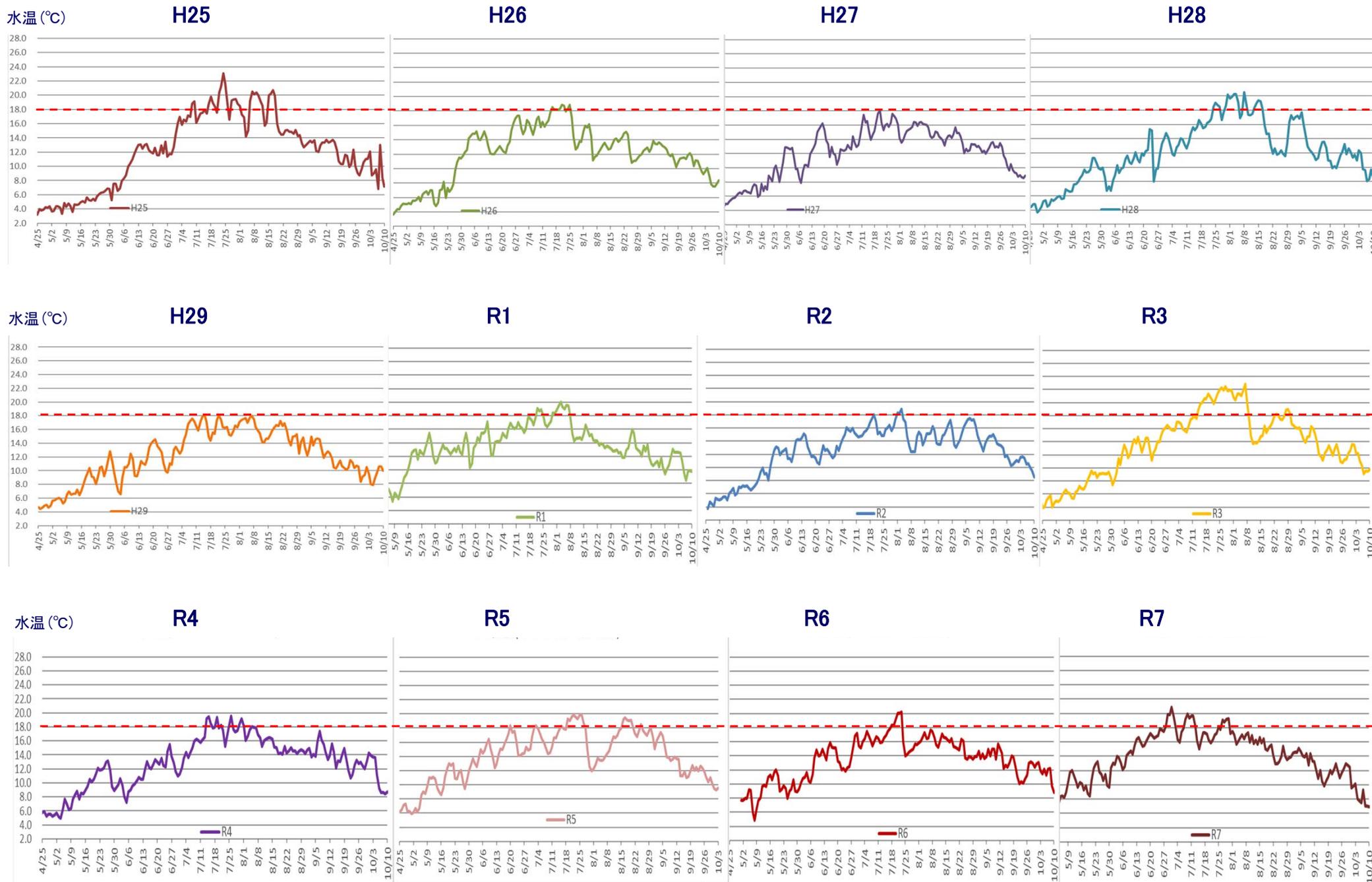
- 令和7年は、5月上旬から7月上旬までやや高い水温となっており、7月中旬以降は降雨の影響により平年を下回る値も観測した。



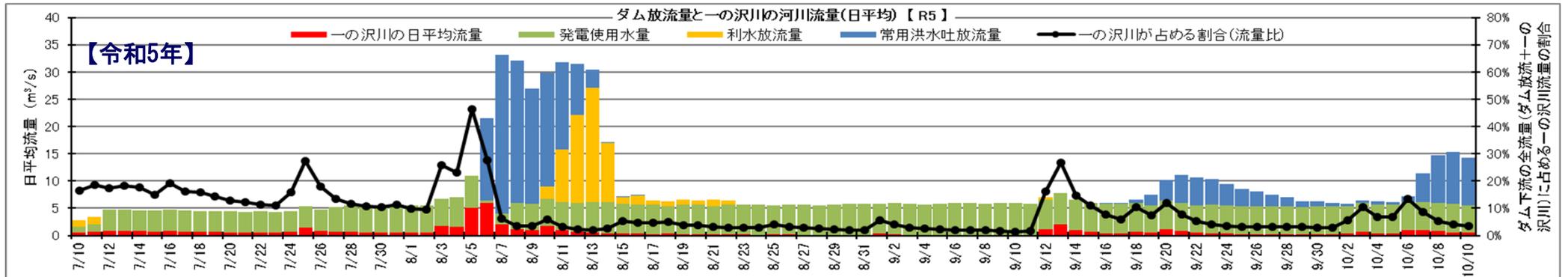
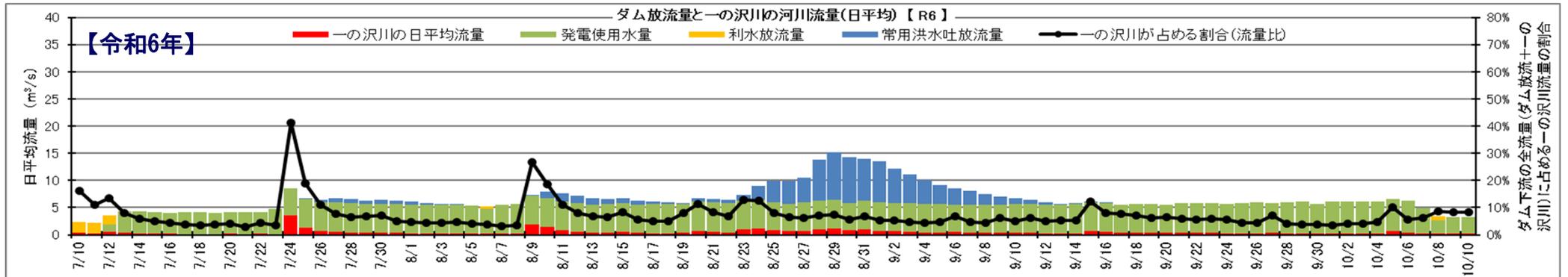
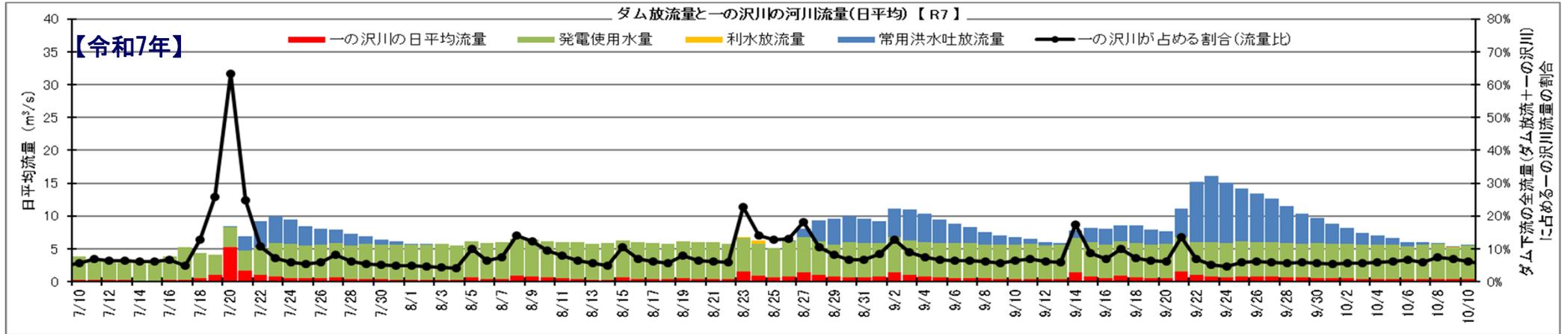
※一の沢川は4か年平均、階段式魚道・本川との接続箇所はH30年度から観測



H25~R7 水温観測結果(サンルダム上流地点・五穀橋)



- ・ 令和7年7月10日～10月10日の間、一の沢川の日平均流量は $0.2\text{m}^3/\text{s}$ ～ $5.3\text{m}^3/\text{s}$ （平均 $0.6\text{m}^3/\text{s}$ ）
- ・ サル川の流量（一の沢川流量＋ダム放流量）に占める割合は、0.2%から63.4%（平均8.5%）
- ・ 令和6年は、一の沢川の流量は $0.1\text{m}^3/\text{s}$ ～ $3.5\text{m}^3/\text{s}$ （平均 $0.5\text{m}^3/\text{s}$ ）、サル川の流量に占める割合は、2.8%から41.1%（平均7.1%）
- ・ 令和5年は、一の沢川の流量は $0.1\text{m}^3/\text{s}$ ～ $5.9\text{m}^3/\text{s}$ （平均 $0.7\text{m}^3/\text{s}$ ）、サル川の流量に占める割合は、1.5%から45.6%（平均9.2%）



令和7年度

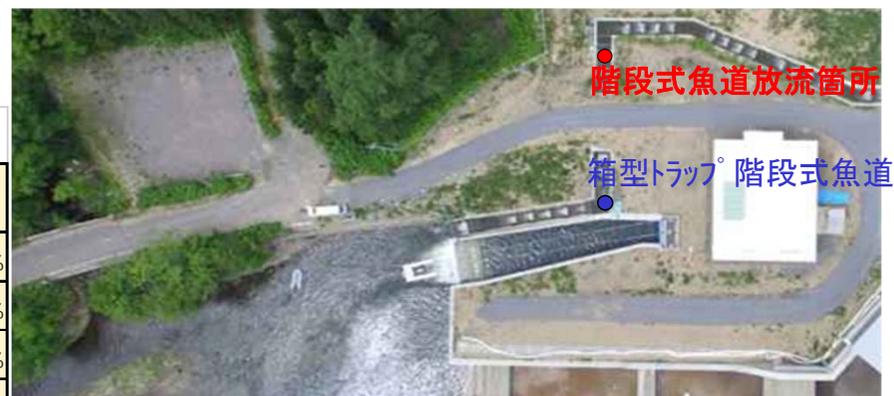
スモルト降下に関する調査・検討について

（採捕効率調査）

4地点でスマルトを採捕しており、採捕に使用したトラップが階段式魚道では箱トラップ、その他の3地点ではスクリュートラップを使用、異なるトラップで採捕を実施している。そのため、採捕数を地点間で比較することは困難であることから、各年の各地点における採捕効率を求め、採捕数及び採捕効率を用いて推定降下数を算出した。

（放流方法）

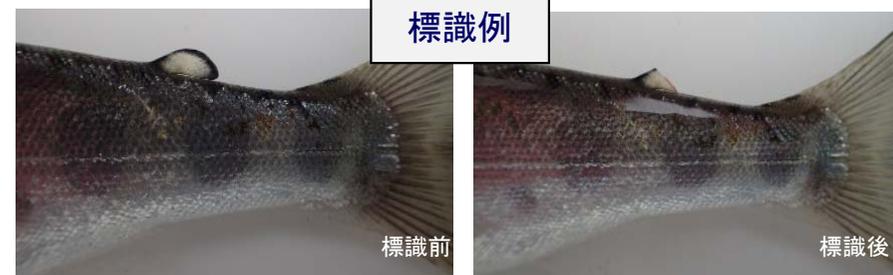
トラップ調査で採捕されたスマルトにヒレ切除の標識を施し、各トラップの上流から放流した。供試魚の放流は1回あたり最大50尾とし、各地点で4回実施し、再採捕数から採捕効率を算出した。



各地点における採捕効率試験結果（R1～R7）

	本川との接続箇所Nb		バイパス水路NA	階段式魚道NE		発電放水路ND
	土のう設置前	土のう設置後		半断面設置時	全断面設置時	
R1	13.1%		48.4%	29.9%		14.0%
R2	10.5%		65.0%	42.2%		15.0%
R3	3.8%		47.0%	27.7%		5.0%
R4	8.8%	31.7%	48.5%	26.1%		19.0%
R5	13.3%	22.0%	58.5%		66.5%	17.0%
R6	13.7%	46.0%	48.0%		77.0%	15.1%
R7	12.8%	42.0%	34.5%		85.0%	11.0%
平均	10.9%	35.4%	50.0%	31.5%	76.2%	13.7%

標識例



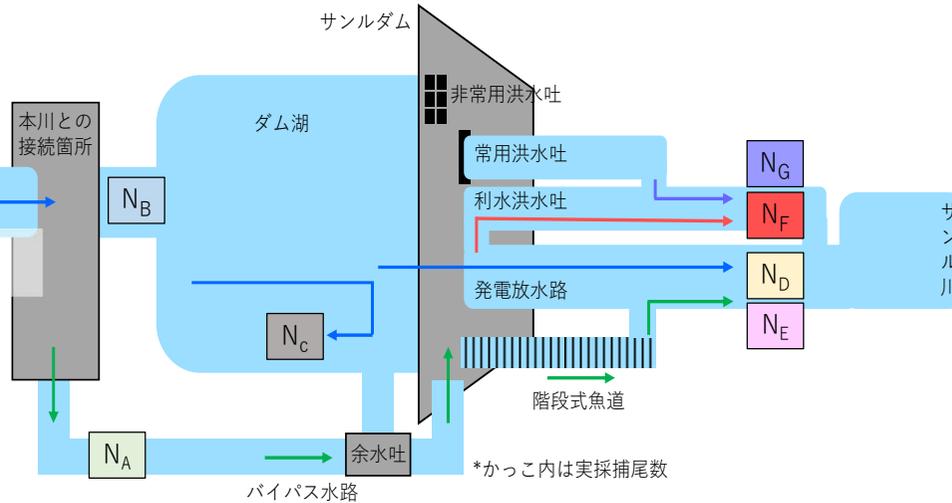
本川との接続箇所：土嚢設置前



本川との接続箇所：土嚢設置後



バイパス水路状況写真



発電放水路状況写真



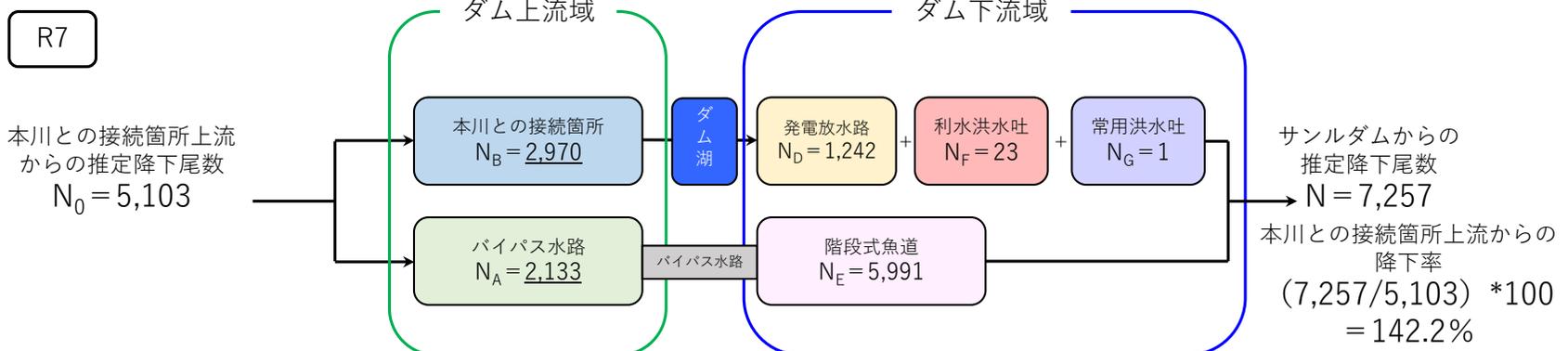
階段式魚道状況写真



- N₀ : 本川との接続箇所より上流の個体
- N_A : バイパス水路に入る個体
- N_B : ダム湖側へ降下する個体
- N_C : 湖沼型となる個体
- N_D : 発電放水路から降下する個体
- N_E : バイパス水路から降下する個体
- N_F : 利水洪水吐から降下する個体
- N_G : 常用洪水吐から降下する個体

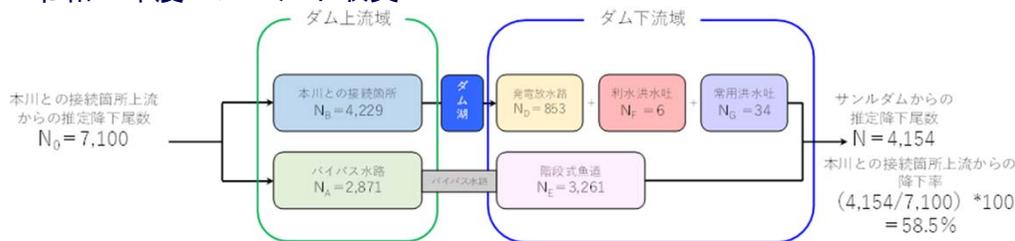
【令和7年度 スマルト収支】

- ・ダム上流域より推定降下数（本川との接続箇所 $N_B=2,970$ + バイパス水路 $N_A=2,133$ = 5,103
- ・ダム下流域より推定降下数（階段式魚道 $N_D=5,991$ + 利水放流吐 $N_F=23$ + 常用洪水吐 $N_G=1$ + 発電放水路 $N_E=1,242$ = 7,257

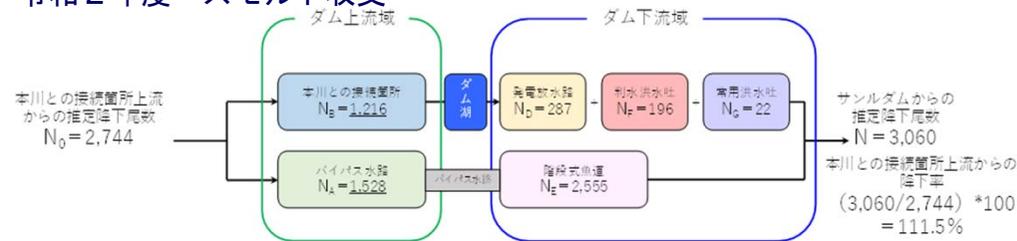


※利水洪水吐・常用洪水吐の推定降下尾数は、発電放水路の採捕数を流量比で算出（採捕効率による算出なし）。

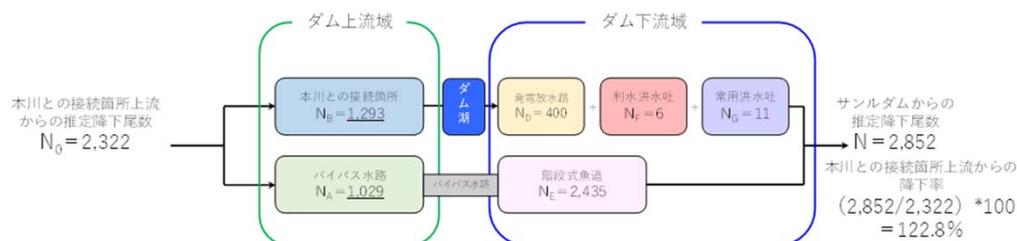
令和6年度 スモルト収支



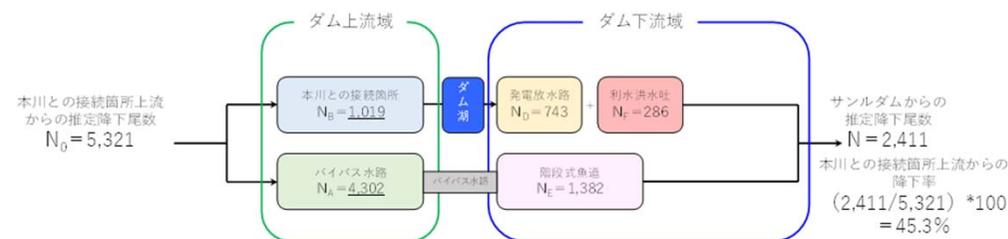
令和2年度 スモルト収支



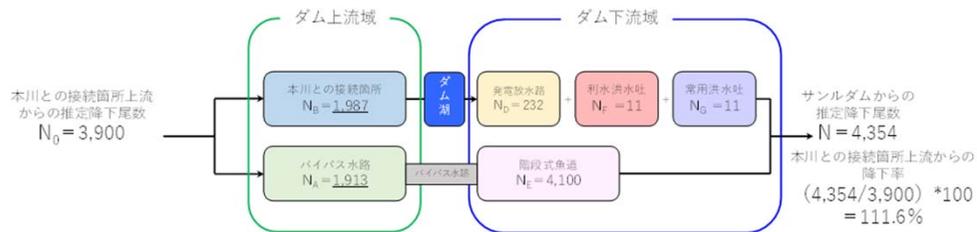
令和5年度 スモルト収支



令和元年度 スモルト収支



令和4年度 スモルト収支

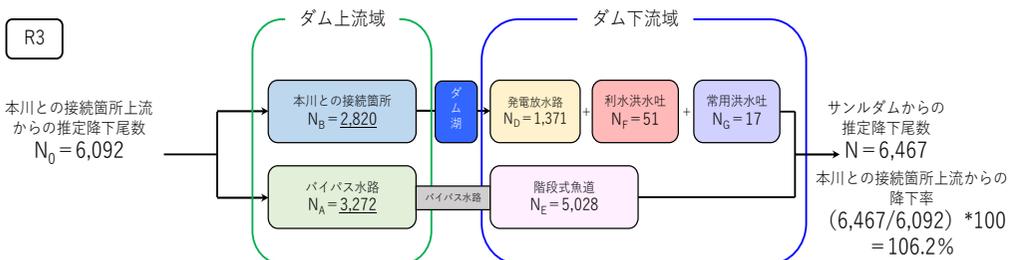


サンルダムにおけるスモルト降下数収支のまとめ (R1～R7)

緑数字は増加数,降下率%; 赤数字は減少数,降下率%

バイパス側	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
バイパスへ入った数 (A)	4,302 尾	1,528 尾	3,272 尾	1,913 尾	1,029 尾	2,871 尾	2,133 尾
階段式魚道を出た数 (B)	1,382 尾	2,555 尾	5,028 尾	4,100 尾	2,435 尾	3,261 尾	5,991 尾
スモルト収支 (B-A)	2920 尾	1027 尾	1756 尾	2187 尾	1406 尾	390 尾	3858 尾
降下率 (増減割合) (B/A)	32.1 %	167.2 %	153.7 %	214.3 %	236.6 %	113.6 %	280.9 %

令和3年度 スモルト収支



ダム湖側	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
ダム湖へ入った数 (A)	1,019 尾	1,216 尾	2,820 尾	1,987 尾	1,293 尾	4,229 尾	2,970 尾
ダム湖を出た数 (B)	1,029 尾	505 尾	1,439 尾	254 尾	417 尾	893 尾	1,266 尾
スモルト収支 (B-A)	10 尾	711 尾	1,381 尾	1,733 尾	876 尾	3,336 尾	1,704 尾
降下率 (増減割合) (B/A)	101.0 %	41.5 %	51.0 %	12.8 %	32.3 %	21.1 %	42.6 %

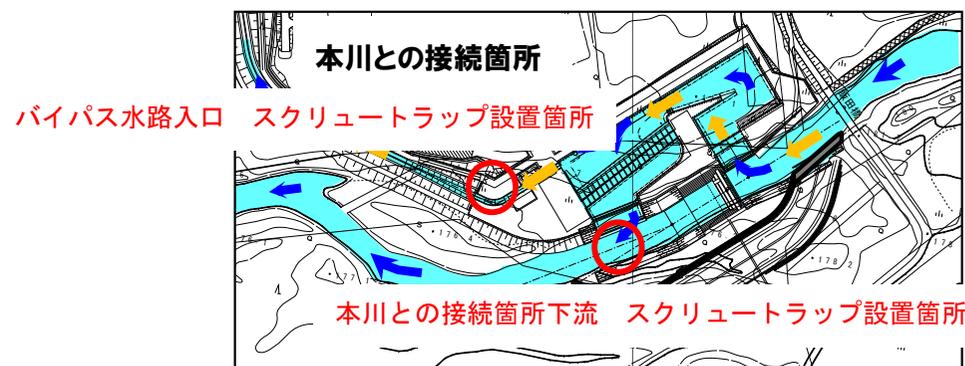
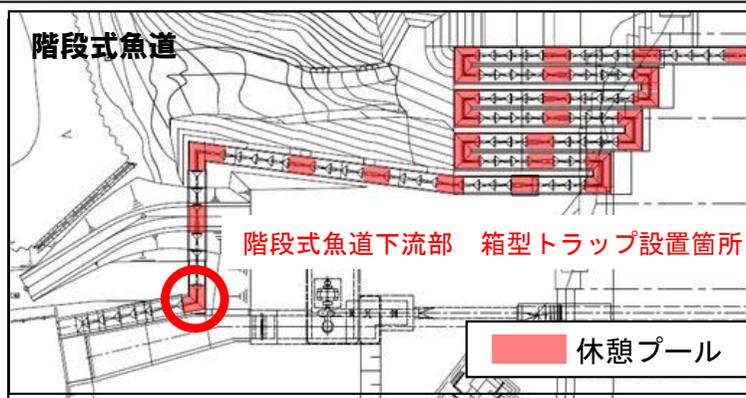
※利水洪水吐・常用洪水吐の推定降下尾数は、発電放水路の採捕数を流量比で算出(採捕効率による算出し)。

スマルト行動調査①(採捕調査)

調査目的: 本川との接続箇所から階段式魚道を含むバイパス水路全川におけるスマルトの降下を確認するため、本川との接続箇所、バイパス水路約7km、階段式魚道約440mを通じたスマルトの行動調査を行う。

調査内容: 本川との接続箇所下流及びバイパス水路入口にスクリュートラップ、階段式魚道下流部に箱型トラップを設置し、魚類の採捕を行う。採捕魚の回収は8:00及び16:00の1日2回とした。

調査時期: スマルト降下期(4月下旬～6月上旬)



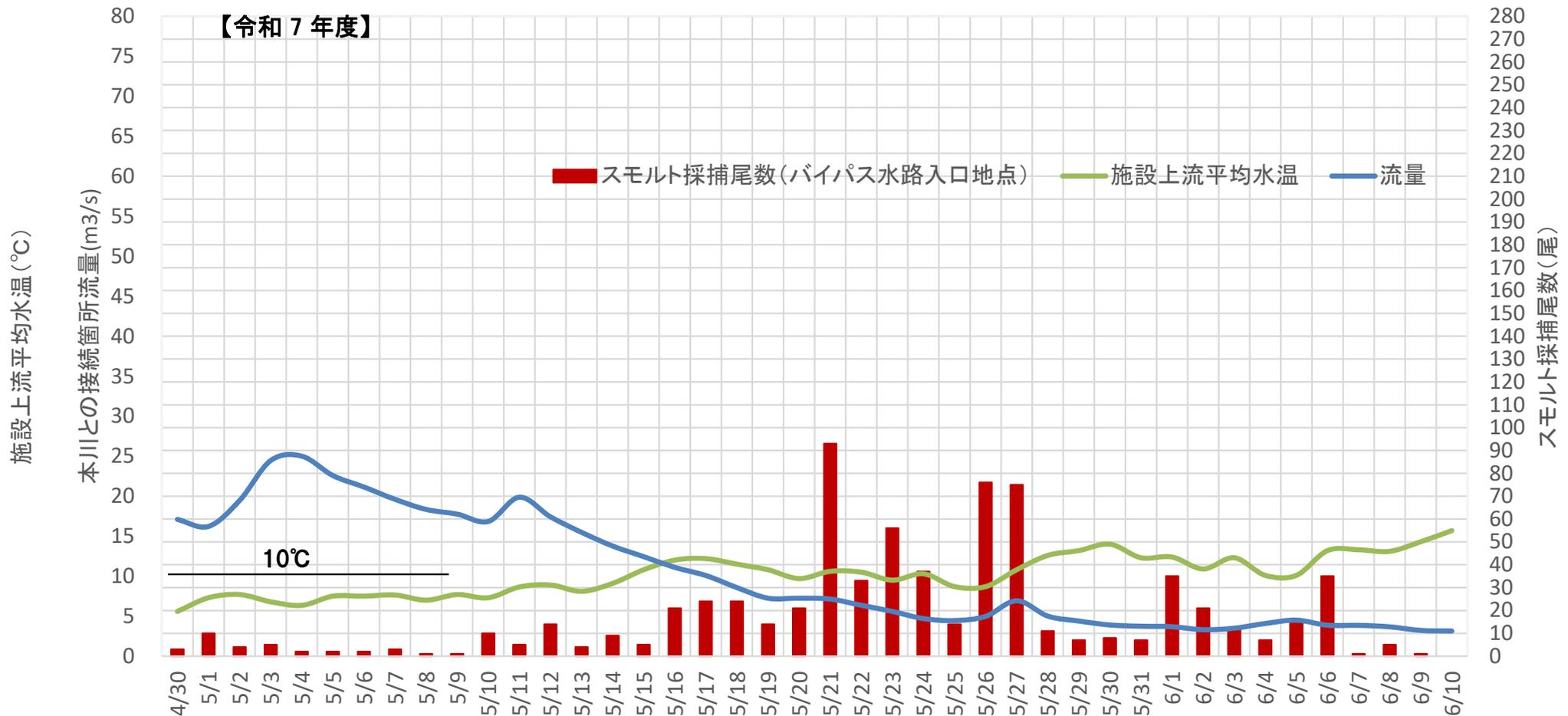
【バイパス水路入口地点のスモルト降下状況(トラップ採捕)】

4/30～6/10までの総数は、733尾(R1～R6平均 1228尾)

- ・4月30日から連続的に採捕され、水温が10℃以上、流量が10m³/s以下となった時期から5月下旬まで多くの個体が確認された。



日平均流量とバイパス水路入口地点のスモルト降下状況(トラップ採捕)



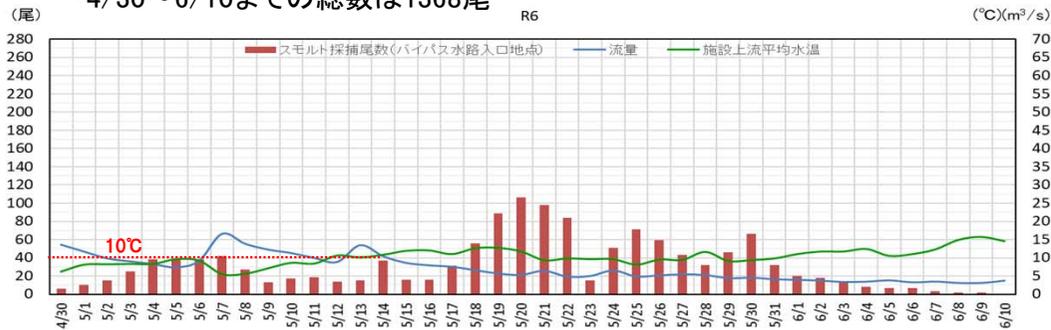
※日々のスモルト採捕尾数は8:00、16:00におけるトラップ採捕数を合計したものである。

※トラップ採捕数は、スクリーン・トラップにて捕獲した分の尾数である。

バイパス水路入口地点のスマルト降下状況(トラップ採捕) (令和元年度～令和6年度)

・日平均流量とバイパス水路入口地点のスマルト降下状況(トラップ採捕)

【令和6年度】トラップ採捕期間 R6/4/25～R6/6/10
・4/30～6/10までの総数は1368尾



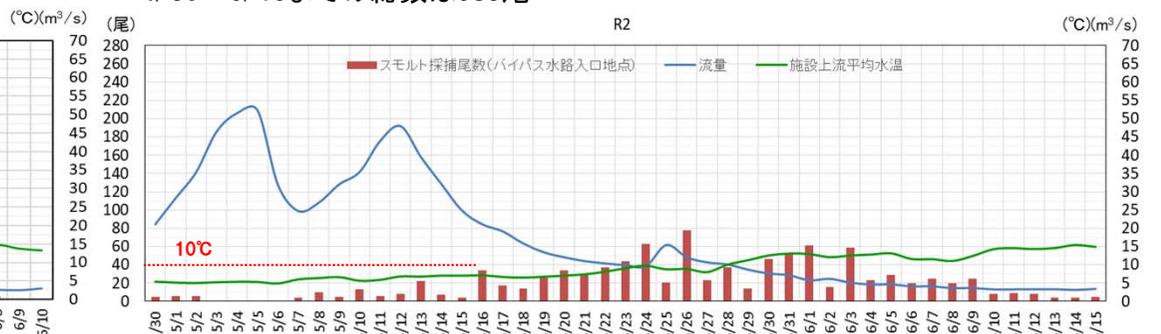
【令和3年度】トラップ採捕期間 R3/4/28～R3/6/15
・4/30～6/15までの総数は1,526尾



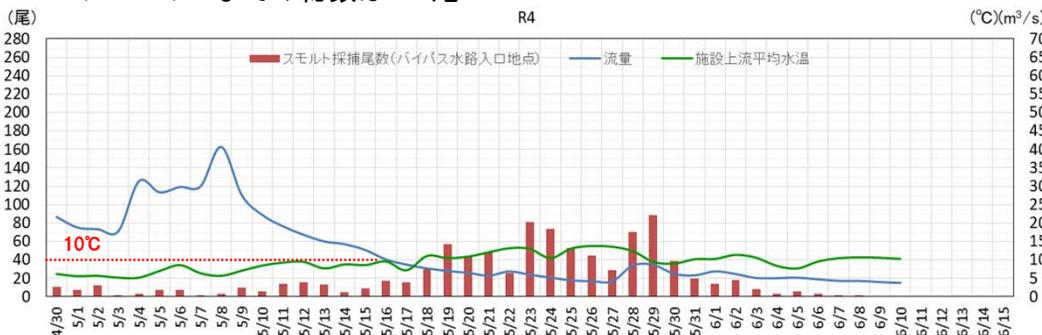
【令和5年度】トラップ採捕期間 R5/4/26～R5/6/10
・4/30～6/10までの総数は600尾



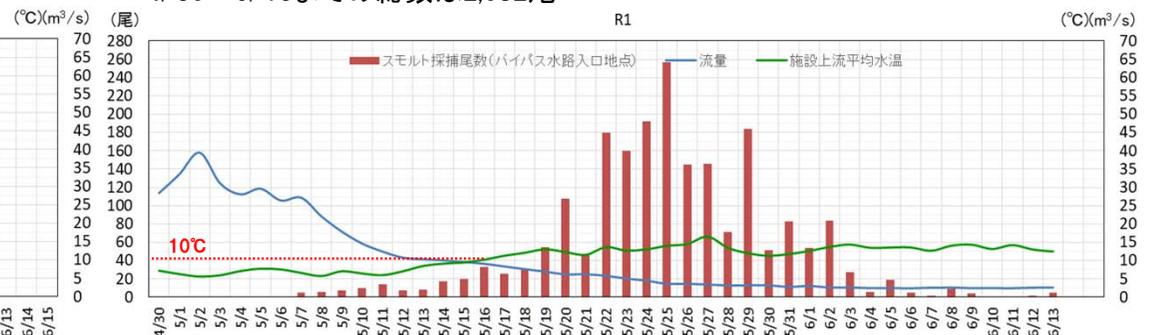
【令和2年度】トラップ採捕期間 R2/4/23～R2/6/15
・4/30～6/15までの総数は983尾



【令和4年度】トラップ採捕期間 R4/4/27～R4/6/10
・4/30～6/10までの総数は921尾



【令和元年度】トラップ採捕期間 H31/4/24～R1/6/13
・4/30～6/13までの総数は2,082尾

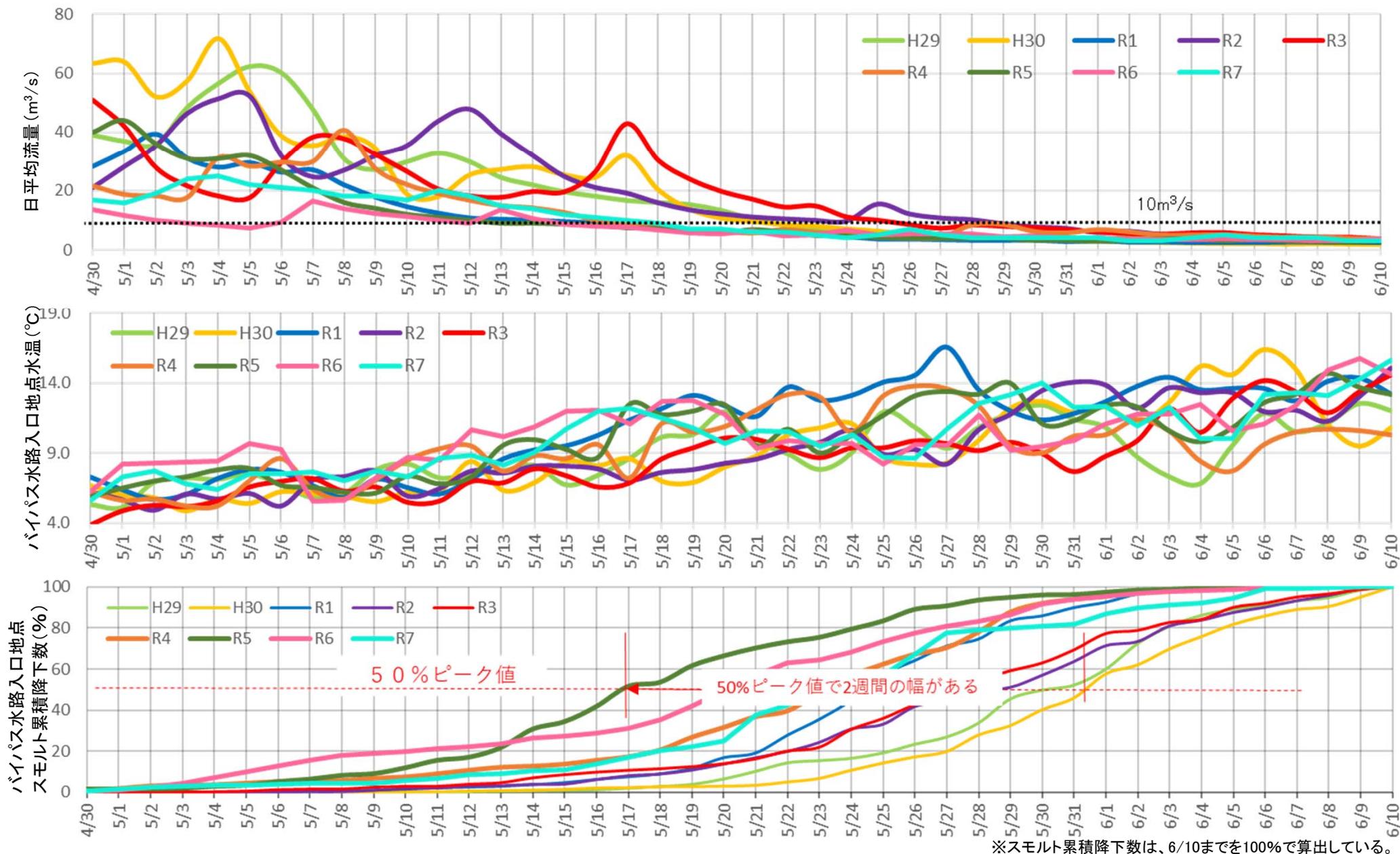


※日々のスマルト採捕尾数は、平成29年度～令和元年度 8:00、12:00、16:00、
令和2年度～令和4年度 8:00、16:00におけるトラップ採捕数を合計したものである。

※トラップ採捕数は、スクリュートラップにて捕獲した分の尾数である。
※過年度のスマルト採捕尾数は、採捕の期間・集計等の見直し・精査をしている。

バイパス水路入口地点の水温・流量、スモルト降下時期 (平成29年度～令和7年度)

- ・4月中旬～下旬に融雪出水のピークがあり、5月の流量は少量であった。
- ・スモルトの降下は、概ね5月上旬から始まり、水温が10℃以上、流量が10m³/s以下となった時期から5月下旬までの間に多くの個体が確認されている。



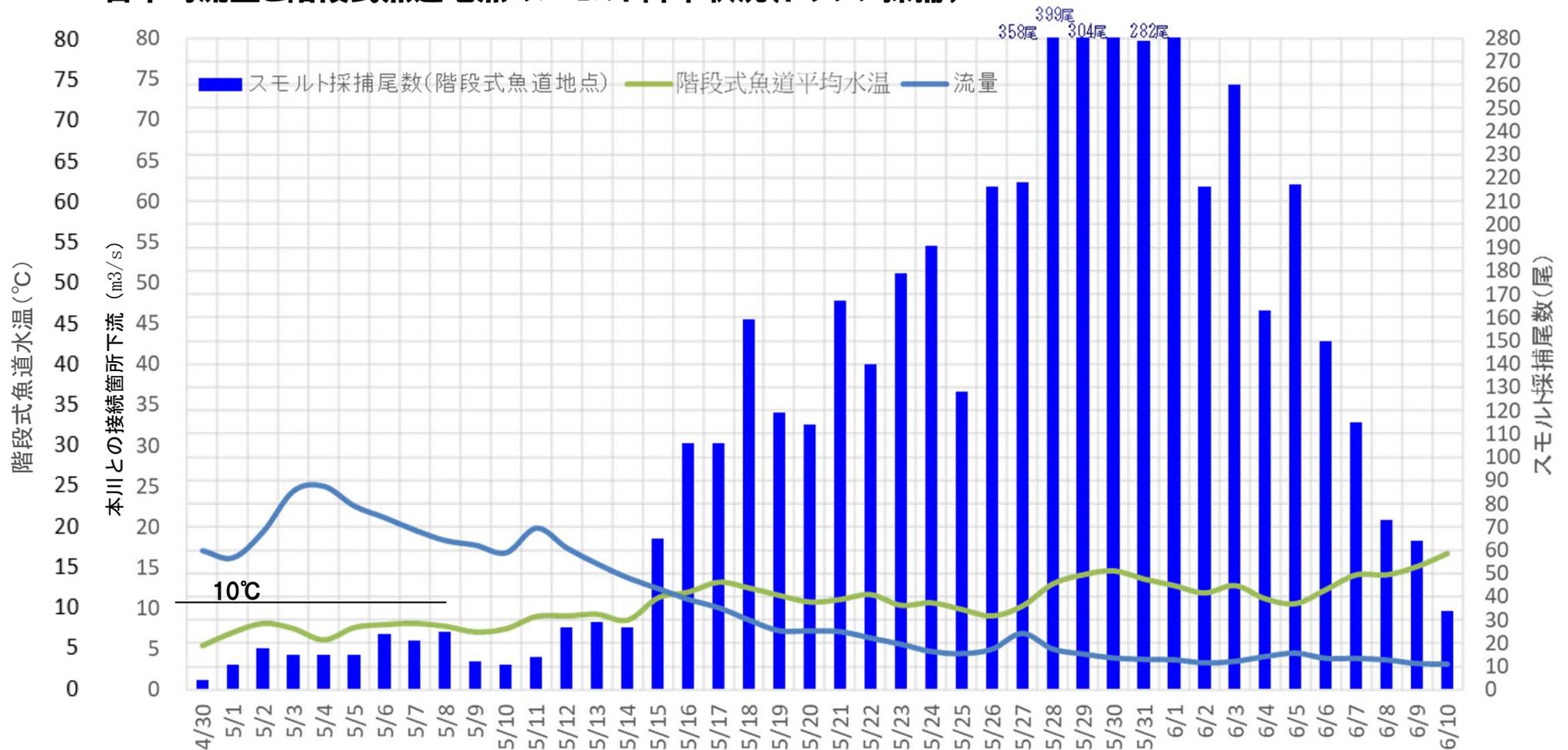
【階段式魚道地点のスマルト降下状況(トラップ採捕)】

4/30～6/10までの総数は 5,090尾(R1～R6平均 1900尾)

・4月30日から連続的に採捕され、水温が10℃以上となった時期から6月上旬まで多くの個体を確認し、5/30に過去最大399尾を採捕した。



日平均流量と階段式魚道地点のスマルト降下状況(トラップ採捕)



※日々のスマルト採捕尾数は8:00、16:00におけるトラップ採捕数を合計したものである。

※トラップ採捕数は、箱型トラップにて捕獲した分の尾数である。

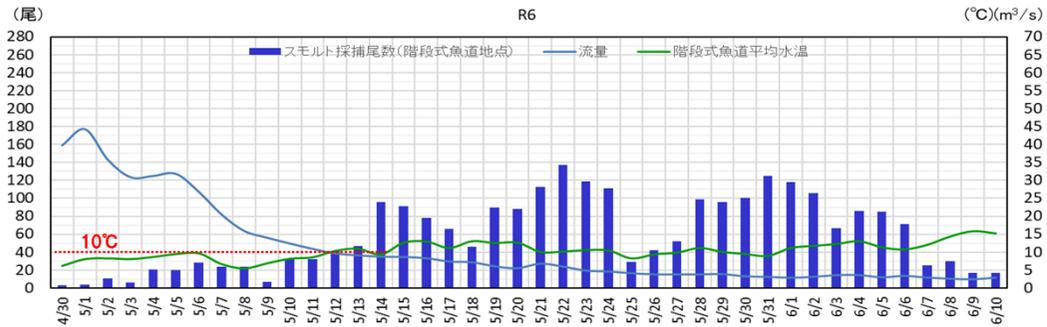
階段式魚道地点のスマルト降下状況(トラップ採捕)

(令和元年度～令和6年度)

・日平均流量と階段式魚道地点のスマルト降下状況(トラップ採捕)

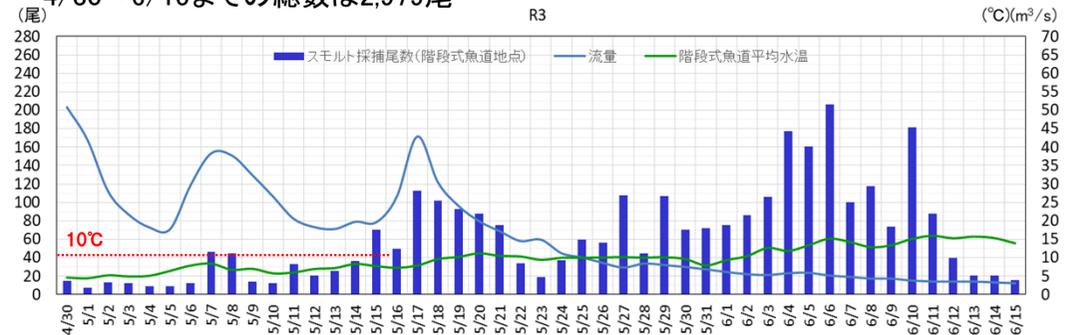
【令和6年度】トラップ採捕期間 R6/4/25 ~ R6/6/10

・4/30~6/10までの総数は2,484尾



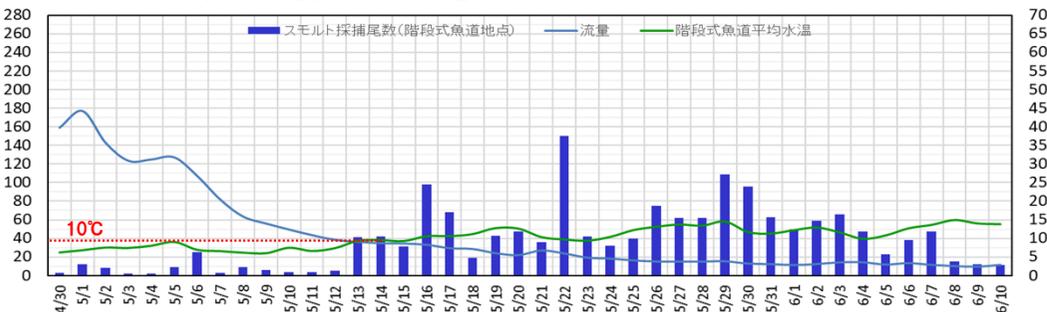
【令和3年度】トラップ採捕期間 R3/4/28 ~ R3/6/15

・4/30~6/15までの総数は2,979尾



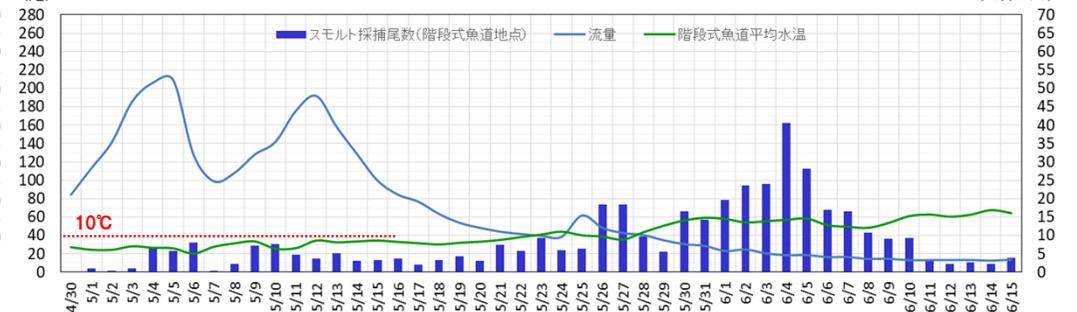
【令和5年度】トラップ採捕期間 R5/4/26 ~ R5/6/10

・4/30~6/10までの総数は1,616尾



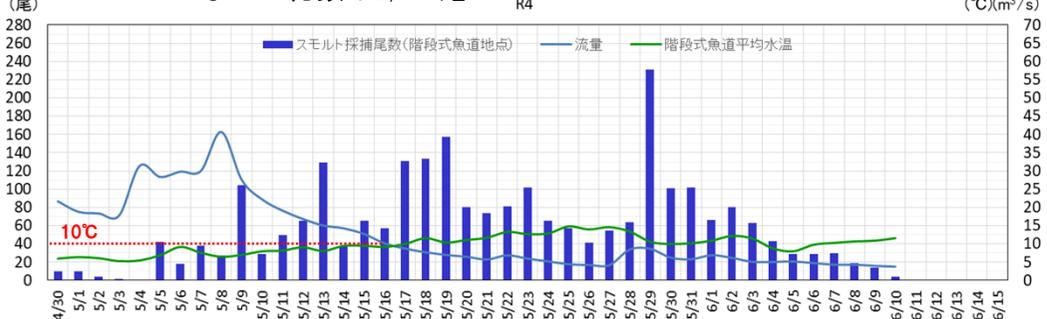
【令和2年度】トラップ採捕期間 R2/4/23 ~ R2/6/15

・4/30~6/15までの総数は1,633尾



【令和4年度】トラップ採捕期間 R4/4/27 ~ R4/6/10

・4/30~6/10までの総数は2,539尾



【令和元年度】トラップ採捕期間 H31/4/24 ~ R1/6/13

・4/30~6/13までの総数は805尾



※日々のスマルト採捕尾数は、平成30年度 8:00、12:00、16:00、
令和元年度～令和4年度 8:00、16:00におけるトラップ採捕数を合計したものである。

※トラップ採捕数は、スクリュートラップにて捕獲した分の尾数である。
※過年度のスマルト採捕尾数は、採捕の期間・集計等の見直し・精査をしている。

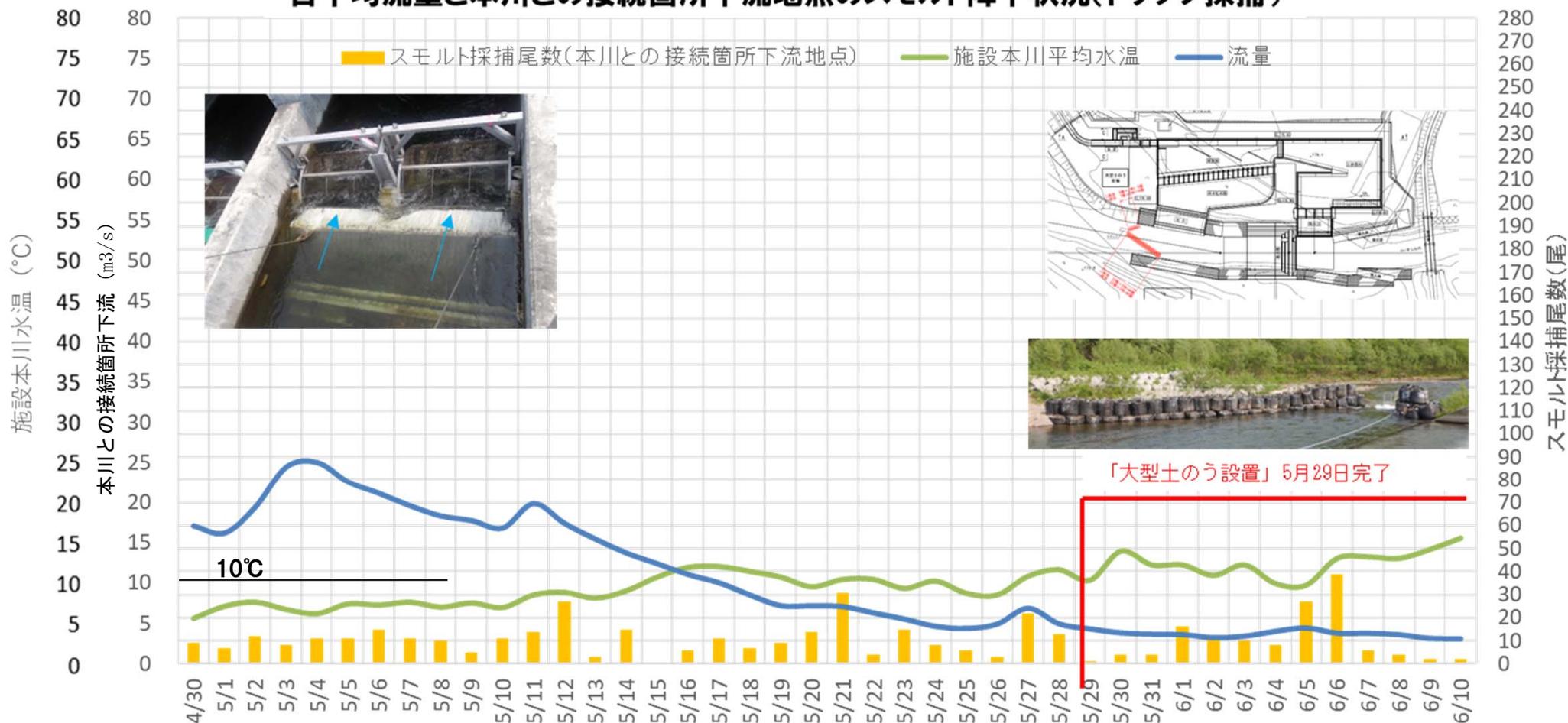
【本川との接続箇所下流地点のスモルト降下状況(トラップ採捕)】
4/30~6/10までの総数は453尾(R1~R6平均 321尾)

- ・採捕したスモルト及び幼魚は、供試魚に使用するもの以外は、バイパス水路に放流している。

本川との接続箇所下流 スクリュートラップ設置状況



日平均流量と本川との接続箇所下流地点のスモルト降下状況(トラップ採捕)



※日々のスモルト採捕尾数は8:00、16:00におけるトラップ採捕数を合計したものである。
※トラップ採捕数は、スクリーントラップにて捕獲した分の尾数である。

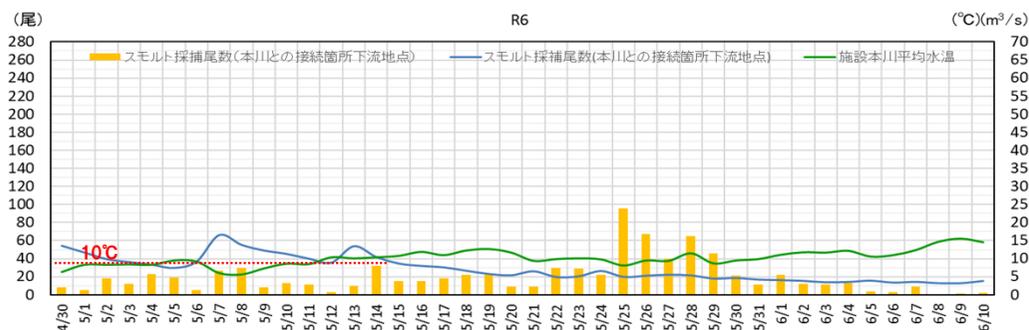
本川との接続箇所下流地点のスマルト降下状況(トラップ採捕)

(令和元年度～令和6年度)

・日平均流量と本川との接続箇所下流地点のスマルト降下状況(トラップ採捕)

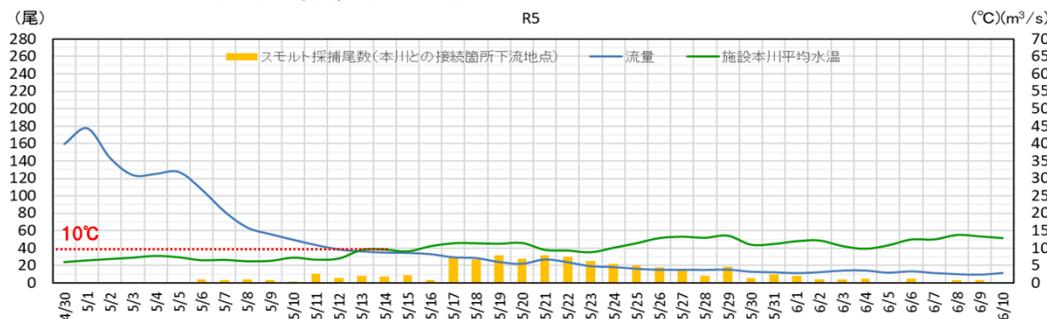
【令和6年度】トラップ採捕期間 R6/4/25 ~ R3/6/10

・4/30~6/15までの総数は837尾



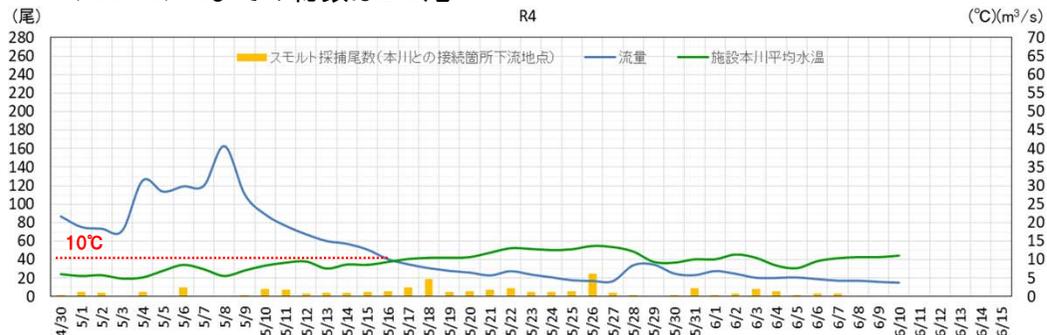
【令和5年度】トラップ採捕期間 R5/4/26 ~ R5/6/10

・4/30~6/10までの総数は429尾



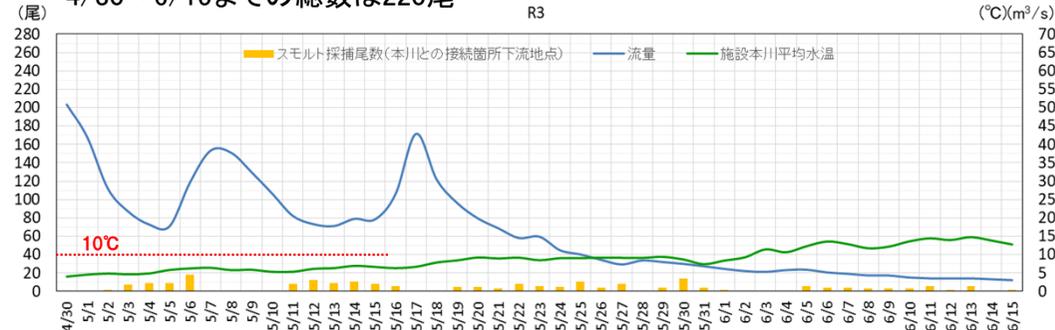
【令和4年度】トラップ採捕期間 R4/4/27 ~ R4/6/10

・4/30~6/10までの総数は208尾



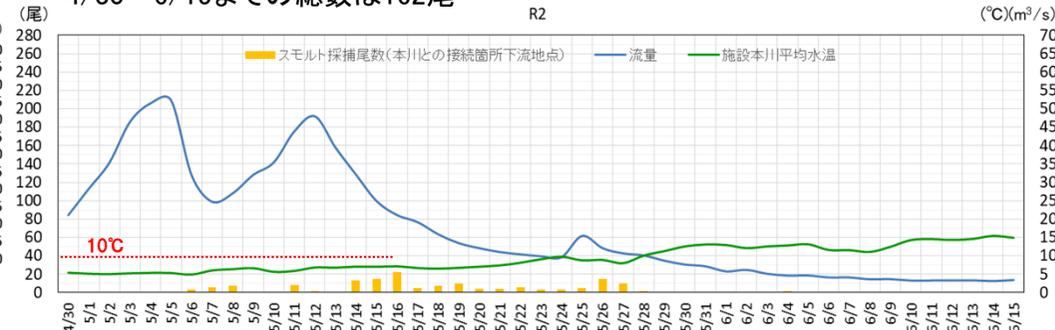
【令和3年度】トラップ採捕期間 R3/4/28 ~ R3/6/15

・4/30~6/15までの総数は220尾



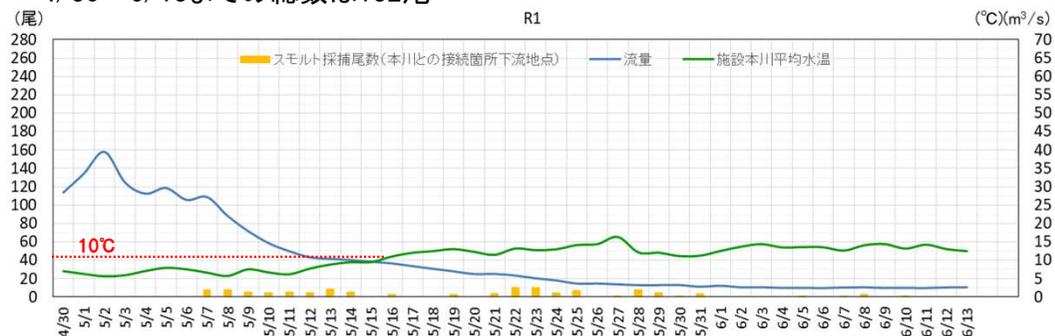
【令和2年度】トラップ採捕期間 R2/4/23 ~ R2/6/15

・4/30~6/15までの総数は162尾



【令和元年度】トラップ採捕期間 H31/4/24 ~ R1/6/13

・4/30~6/13までの総数は132尾



※トラップ採捕数は、スクリーントラップにて捕獲した分の尾数である。

※過年度のスマルト採捕尾数は、採捕の期間・集計等の見直し・精査をしている。

- ・サクラマス幼魚は、植生カバー部や河床部の石材の隙間で確認された。
- ・一般的に越冬時は幼魚の減耗率が高く、水中の草の根やブッシュが越冬環境に重要であり、バイパス水路は、越冬環境を有し、サクラマス幼魚が越冬し、成長していると考える。

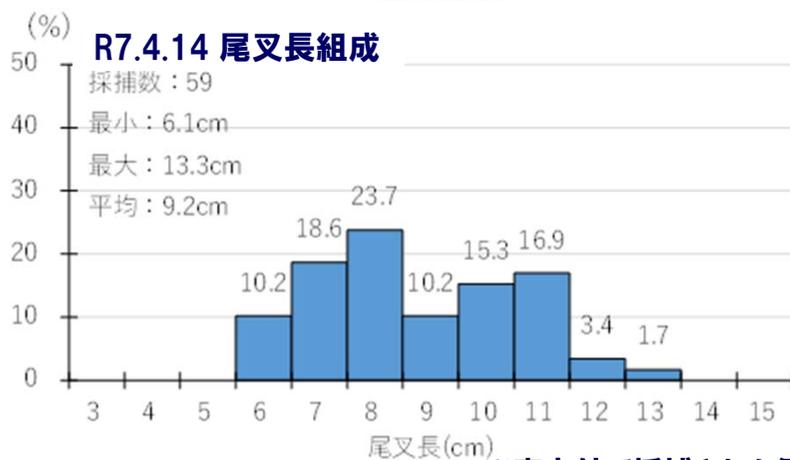
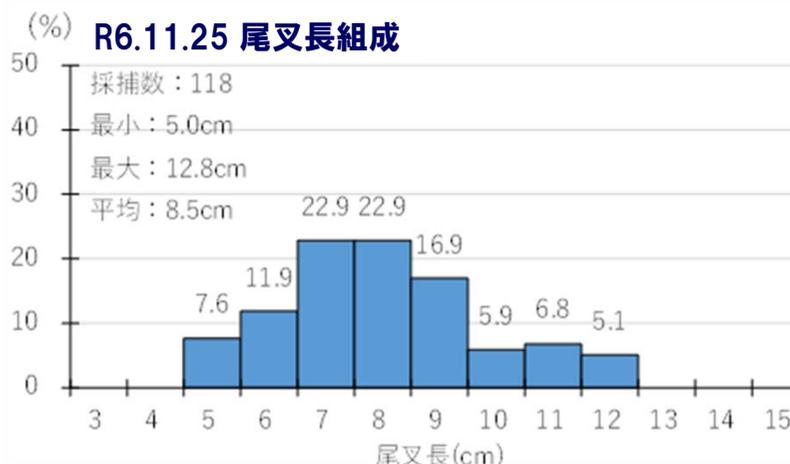
・令和6年11月25日サクラマス幼魚捕数 N=16 (水温 5.6℃ 流量Q=1.5m³/s程度)

・令和7年 4月14日サクラマス幼魚捕数 N=42 (水温 3.5℃ 流量Q=1.0m³/s程度)

【調査区間の状況】



【尾叉長】



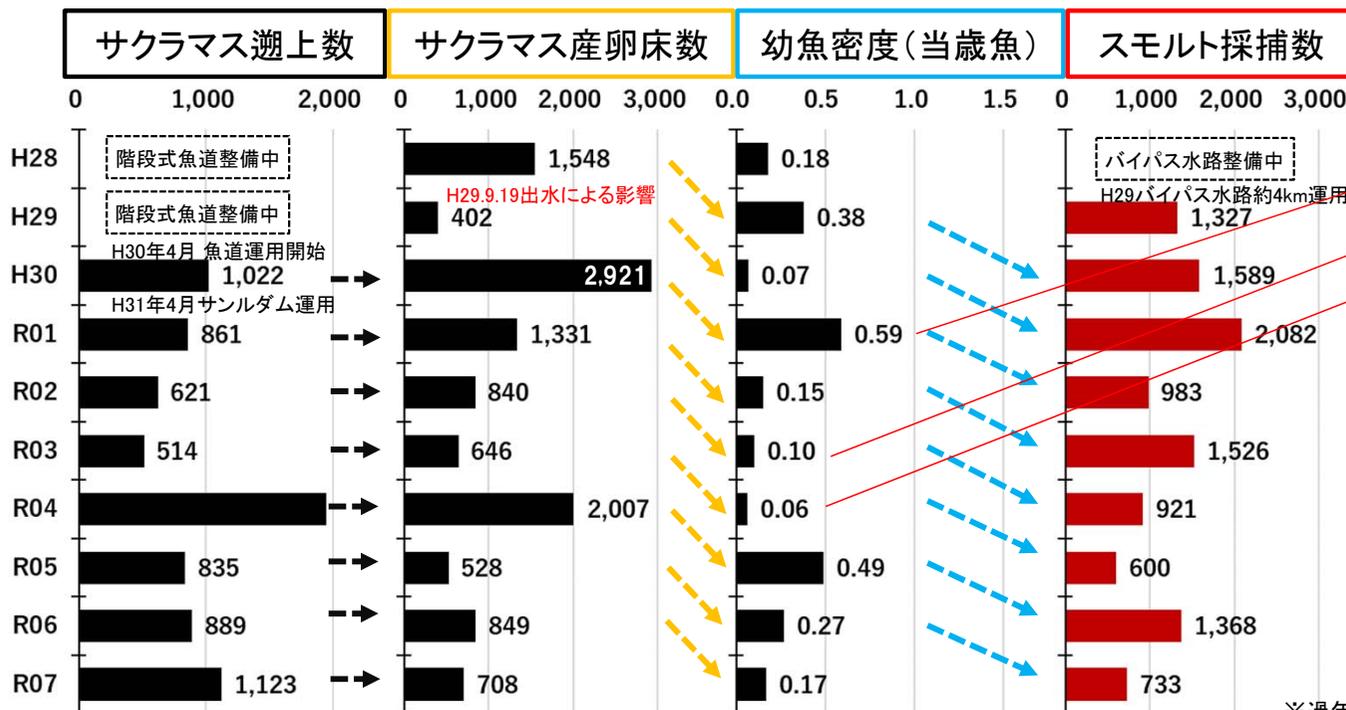
※定点外で採捕された個体も含む

【バイパス水路入口地点のスマルト降下について】

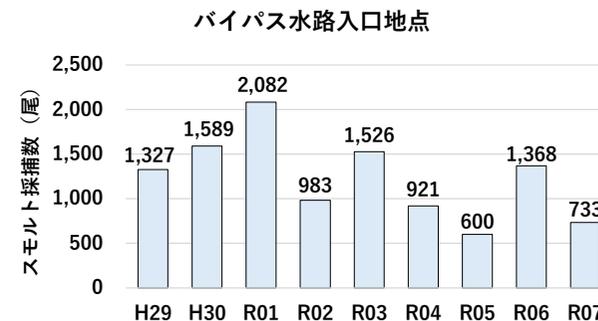
・令和7年度のバイパス水路入口地点での採捕尾数は、733尾であった。

・令和7年度のスマルト採捕数については、前年のダム上流河川における河川水量・水温等及び、幼魚生息密度に応じた成長の影響がスマルト化に起因している傾向が見られる。

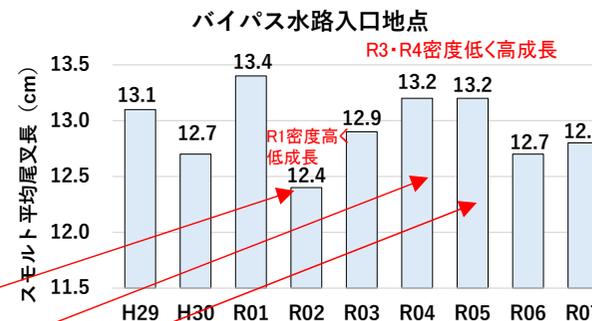
【遡上数、産卵床数、幼魚生息密度、スマルト採捕尾数の関係】



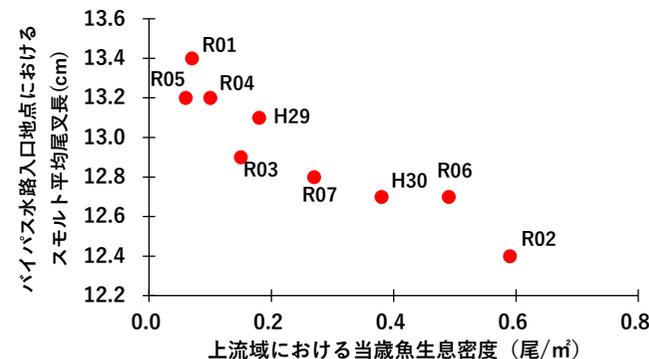
【バイパス水路入口地点のスマルト採捕尾数】



【バイパス水路入口地点のスマルト平均尾叉長】



【スマルト平均尾叉長と前年幼魚生息密度の関係】



※過年度のスマルト採捕尾数は、採捕の期間・集計等の見直し・精査をしている。

【階段式魚道地点のスマルト降下について】

・令和7年の階段式魚道地点におけるスマルト採捕数は5,090尾、バイパス水路入口地点733尾に対して多い状況であった。

・バイパス水路完成時は水際及び水中に植生は無く、その数年後水際に植生が繁茂し、水中に植物の根がブッシュ状になっている箇所が確認され、幼魚の越冬環境を有している。バイパス水路内の餌環境は小河川(サンル十二線川)程度を確認している。

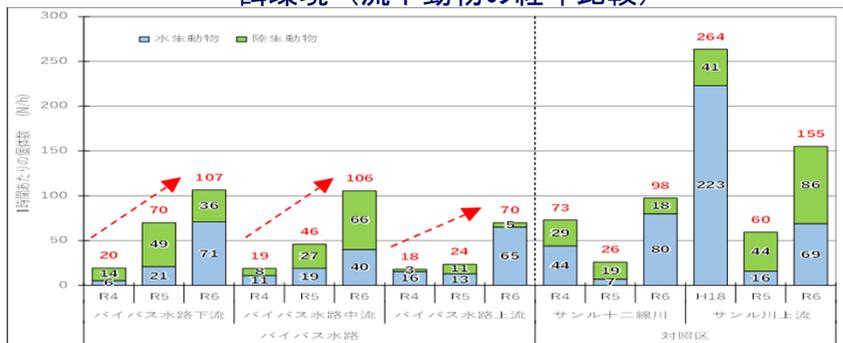
・幼魚はバイパス水路内で越冬、成長し春にスマルト化して降下することから、階段式魚道でのスマルト採捕数がバイパス水路入り口よりも多くなっていると考ええる。

【階段式魚道地点、バイパス水路入口地点のスマルト採捕尾数】



- ※1 前年H29にバイパス水路を約4kmから約7kmの整備
- ※2 前年H30試験湛水によりバイパス水路も湛水
- ※3 過年度のスマルト採捕尾数は、採捕の期間・集計等の見直し・精査をしている。

餌環境 (流下動物の経年比較)



流下動物調査の分析結果

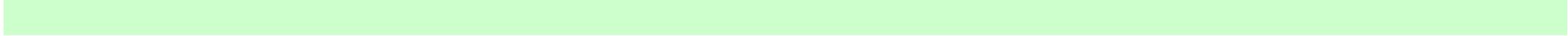


バイパス水路 生息環境改善状況 (敷鉄板)



バイパス水路 植生繁茂状況





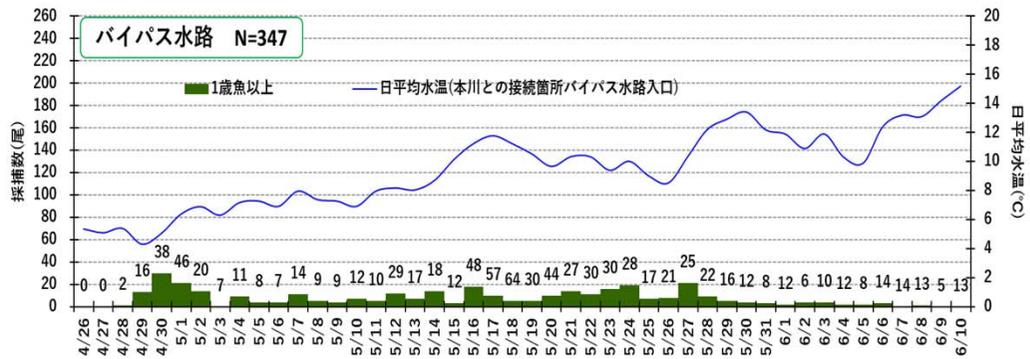
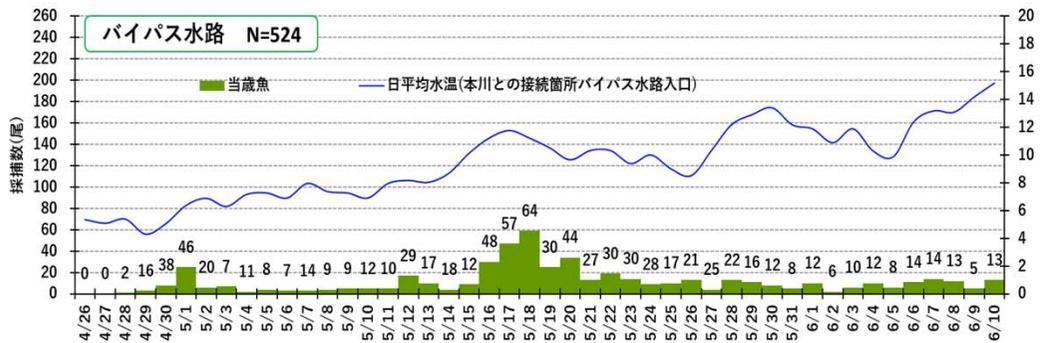
令和7年度

サクラマス幼魚移動実態調査・検討について

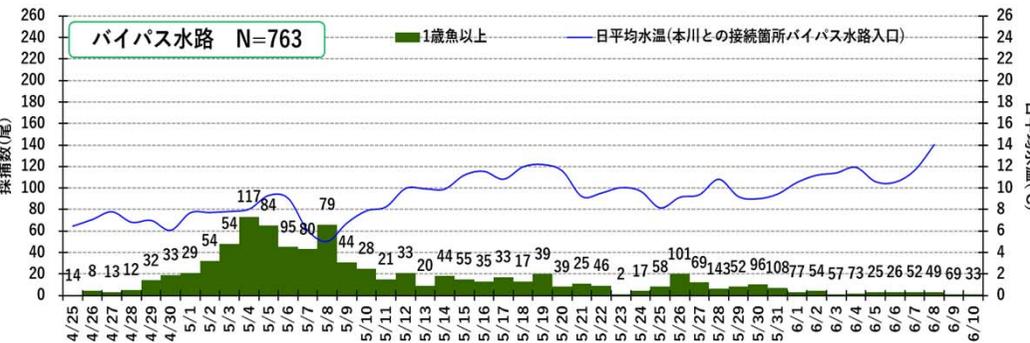
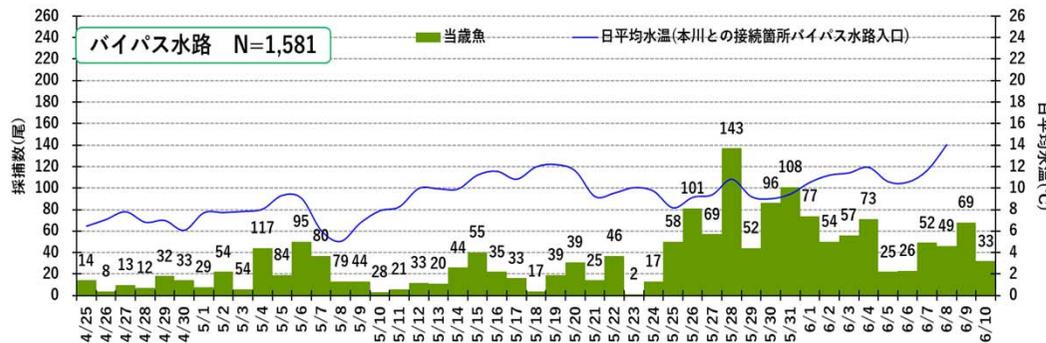
令和7年度 バイパス水路入口地点におけるサクラマス幼魚降下調査結果 (トラップ採捕)

R7年 4/26~6/10までの総数(当歳魚+1歳魚以上) 871尾 (R1~R6平均 1652尾)

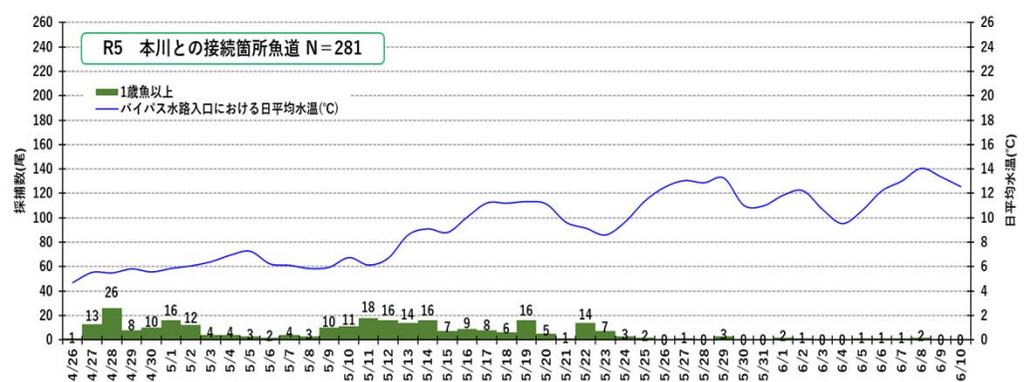
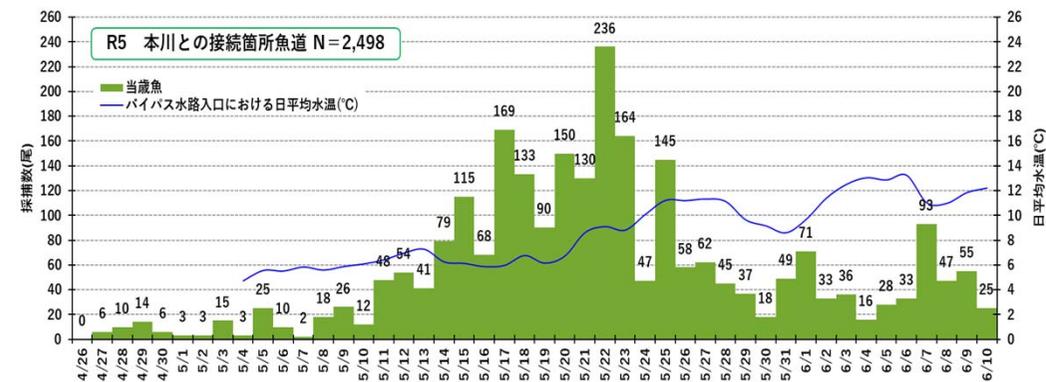
【令和7年度】



【令和6年度】



【令和5年度】



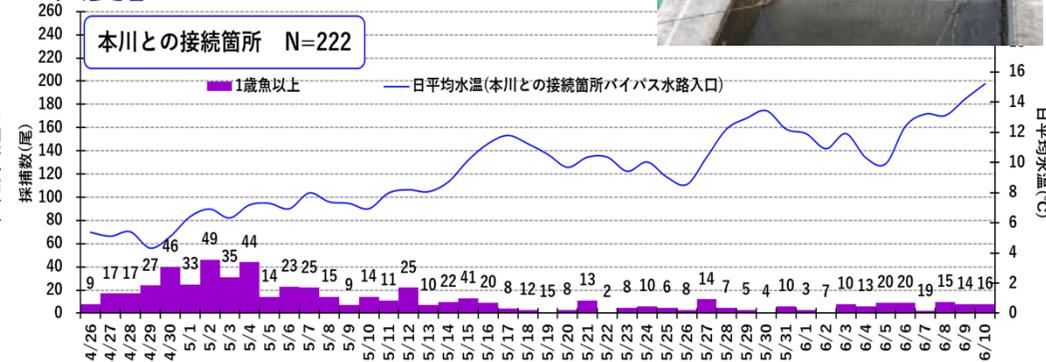
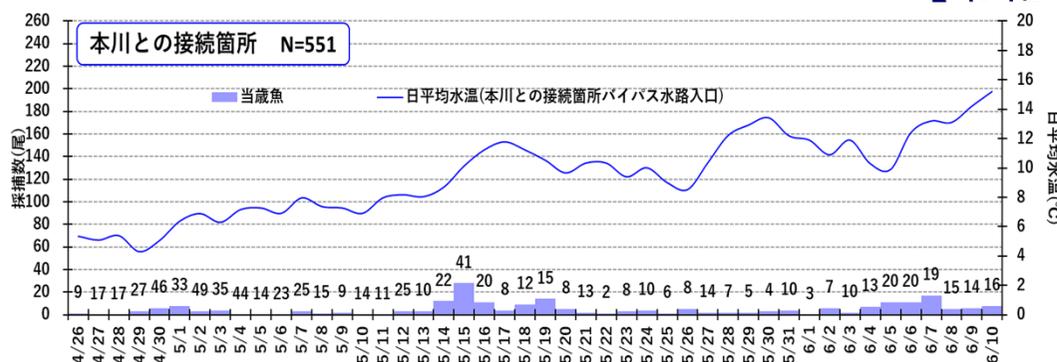
幼魚(0+) 移動実態調査結果 (令和5年度～令和7年度)

R7年 4/26～6/10までの総数(当歳魚+1歳魚以上) 773尾 (R1～R6平均 1183尾)

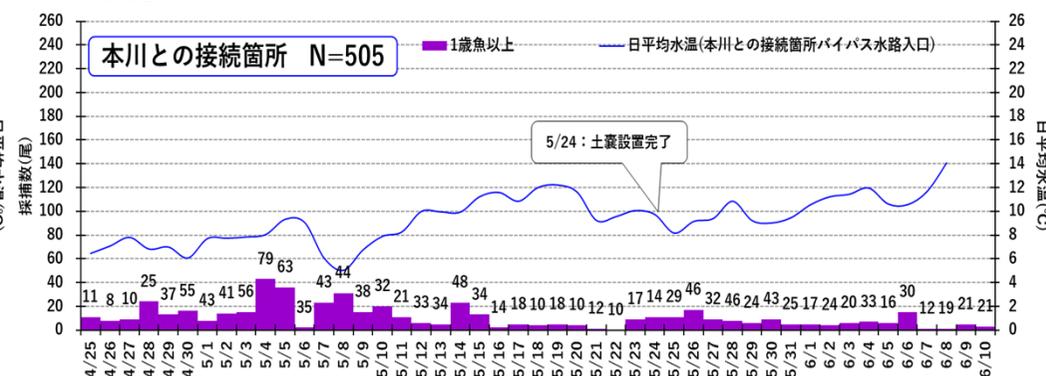
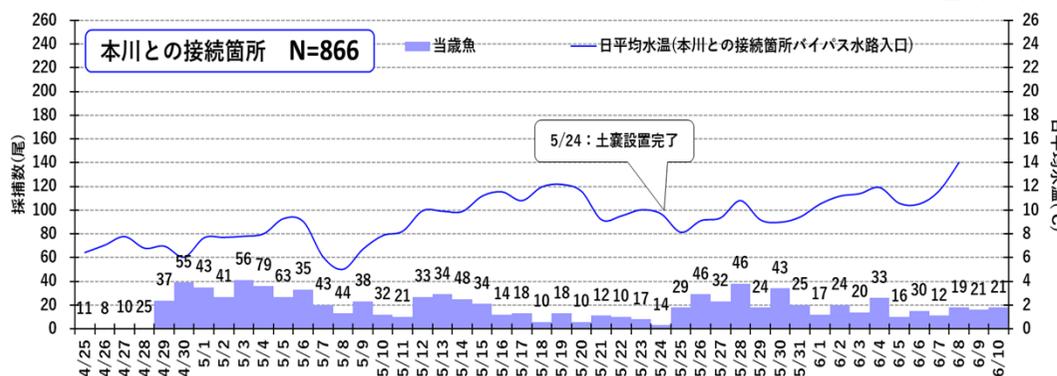
R7よりドラムスクリーンの隙間をマット設置し解消、ダム湖へ幼魚進入を抑制



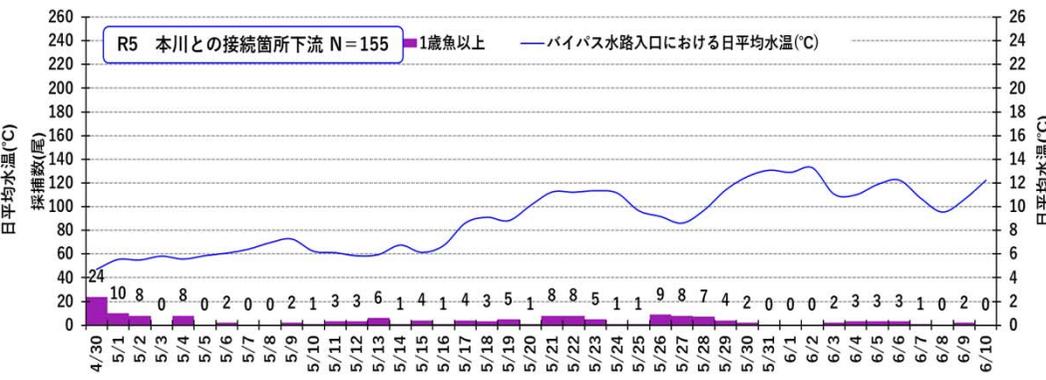
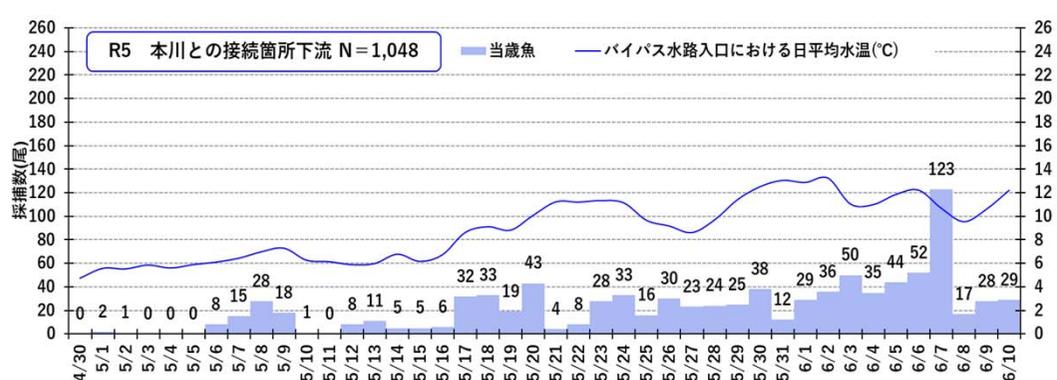
【令和7年度】



【令和6年度】



【令和5年度】

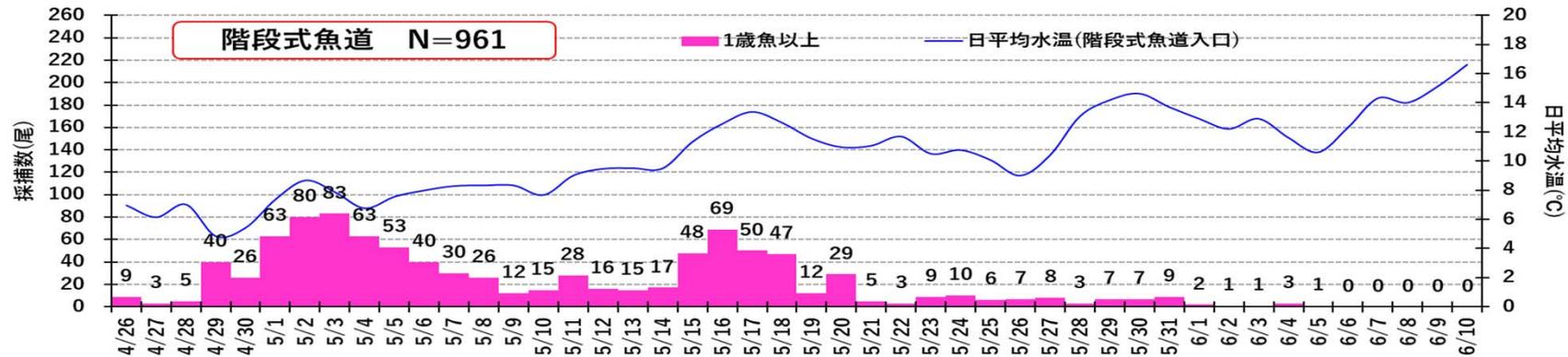


令和7年度 階段式魚道地点におけるサクラマス幼魚降下調査結果 (トラップ採捕)

R7年 4/26～6/10までの総数(1歳魚以上) 961尾 (R1～R6平均 955尾)

※箱トラップのメッシュサイズは10mm、
当歳魚などは目こぼれして採捕できない。

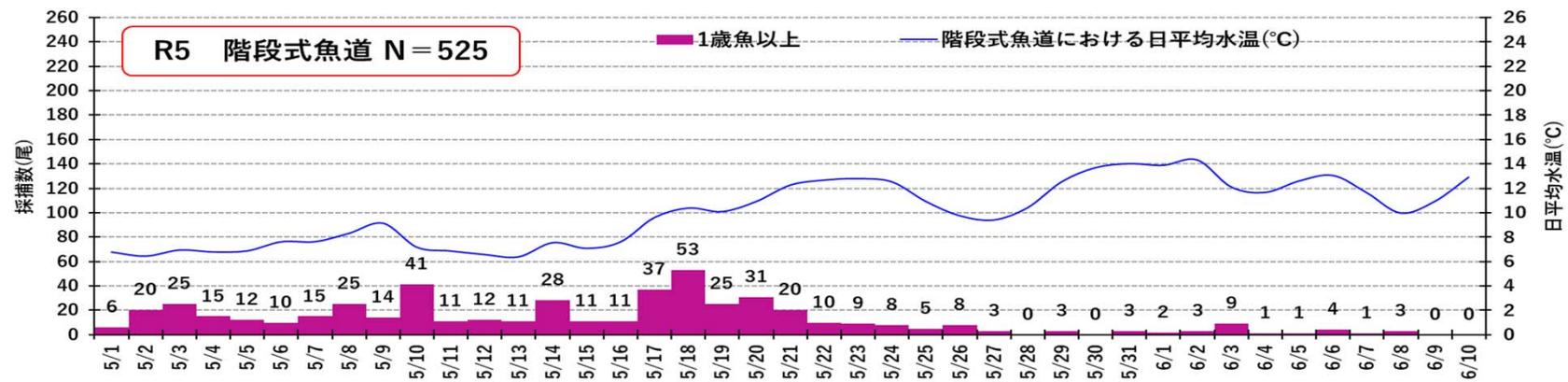
【令和7年度】



【令和6年度】



【令和5年度】



サクラマス幼稚魚移動実態調査

調査目的: サンプルダム周辺における幼稚魚の移動分布状況を把握する。

調査内容: 標識放流※・再採捕による移動分布状況及び幼稚魚生息密度算出

調査時期: 採捕・標識放流(4月下旬～6月上旬)

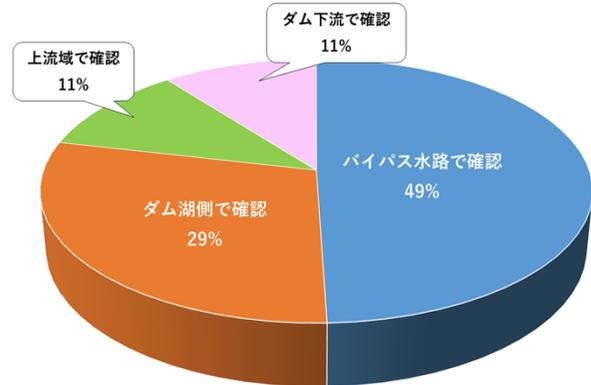
再採捕3回(5月～6月、7月～8月、9月～10月)

調査結果: 2地点ともに放流箇所が多く確認しているが、広く分散移動している。



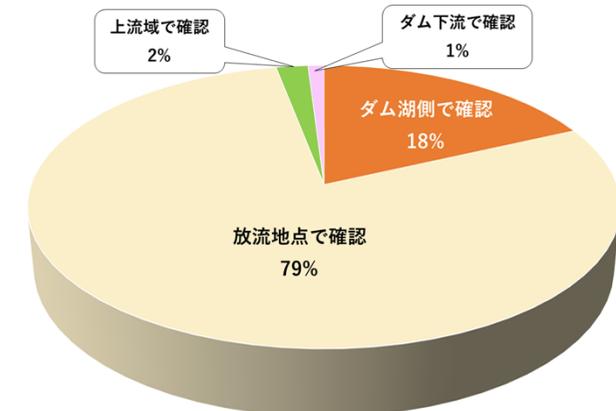
令和7年

本川との接続箇所 魚道部 (バイパス水路側) 標識魚



※再採捕尾数計285尾

本川との接続箇所 下流部 (ダム湖側) 標識魚



※再採捕尾数計198尾

本川との接続箇所 魚道部 (バイパス水路側) 標識魚

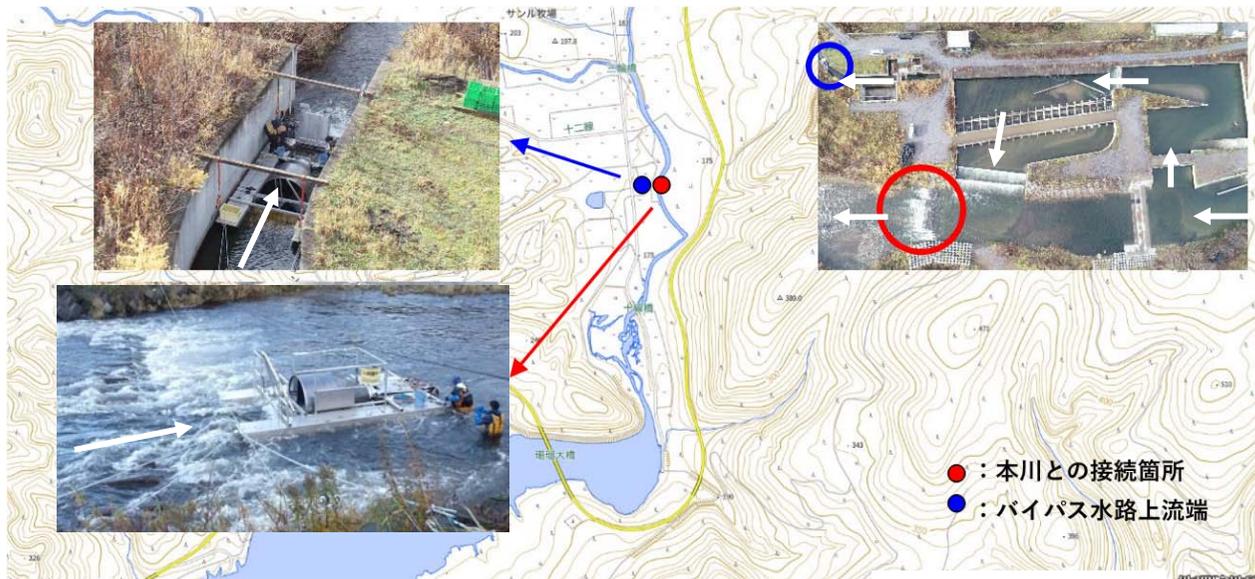
調査年度	放流尾数	調査月	(ダム下流域に移動)			(ダム湖側へ移動)		(上流域に移動)			(ダム湖側へ移動)			(バイパス水路を降下)				
			放牧地橋	ダム下流	一の沢川	ダム湖流入部	十線橋	本川との接続箇所下流	十二線川合流点	五穀橋	十二線川三輪橋	十三線沢川	七線の沢川	サンル川支流B	サンル川支流C	上流	中流	下流
R01	2,287尾	6月	(2)	-	-	(3)	-	-	-	-	(1)	-	-	-	-	-	-	-
		7月	-	7	-	-	-	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		10-11月	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
R02	523尾	6月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		7月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
		10-11月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R03	951尾	6月	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		7月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
		10-11月	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R04	533尾	6月	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-
		7月	-	2	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	6	-
		10-11月	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2
R05	3,375尾	6月	-	2	-	-	-	-	(2)	2	-	-	-	-	-	-	5	7
		7月	-	2	-	1	-	6	1	2	-	-	-	-	-	-	8	5
		10-11月	-	2	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	3	4
R06	2,983尾	6月	(1)	1	(1)	1	6	-	-	(1)	1	2	1	-	-	-	14	2
		7月	-	-	-	1	-	10	1	1	2	1	-	-	-	-	10	3
		10-11月	-	5	-	-	-	4	-	-	-	-	3	1	-	-	5	3
R07	1,199尾	6月	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	14	8
		7月	-	-	-	2	-	3	-	-	1	-	-	7	1	-	4	5
		10-11月	-	1	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	13	2	2	3
合計	11,851尾	-	(3)	26	(1)	8	(3)	41	(2)	4	11	(2)	5	7	8	73	40	28

本川との接続箇所 下流部 (ダム湖側) 標識魚

調査年度	放流尾数	調査月	(ダム下流域に移動)			(ダム湖側へ移動)		(上流域に移動)			(ダム湖側へ移動)			(バイパス水路を降下)				
			放牧地橋	ダム下流	一の沢川	ダム湖流入部	十線橋	本川との接続箇所下流	十二線川合流点	五穀橋	十二線川三輪橋	十三線沢川	七線の沢川	サンル川支流B	サンル川支流C	上流	中流	下流
R01	3,016尾	6月	-	-	-	(4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		7月	-	-	-	3	-	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		10-11月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R02	482尾	6月	-	-	-	1	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		7月	-	-	-	1	-	12	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
		10-11月	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
R03	843尾	6月	-	-	-	1	-	21	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
		7月	-	1	-	2	-	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		10-11月	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R04	140尾	6月	-	-	-	-	-	4	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
		7月	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		10-11月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R05	637尾	6月	-	-	-	(1)	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		7月	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		10-11月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
R06	731尾	6月	-	-	-	1	(2)	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		7月	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		10-11月	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R07	413尾	6月	-	-	-	2	(2)	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		7月	-	-	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		10-11月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
合計	6,262尾	-	2	-	16	(9)	156	-	1	2	1	(4)	4	(1)	1	1	1	

注1: ()内に示す数値は、別途調査(サクラマス幼稚魚生息密度調査)で確認された尾数を示す。
 注2: 空欄は、標識魚が採捕されなかった(0尾)ことを示す。また、「-」印及び灰色着色は、調査未実施であることを示す。

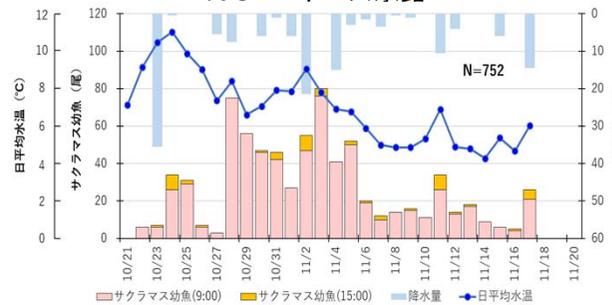
調査内容: スクリュートラップを用いてサクラマス幼魚を採捕する。
採捕時期: 10月21日～11月17日 9:00及び15:00の1日2回



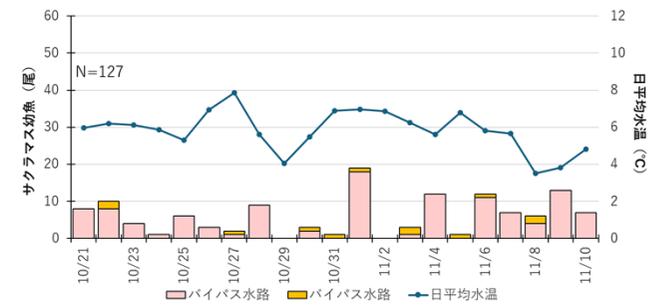
R7 サクラマス採捕状況



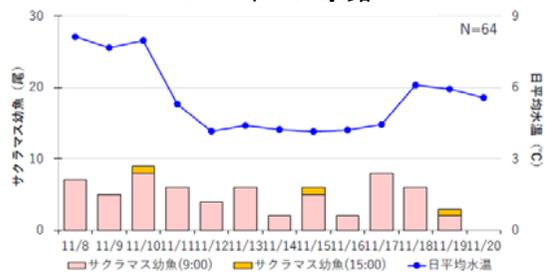
R6 バイパス水路



R7 バイパス水路



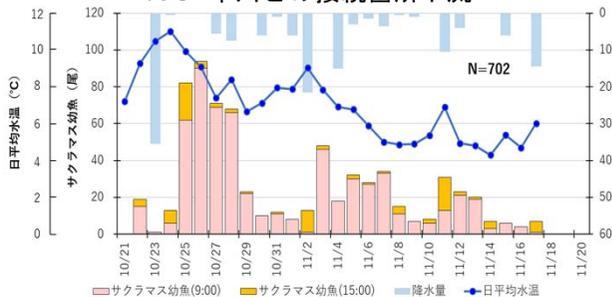
R5 バイパス水路



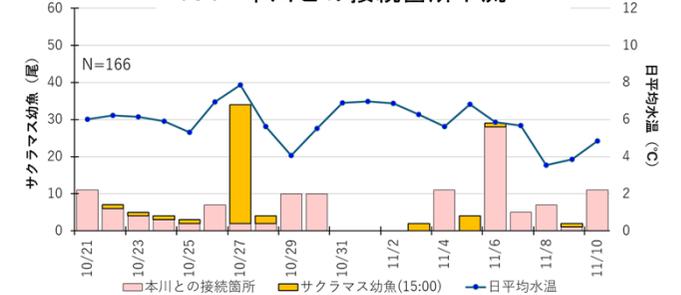
R5 本川との接続箇所下流



R6 本川との接続箇所下流



R7 本川との接続箇所下流



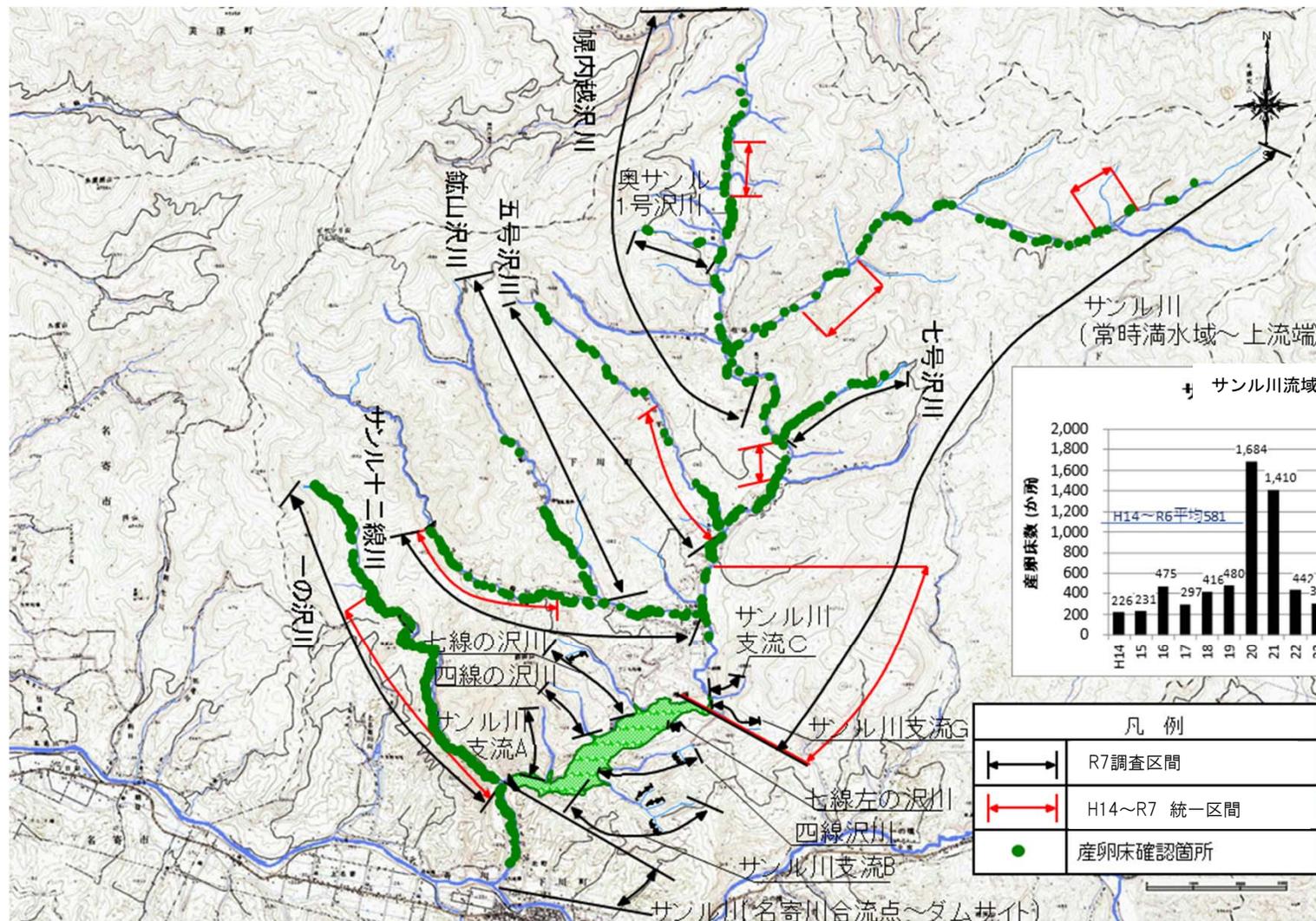
令和7年度

サクラマス遡上に関する調査・検討について

- 令和7年のサンル川流域におけるサクラマス産卵床の総確認数は1,353か所であり、そのうち平成14年～令和7年統一区間では688か所であった。

令和7年

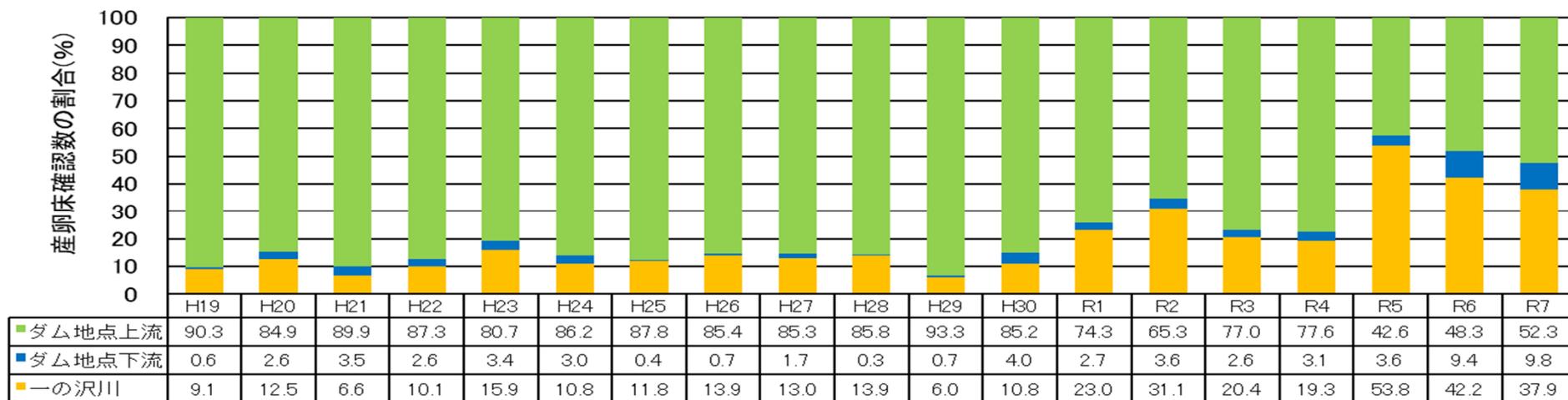
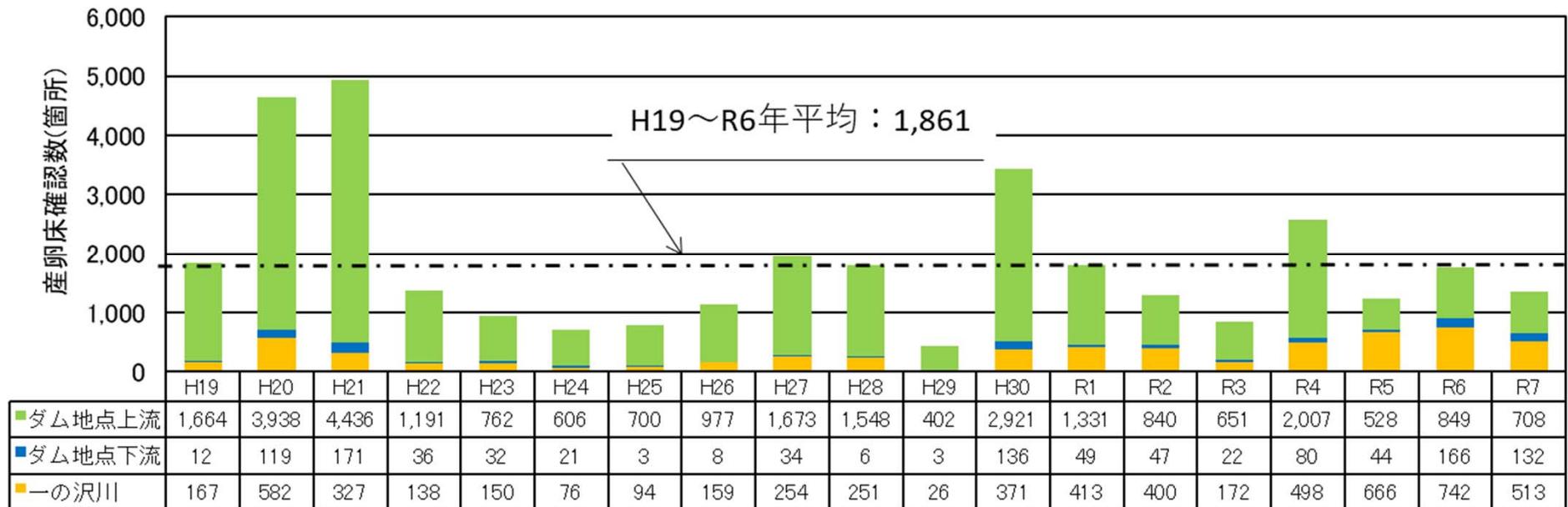
流域内の主な支流全域におけるサクラマス産卵床確認位置図



総産卵床確認数 1,353 か所

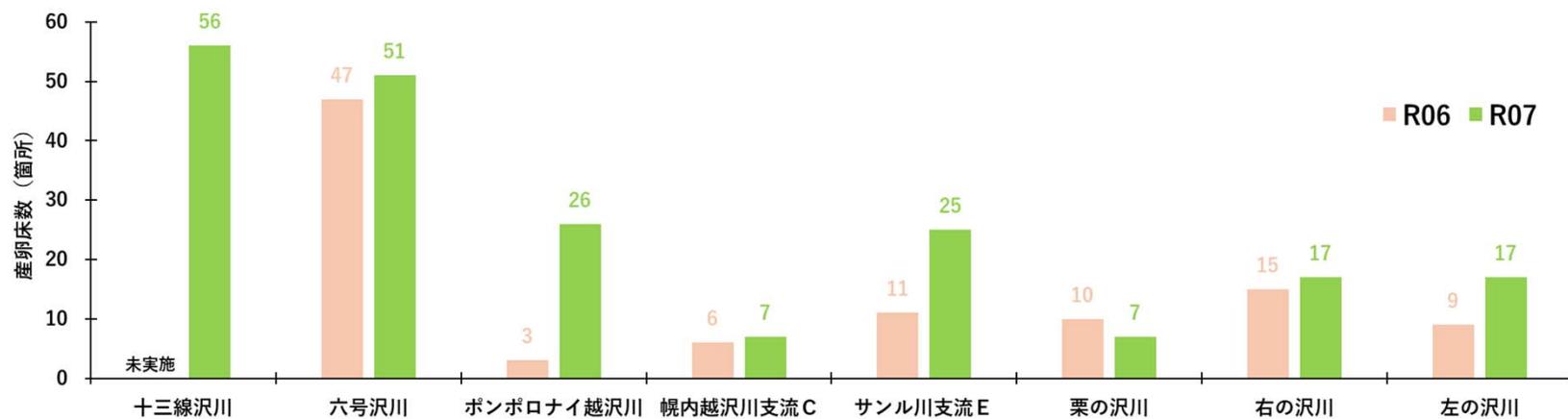
※平成14年～令和7年で同じ調査を行った区間の産卵床確認数 688 か所

- 令和7年のサンル川流域におけるサクラマス産卵床確認数は1,353か所となっており、ダム堤体より上流の産卵床数は708か所、ダム地点下流のサンル川における産卵床数は132か所、一の沢川での産卵床数は513か所であった。
- サンルダム管理開始後、一の沢川及びダム下流の産卵床数の割合がダム上流に対し増加している。
- 令和5年出水時に一の沢川から流出した土砂がダム下流に溜まり、それ以降一の沢川合流点付近に多数の産卵床を確認していることからダム下流の産卵環境が良くなったと考える。



- ・令和7年サンルダム上流域小川における産卵床調査結果は、206か所であった。
- ・令和6年未実施であった十三線沢川で56か所、多くの産卵床を確認した。

※本調査結果は本資料65ページ「過去のサクラマスの産卵床分布との比較について (総産卵床)」には含まれていない。



- ・5/1～10/10まで1,123尾(内訳:6月339尾、7月121尾、8月14尾、9月641尾、10月8尾)の遡上が確認され、9/15は、291尾と今期、最も多くの遡上が確認された。
- ・7/16降雨により一の沢川の流量増加が見込まれたため、発電放流量 $3.0\text{m}^3/\text{s}$ → $5.0\text{m}^3/\text{s}$ に増加させ3尾遡上を確認、一の沢川流量は降雨により $0.2\text{m}^3/\text{s}$ → $0.3\text{m}^3/\text{s}$ に増加した。

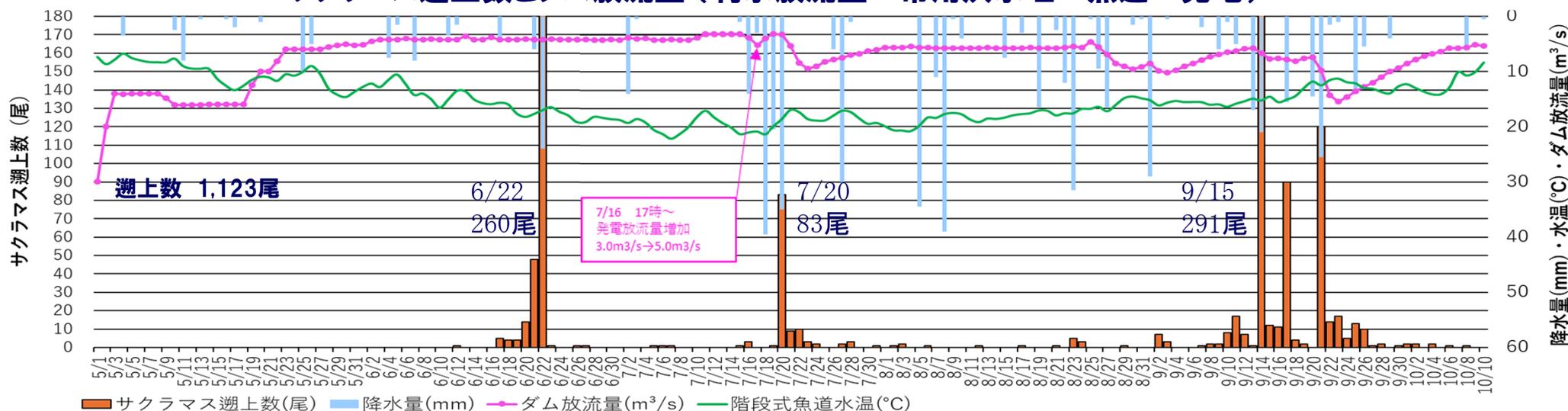
【過去の遡上数】

R6年度	889尾	(6/1～10/10までの総数)
R5年度	835尾	(6/1～10/10までの総数)
R4年度	1,946尾	(5/18～10/10までの総数)
R3年度	514尾	(4/30～10/10までの総数)
R2年度	621尾	(4/27～10/10までの総数)
R1年度	861尾	(4/29～10/10までの総数)

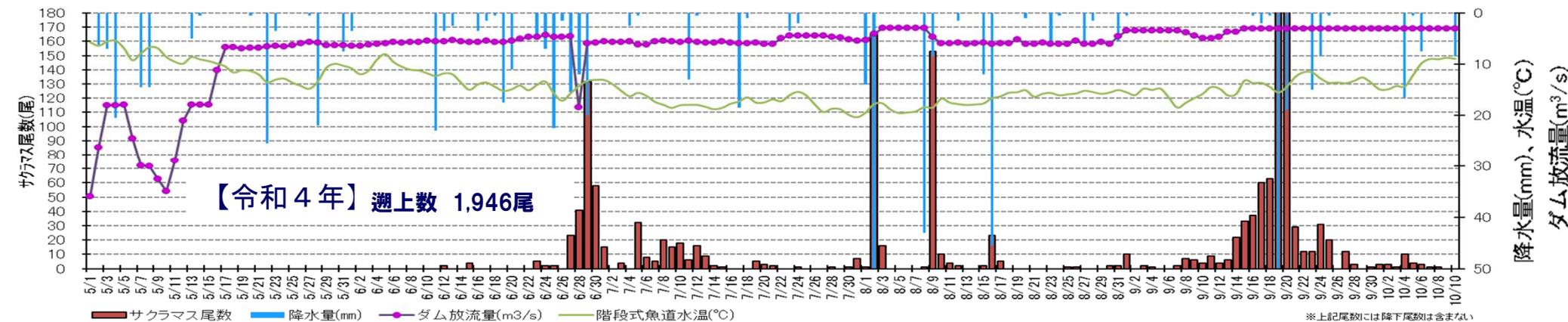
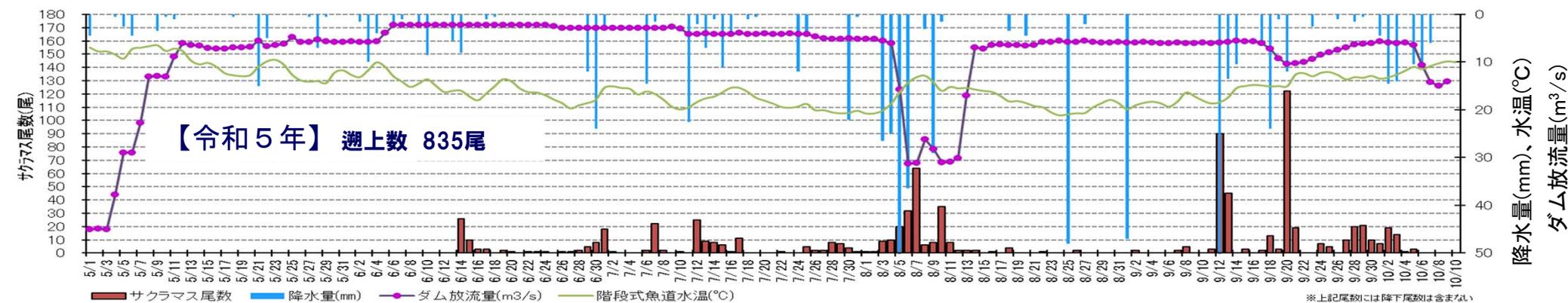
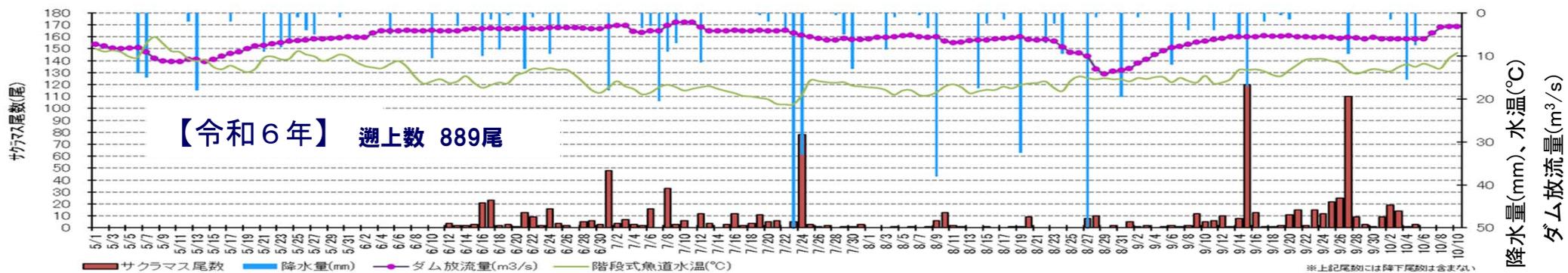


【ビデオカメラ設置箇所】

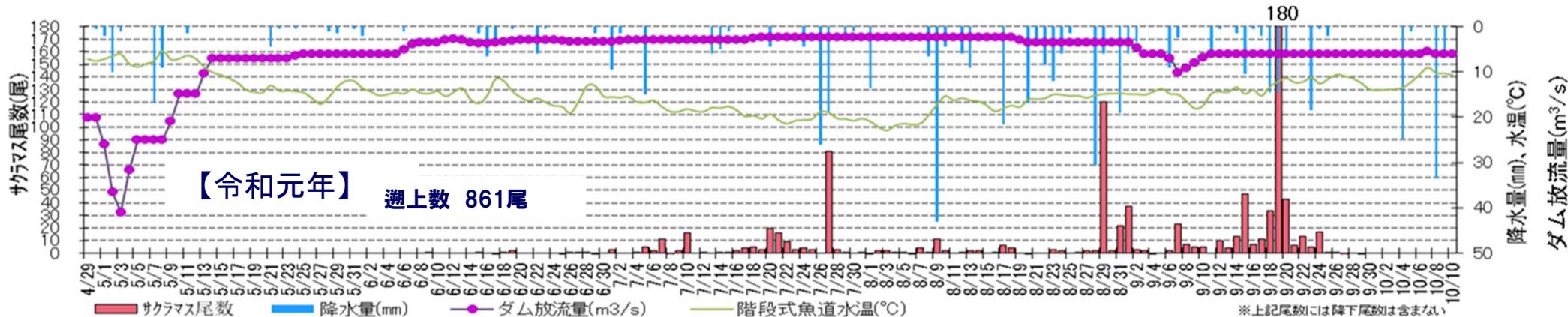
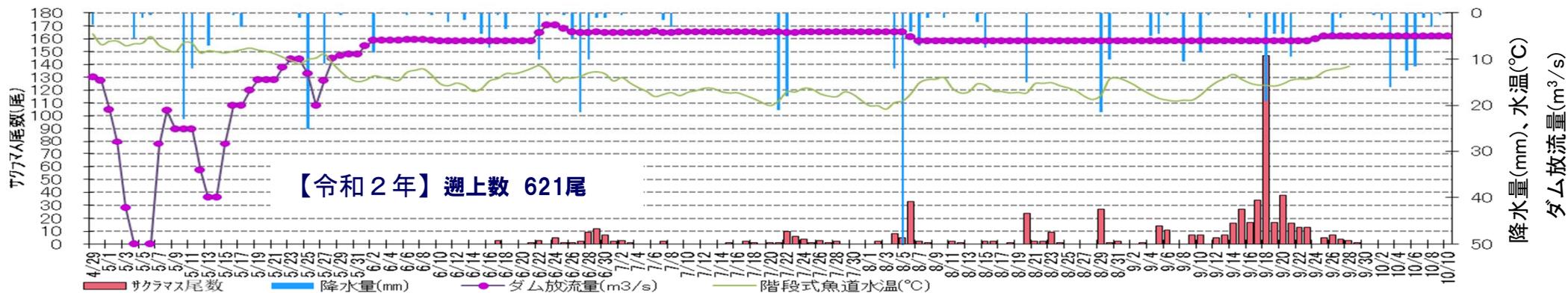
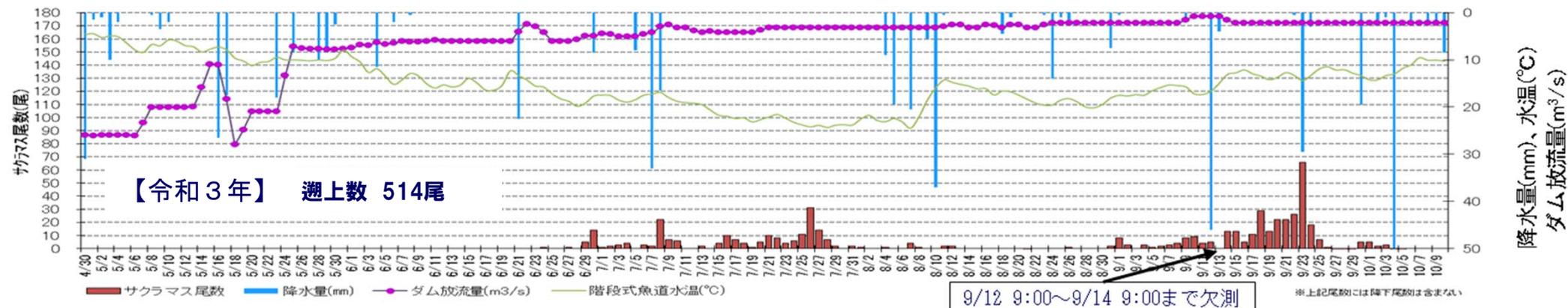
【令和7年】 サクラマス遡上数とダム放流量（利水放流量＋常用洪水吐＋魚道＋発電）



サクラマス遡上数とダム放流量（利水放流量＋常用洪水吐＋魚道＋発電）



サクラマス遡上数とダム放流量（利水放流量＋常用洪水吐＋魚道＋発電）



サクラマス親魚遡上行動調査(電波追跡)

調査目的: 魚類保全施設を遡上するサクラマス親魚の遡上行動を把握する。

調査内容: ダム下流約1km地点で放流した親魚による遡上行動調査(電波発信機15尾・ピットタグ15尾)

調査結果: 供試魚計30尾を放流した結果

- サンプルダム上流域に遡上した個体、13尾
- 一の沢川上流に遡上した個体、10尾
- サンプルダム下流域、3尾
- 名寄川、1尾
- 不明、3尾



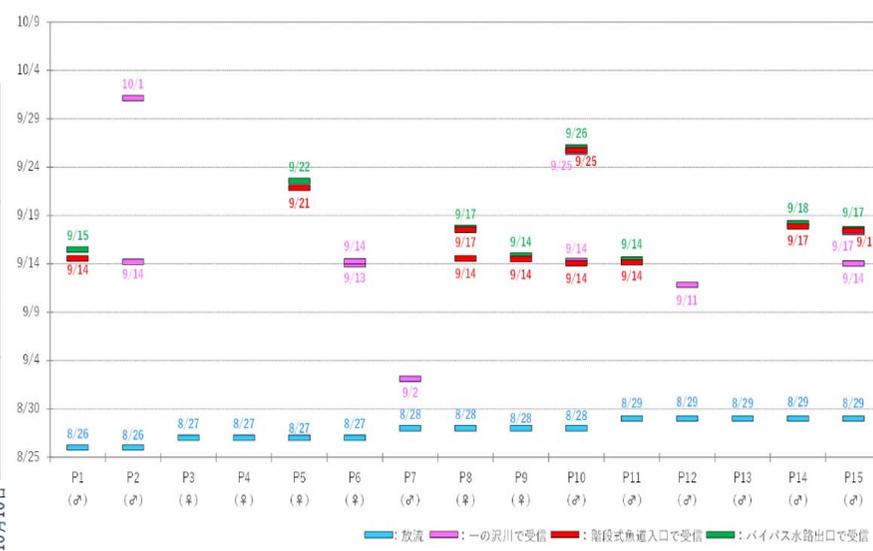
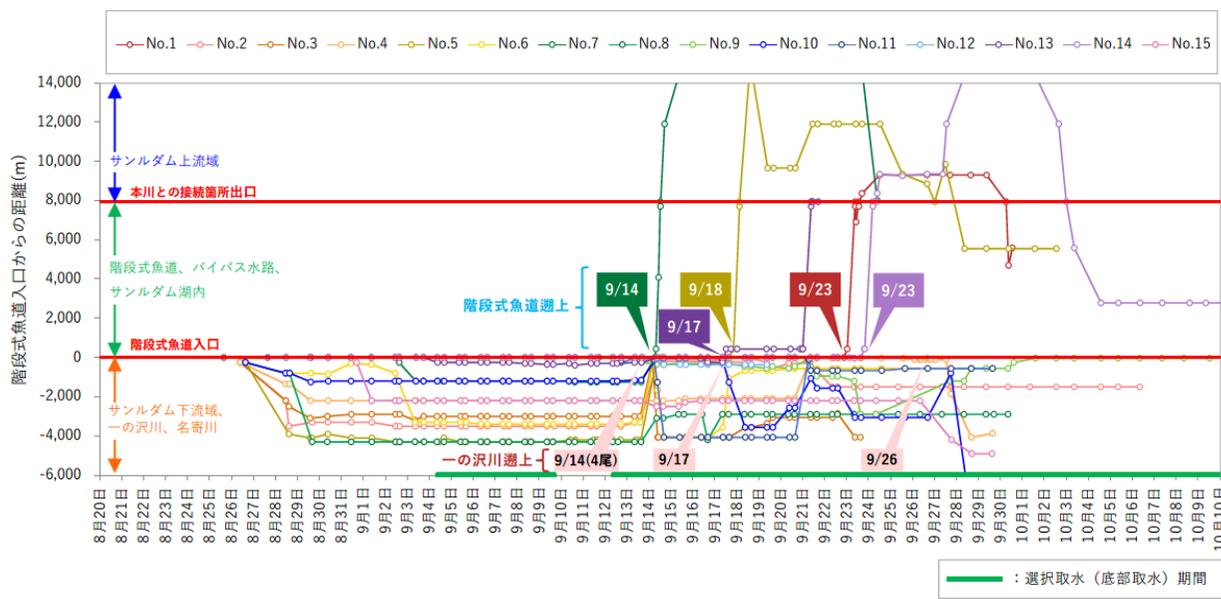
電波発信機



ピットタグ



調査地点



ピットタグ装置魚の受信状況

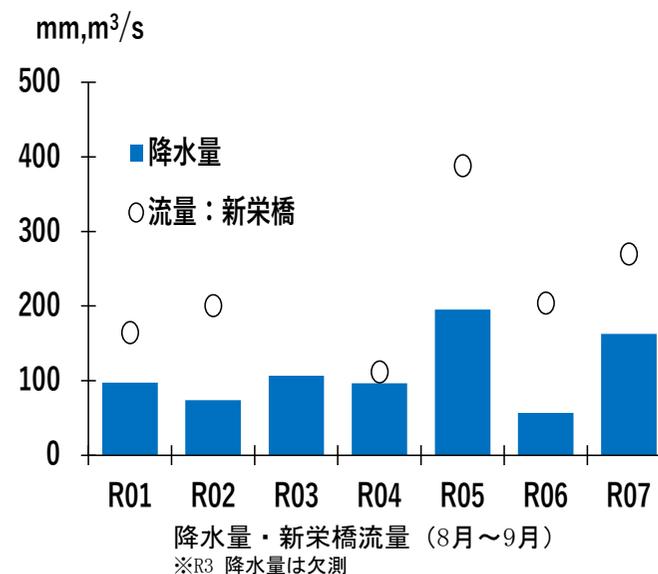
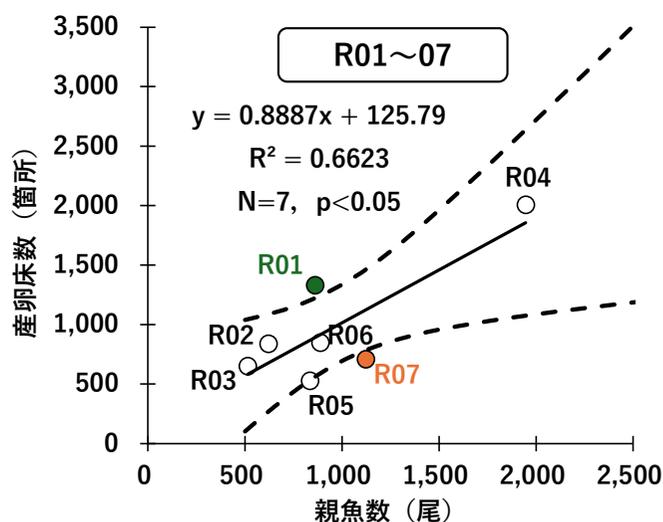
【令和7年サナル川流域でのサクラマス産卵床分布調査結果について】

- ・令和7年のサナル川流域におけるサクラマス産卵床確認数は、1,353箇所、統一区間において 688箇所であった。
- ・サナルダム管理開始後、一の沢川及びダム下流の産卵床数の割合がダム上流に対し増加している。

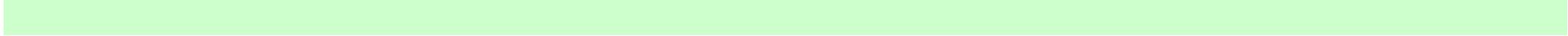
【令和7年サクラマス遡上調査(ビデオカメラによる遡上数確認調査)結果について】

- ・ダム堤体上流に設置したカメラ撮影の結果、1,123尾のサクラマス親魚の遡上を計測した。
- ・9月15日に1日当たりの最多遡上数として291尾、6月22日に260尾の遡上を計測し、ともに30mm程度の降雨を観測している。

- ・産卵床数は、年変動が大きくダム管理以降もその傾向に変わりはない。
- ・産卵床数割合について、ダム管理以降、ダム上流域で減少、一の沢川で増加傾向にあり、令和5年以降は一の沢川に加えてダム下流域も増加傾向にある。
- ・親魚遡上数とダム上流域産卵床数との関係について、正の相関が得られ、令和元年及び7年が信頼幅から、わずかに外れた。また、ダム上流域の産卵床数割合が、最低値を示した令和5年は信頼区間下限に位置している。
- ・引き続き親魚のより良い遡上環境の創出として、選択取水による低水温帯の放流や降雨増水に併せた放流量調整等に取り組む。



- サクラマス遡上調査の結果、令和7年遡上のピークは、6月22日、9月15日であり、親魚遡上数は1,123尾、過去2番目となった。
- サンプル川流域(統一範囲)の令和7年産卵床数は、過去の平均以上の688箇所が確認された。
- 今後も引き続き魚道施設を含めたモニタリング調査を実施し、必要に応じた順応的対応を行っていくこととする。



令和7年度

湖沼型サクラマスに関する調査結果

令和7年度の調査内容 (例年通り)

- ・調査地点：ダムサイト・湖心部・流入部の3地点
- ・調査時期：2回(夏：7/28~29、秋：9/29~30)
- ・調査方法：各地点に刺網(目合33mm・45mm・60mmの3種類)を1晩設置



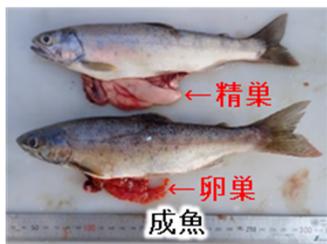
刺網による採捕



刺網による採捕



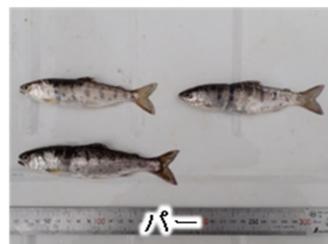
水温・DO鉛直観測



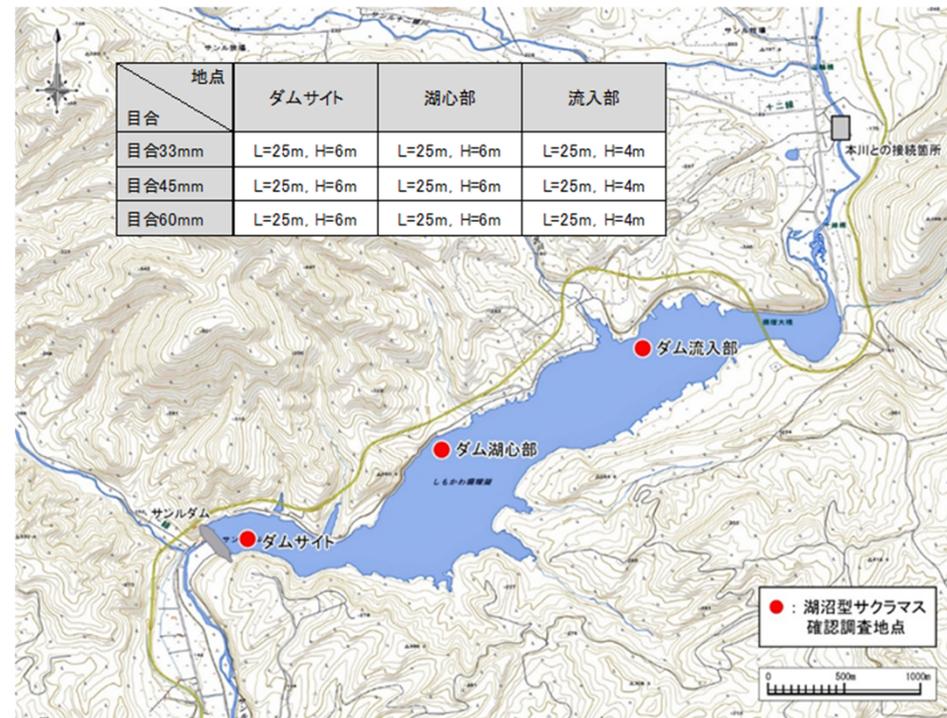
成魚



未成魚



パー

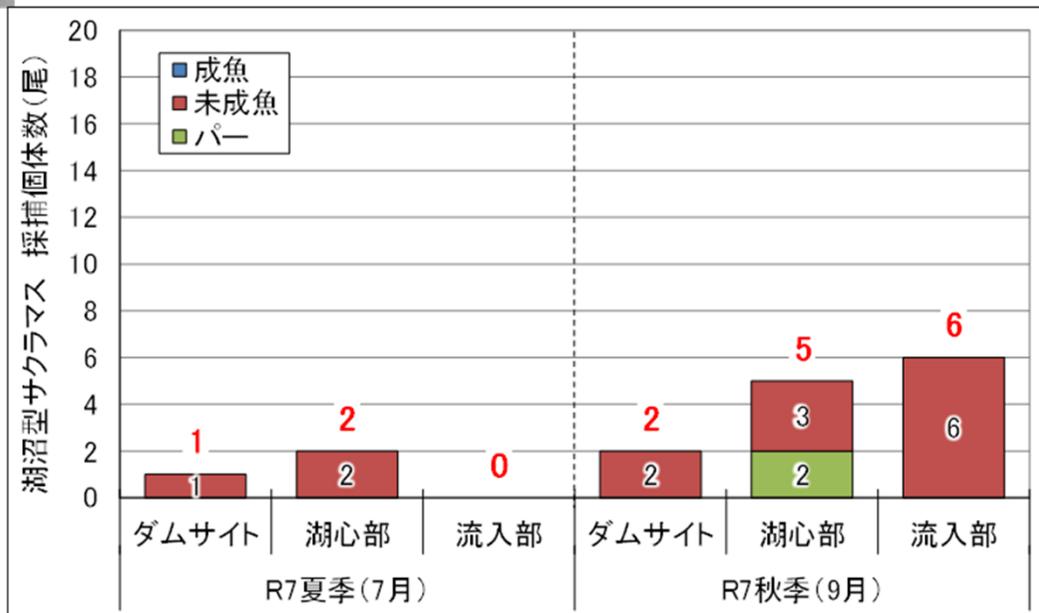


湖沼型サクラマス確認調査地点

令和7年度の湖沼型サクラマス確認結果

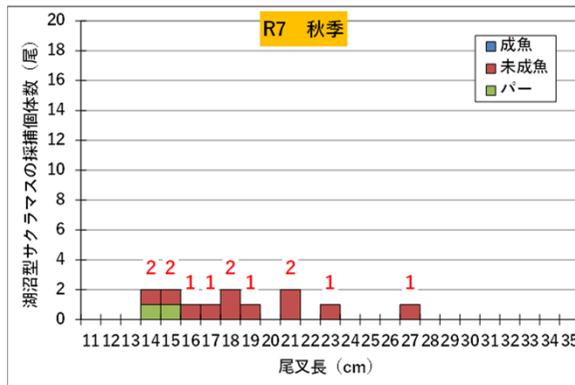
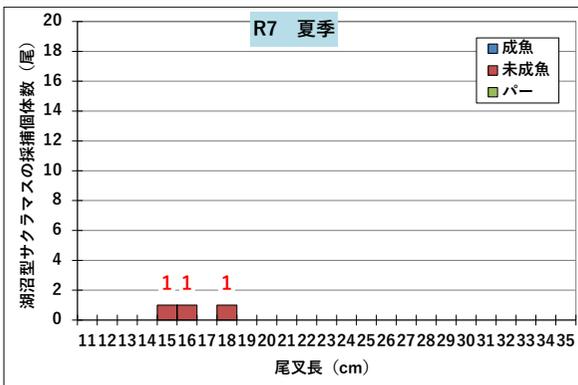
- ・夏：未成魚3個体を捕獲。成魚は捕獲されず。
- ・秋：未成魚11個体・パー2個体の計13個体を捕獲。

R7採捕結果	ダムサイト		湖心部		流入部		合計
	夏	秋	夏	秋	夏	秋	
ギンブナ					5		5
エゾウグイ	113	49	148	84	20	47	461
ウグイ	92	27	240	90	6	21	476
アメマス		1		1			2
ニジマス	6	2		1			9
湖沼型サクラマス	成魚						0
	未成魚	1	2	2	3		6
	パー				2		2
個体数 合計	212	81	390	181	31	74	969
	293		571		105		
種数	4種	5種	4種	5種	3種	3種	6種
	5種		5種		4種		

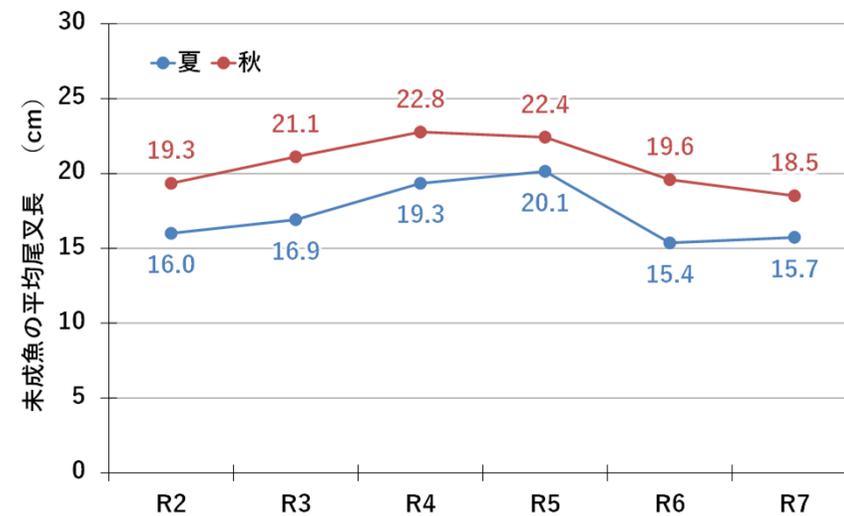


湖沼型サクラマスの体長（尾叉長）組成

- ・尾叉長は夏に平均15.7cm（14.8～17.1cm）、秋で18.5cm（14.0～26.7cm）であり、約3cmの成長がみられた。

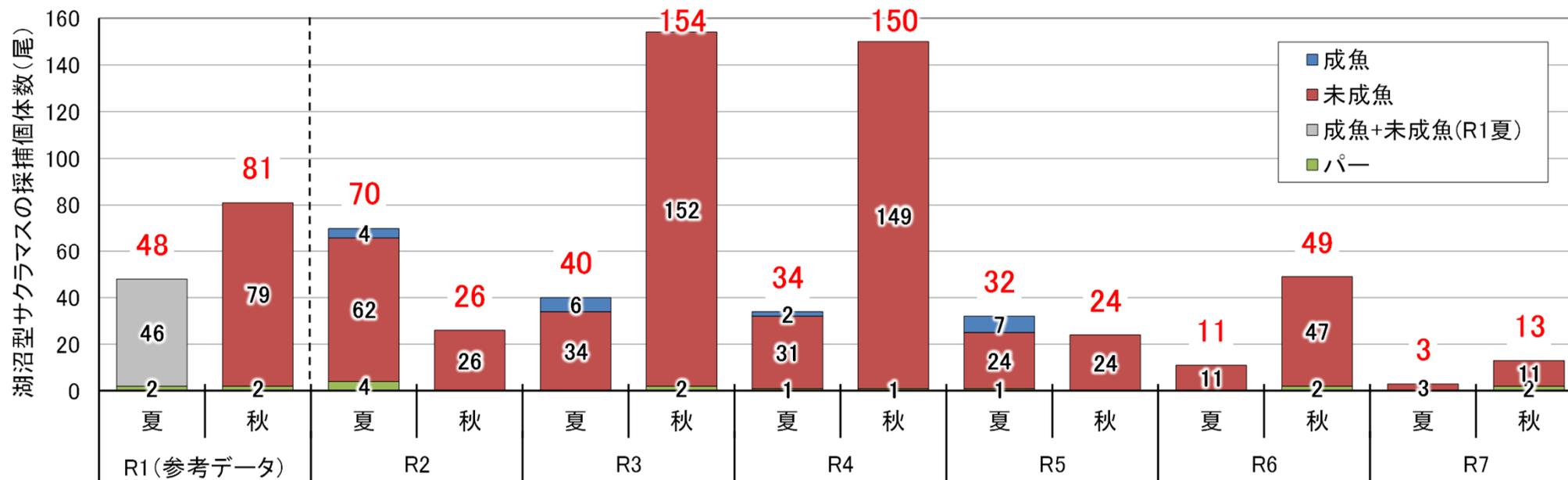


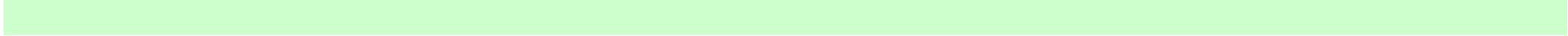
湖沼型サクラマス（未成魚）の平均尾叉長の経年変化



湖沼型サクラマスの経年確認状況

- ・湖沼型サクラマスは令和3年・4年の秋に多く確認されたが、令和5年以降は低位で推移している。
- ・令和7年の湖沼型サクラマス採捕数は夏・秋合わせて**16個体**であり、**これまでで最も少ない採捕数であった**





令和7年度

**サンル川流域におけるカワシンジュガイ類の保全に関する
調査結果**

1)調査概要

平成29年度までに移植したカワシシユガイ類について、移植地代表地点への定着状況を把握するため、生息状況等を確認した。

- ・幼生放出試験
- ・生息状況調査



●生息状況調査

調査対象種	河川名	調査地点	過年度の調査実施状況・次回調査予定									調査メッシュ数	
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	R3	R7		R10
カワシシユガイ	サンル川	第2号樋門下流右岸					○	○	○	○	○		5×20m=100メッシュ
コガタカワシシユガイ	モサンル川	モサンル川中流部	○	○	○	○	○			○	○		3×18m=54メッシュ

※3年に1回の頻度でモニタリング実施（令和5年1月22日アドバイザー聞き取り情報より）

※○：実施状況

2) 幼生放出試験調査方法

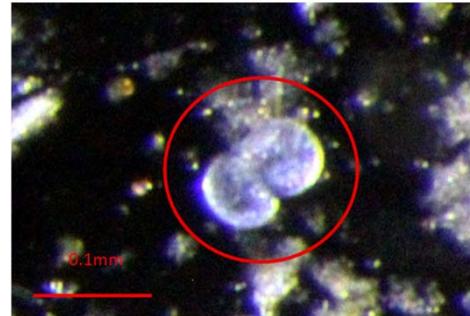
開口器を使用して、育児囊の成熟具合を確認し、供試個体とした。

「酸素刺激によるグロキディウム幼生放出法」にて試料を採取し、顕微鏡による観察を行った。

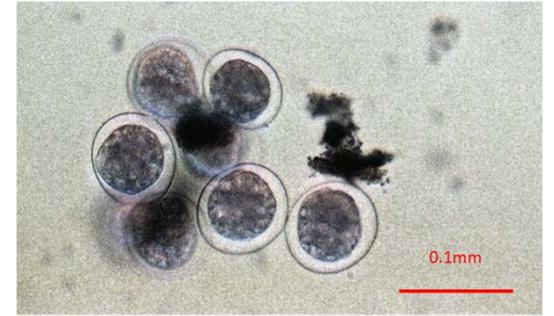
育児囊



酸素刺激による幼生放出法 カワシンジュガイのグロキディウム幼生



コガタカワシンジュガイの卵



3) 幼生放出試験調査結果

コガタカワシンジュガイの卵及びカワシンジュガイのグロキディウム幼生を確認した。

卵及び幼生について維持されていることが確認されたため、令和8年以降の調査は当面休止する。

カワシンジュガイ(サンル川)

※ × 無し・△ 少ない・○ 中・◎ 多い

実施回	R7(2025)			R3(2021)			H28(2016)		
	調査日	卵の確認	幼生の確認	調査日	卵の確認	幼生の確認	調査日	卵の確認	幼生の確認
1回目							6/1~2	×	×
2回目							6/9~10	×	×
3回目							6/16~17	△	×
4回目							6/27~28	◎	×
5回目	7/1	×	◎	7/1	△	◎	7/4~5	○	◎
6回目	7/11	×	△	7/12	×	◎	7/12~13	×	◎
7回目	7/28	×	×	7/21	×	△	7/20~21	×	◎
8回目							7/27~28	×	×

コガタカワシンジュガイ(モサンル川中流) ※ × 無し・△ 少ない・○ 中・◎ 多い

実施回	R7(2025)			R3(2021)			H28(2016)		
	調査日	卵の確認	幼生の確認	調査日	卵の確認	幼生の確認	調査日	卵の確認	幼生の確認
1回目							4/7~8	×	×
2回目							4/18~19	△	×
3回目							4/25~26	○	×
4回目	5/1	△	×	5/6	○	×	5/9~10	○	×
5回目	5/15	○	×	5/18	○	◎	5/16~17	◎	△
6回目	5/27	×	×	5/31	×	×	5/25~26	◎	◎
7回目							6/1~2	×	○
8回目							6/9~10	×	×

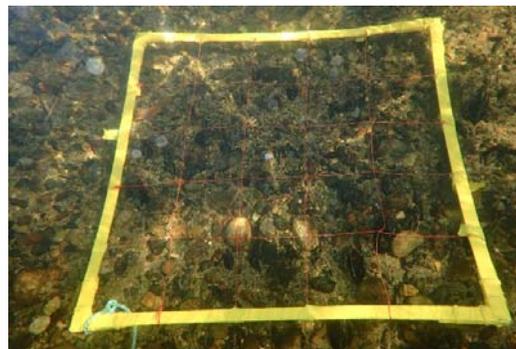
4) 生息状況調査方法

縦横断方向に1m×1mメッシュを設定、目視確認により採集し、種の同定、個体数及び標識の有無、生死を確認。

調査状況



水中写真



標識個体



無標識個体

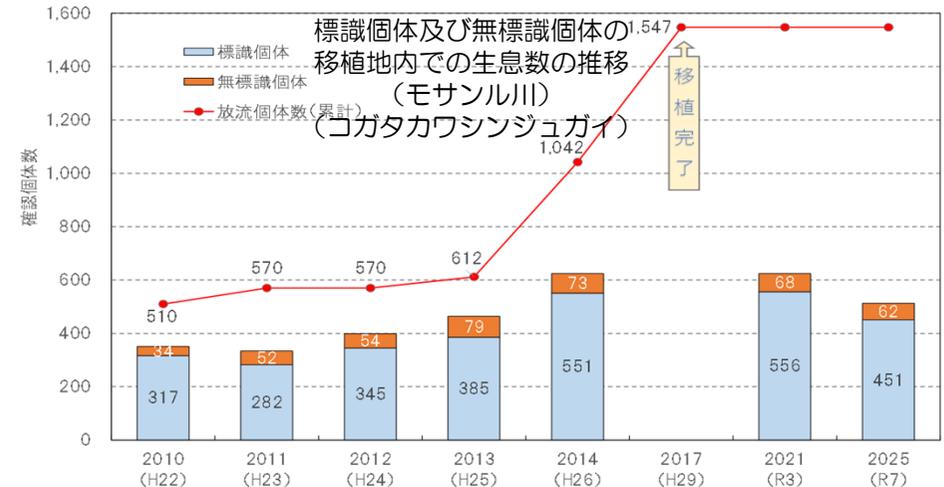
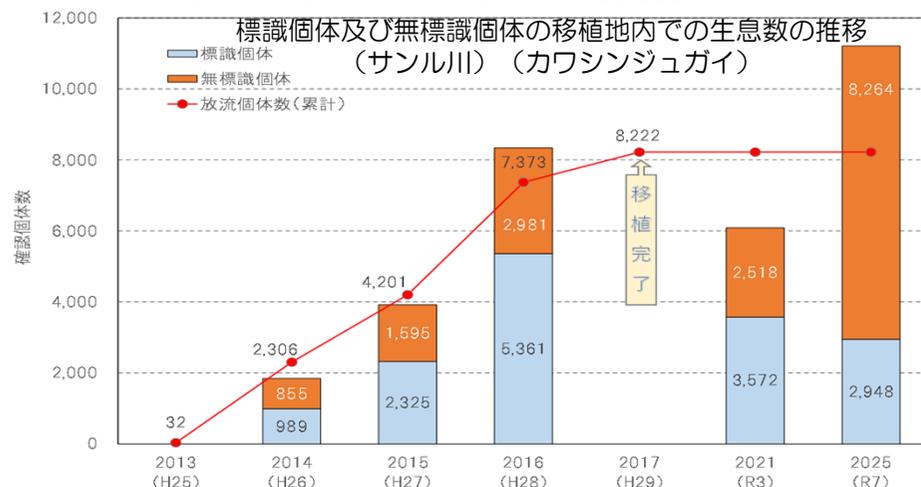


5) 幼生放出試験調査結果

サンル川第2号樋門下流右岸(カワシンジュガイ)移植地にて標識個体2,948個体(移植個体の約35%)の生息を確認。無標識の個体が8,264個体と大幅に増加し、移植地内への周辺個体の移入や再生産によるものと推察された。移植地は、無標識個体を含めた個体群の生息地としても良好に機能している。

モサンル川中流(コガタカワシンジュガイ)移植地にて標識個体451個体(移植個体の約30%)の生息を確認した。無標識62個体を含めやや減少傾向にあるが、無標識個体を含め、個体群が維持されていることを確認した。

このため、令和8年以降の調査は当面休止する。



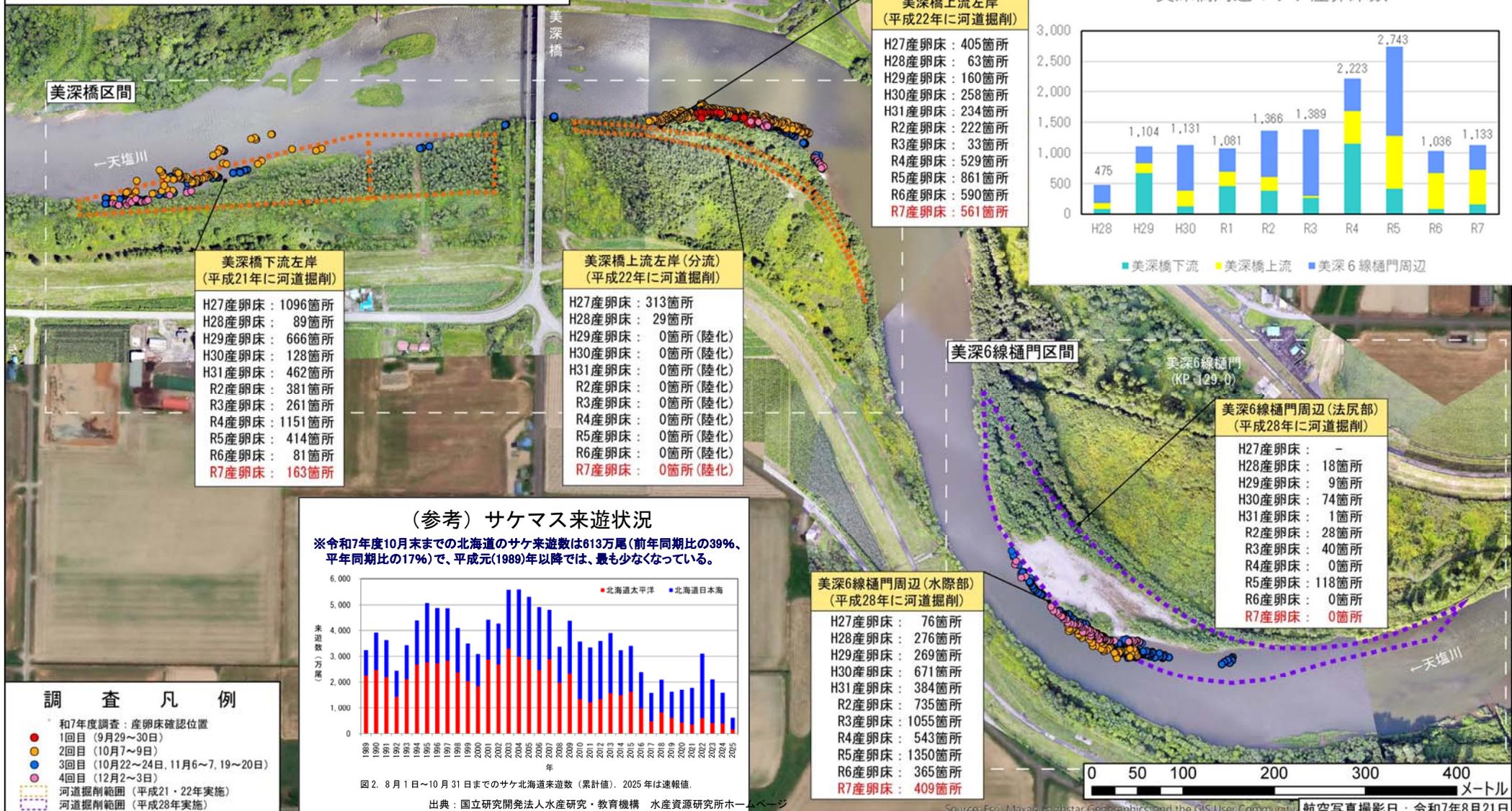
美深橋周辺(河道掘削箇所)におけるサケの産卵状況



令和7年9月29日～12月3日の期間に美深橋周辺においてサケ産卵床調査を実施した結果、合計で1,133箇所を確認しており、令和6年(1,036箇所)と比べ109%（令和5年度と比べると41%）となり、美深6線樋門周辺で増加(365→409箇所)、美深橋下流左岸で増加(81→163箇所)した。

●サケ産卵床：美深橋下流で163箇所、上流で561箇所（うち水際側で561箇所、分流側で0箇所）を確認し、平成28年度に河道掘削した上流の美深6線樋門周辺では409箇所確認し、令和7年度の美深橋周辺でのサケ産卵床確認数は合計で1,133箇所確認した。

令和7年度 美深橋周辺 サケ産卵床 分布確認状況



【美深橋下流左岸】

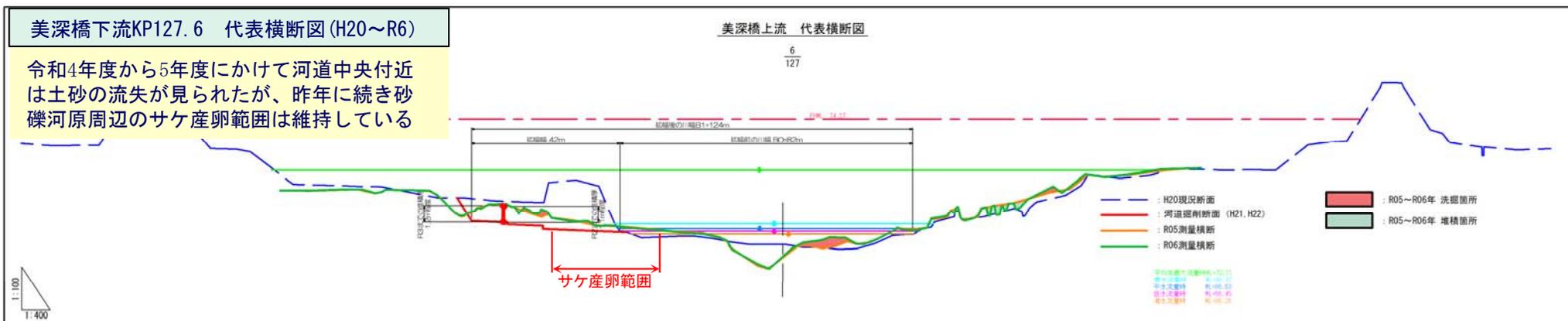
- 平成28年8月台風による出水等で埋没・陸化した平瀬は、平成29年の融雪出水で堆積土砂がフラッシングされて以降、大きな堆積は生じていない状況である。
- 令和7年は、水際周辺においてサケの産卵に適した礫石（浮き石）環境を維持していた。



美深橋下流KP127.6 代表横断面図 (H20～R6)

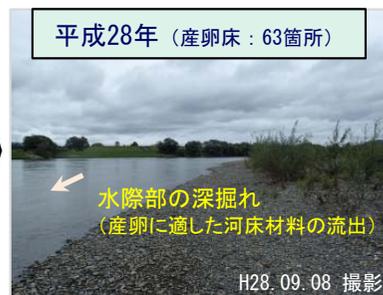
令和4年度から5年度にかけて河道中央付近は土砂の流失が見られたが、昨年に続き砂礫河原周辺のサケ産卵範囲は維持している

美深橋上流 代表横断面図



【美深橋上流左岸】

- 平成28年8月台風による出水以降、土砂堆積および礫州の広範囲でヤナギの樹林化が生じている。
- 令和5年の融雪出水以降、水際から流心方向にかけて土砂堆積によりサケの産卵範囲が拡大し、令和7年度もサケの産卵に適した礫石（浮き石）環境を維持していた。

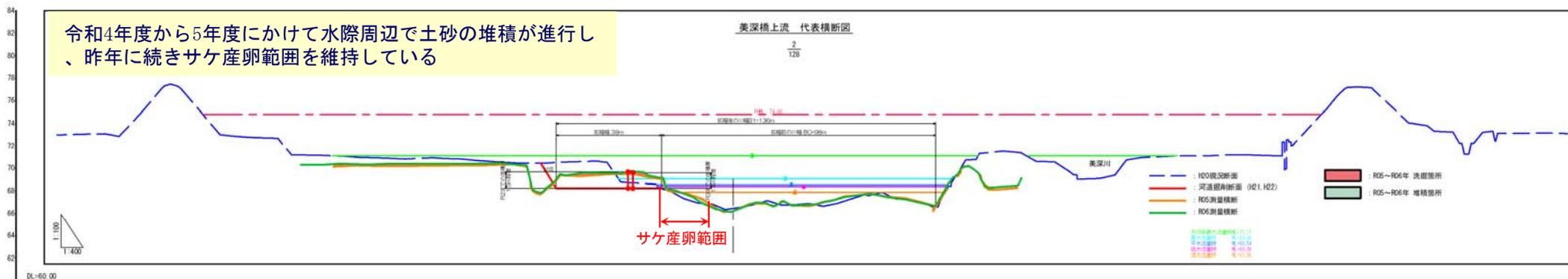


美深橋下流KP128.2 代表横断面図（H20～R6）

令和4年度から5年度にかけて水際周辺で土砂の堆積が進行し、昨年に続きサケ産卵範囲を維持している

美深橋上流 代表横断面図

2/128

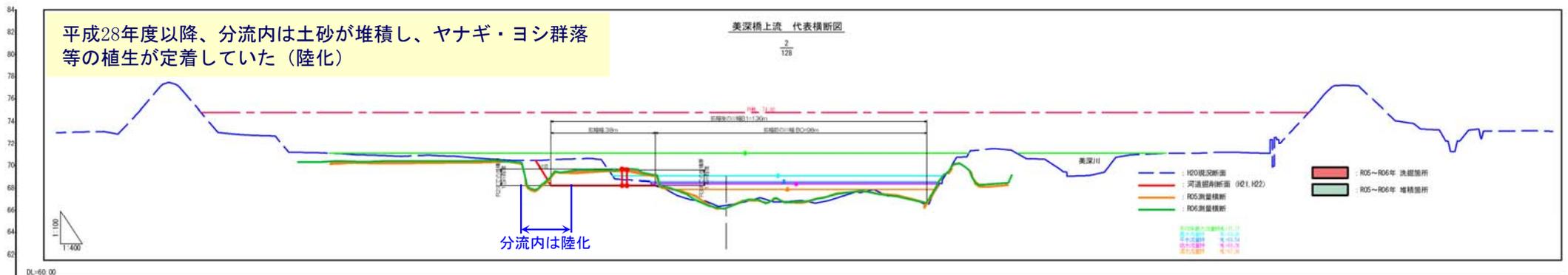


【美深橋上流左岸（分流内）】

●蛇行部内岸側に位置する美深橋上流の分流内では、細粒分の土砂堆積が進行し陸化・植生の定着が著しいため、平成29年以降はサケの産卵場としては利用されていない。



美深橋下流KP128.2 代表横断面図（H20～R6）

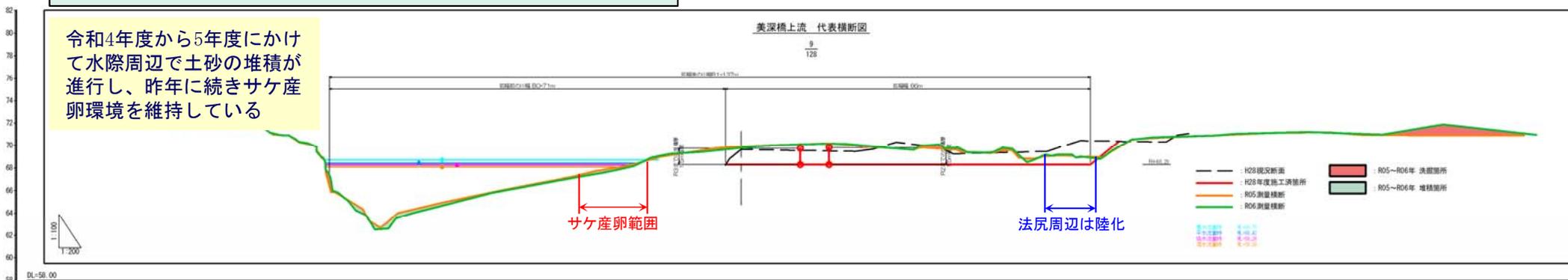


【美深橋上流右岸（美深6線樋門周辺）】

- 平成28年8月台風による出水以降、土砂堆積および一部でヤナギ樹林化が生じている。
- 令和7年の融雪出水以降、水際から流心方向及び下流方向にかけて土砂堆積によりサケの産卵範囲が拡大し、令和7年度もサケの産卵に適した礫石（浮き石）環境を維持していた。

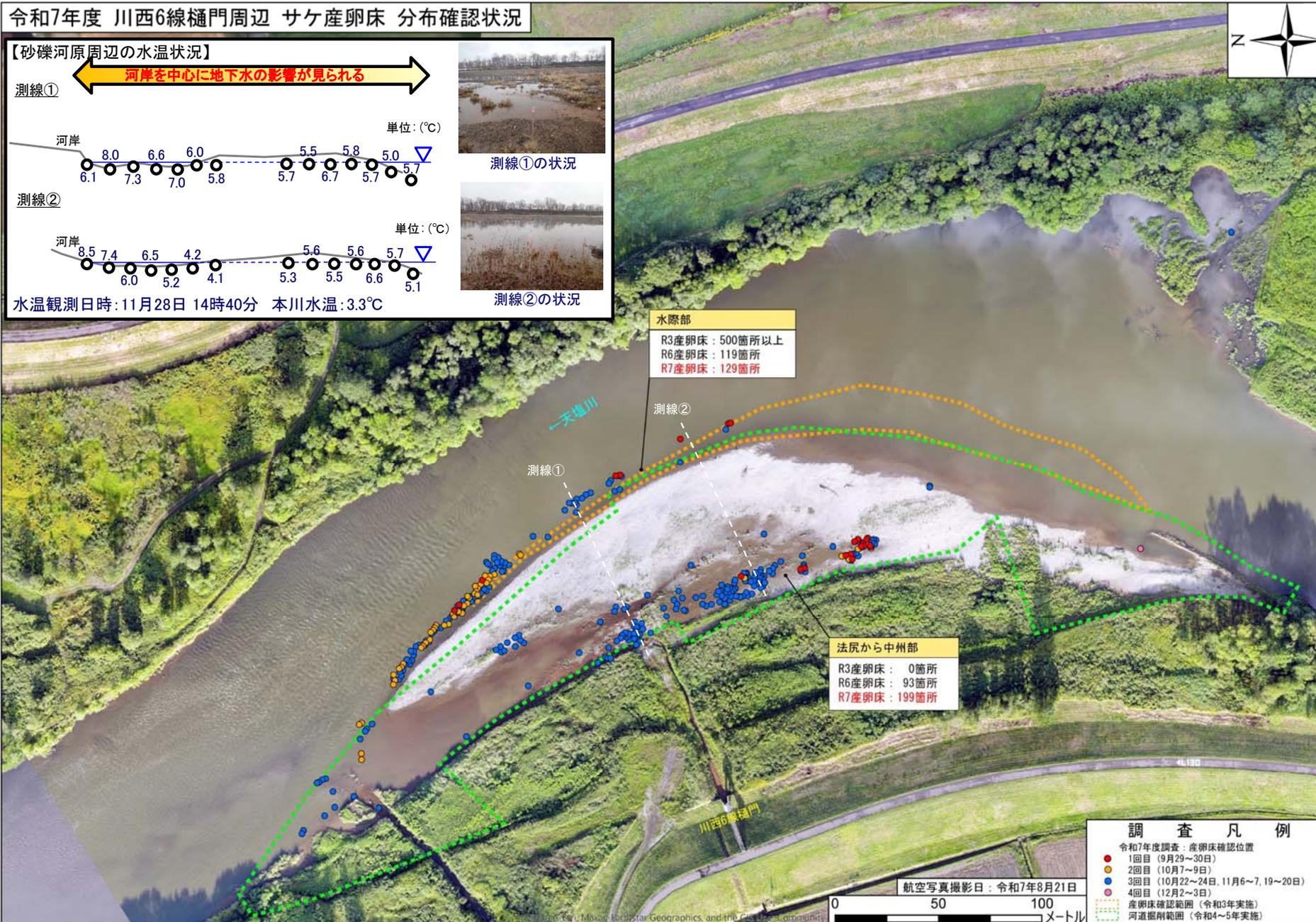
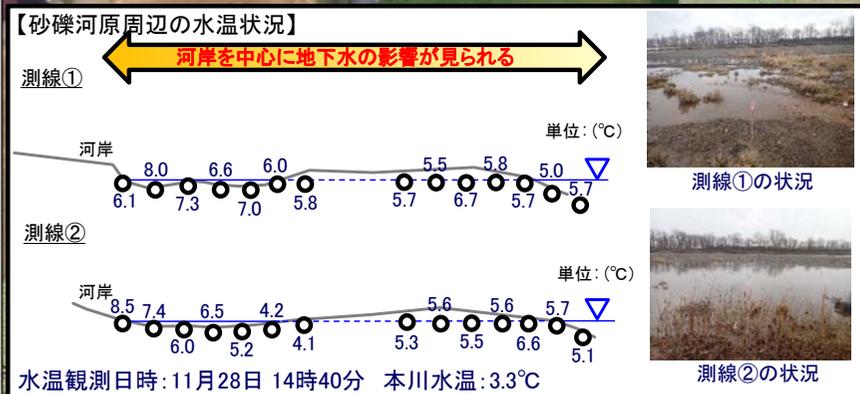


美深橋上流右岸（美深6線樋門周辺） KP128.9 代表横断面図 (H28～R6)



令和7年9月29日～12月3日の期間に川西6線樋門周辺においてサケ産卵床調査を実施した結果、合計で328箇所を確認し、令和6年(212箇所)と比べ155%であった。令和3年度までは水際部のみで産卵を確認していたが、令和6年度以降は法尻から中州部においても礫石(浮き石)環境を中心に産卵を確認した。

令和7年度 川西6線樋門周辺 サケ産卵床 分布確認状況



● サケ産卵環境の評価項目

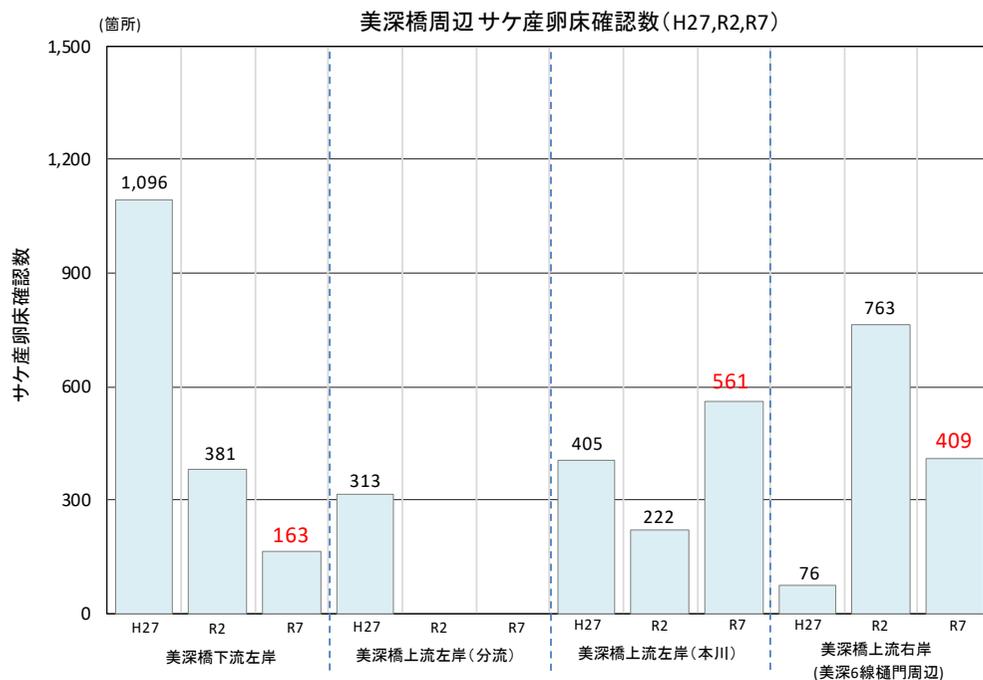
- ・施工後におけるサケ産卵床数に変化について
- ・施工後における産卵基盤となる河床材料の変化について

● 評価する際の比較対象年

- ・調査開始当初(平成27年度)、令和2年(掘削見直し検討実施年)、令和7年(直近の調査年)の3ヵ年の変化で比較を行った。

▶ 施工後におけるサケ産卵床数の変化について

平成27年度 : 1890箇所(美深橋下流左岸1096箇所、上流左岸(分流) 313箇所、上流左岸(本川)405箇所、上流右岸76箇所)
 令和2年度 : 1366箇所(美深橋下流左岸381箇所、上流左岸(分流) 0箇所、上流左岸(本川) 222箇所、上流右岸763箇所)
 令和7年度 : 1133箇所(美深橋下流左岸163箇所、上流左岸(分流) 0箇所、上流左岸(本川) 561箇所、上流右岸409箇所)
 ⇒施工箇所では年変化がある中、毎年1000箇所以上の産卵床数を維持している



産卵が集中していた環境



平成27年：美深橋下流左岸



平成27年：美深橋上流(分流)



令和2年：美深橋上流右岸



令和7年：美深橋上流左岸

▶施工後におけるサケ産卵床数の変化について

令和3年度【施工前】：500箇所以上(法尻部～中州0箇所、水際部500箇所以上)

令和6年度【施工後】：212箇所(法尻部～中州93箇所、水際部119箇所)

令和7年度【施工後】：328箇所(法尻部～中州199箇所、水際部129箇所)

⇒施工後において砂礫河原の形成が見られ、法尻から水際に至る広範囲にわたりサケの産卵が確認されている。
引き続き産卵床数・河床材料の変化等に留意し、継続的なモニタリングを実施しその結果を踏まえた評価を行う。

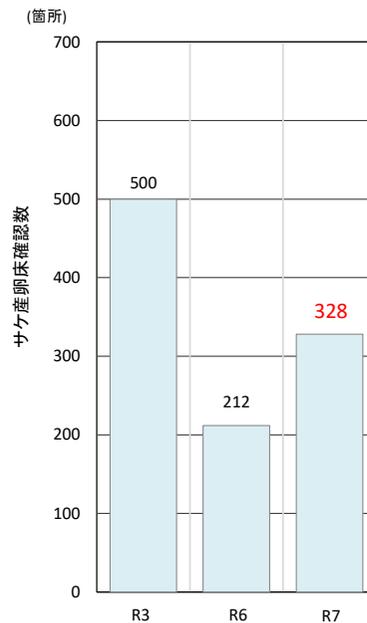


令和3年11月5日撮影：掘削前の河川状況



令和7年8月21日撮影：直近の河川状況

川西6線樋門周辺 サケ産卵床確認数
(R3,R6,R7)



産卵が集中していた環境



令和3年：掘削前の水際部



令和6年：掘削後の水際部



令和7年：掘削後の法尻部



令和7年：掘削後の水際部